
なんで娘（あたし）が後始末w・・・orz 【異世界編】

M2-1015

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なんで娘が後始末w・・・orz 【異世界編】

【Nコード】

N7490W

【作者名】

M2-1015

【あらすじ】

偉い神様が壊れかけた2つの世界をまとめて救おうとその世界をくつつけちゃいました
が、失敗しちゃって はちゃめちゃ親子とアメリカ海兵隊員が神の手により異世界へ召喚！

あたしと親父は父子家庭 でもこのオヤジはハチャメチャで娘命！
そんな親子がマリンコさんたちとサバゲ（と言う名の実践訓練！？）
をしてたらいきなり別世界へトリップ！？この世界を救ってだって！

異世界で巡り会った仲間も優秀ではあるが　ある意味残念な方たちで・・・

「魔物はいらっしゃるは魔法はあるは、あげくのはてに恐竜まで？でもほんとにやっかいなのは親父さまなんです！」

苦勞に苦勞を重ねてる娘は幸せになれるのか！

薄幸の美少女に愛の手を！

作者の実体験？も脚色して書かれたアップテンポの親子掛け合い漫才ギャグ小説です^^

1話 涙のオープニングw（前書き）

偉い神様が壊れかけた2つの世界をまとめて救おうとその世界をくつつけちゃいました

が、失敗しちゃって はちゃめちゃ親子とアメリカ海兵隊員が異世界へ召喚！

現地で知り合った仲間は優秀だけどちょっと残念な人ばかり・・・
「魔物はいらっしやるは魔法はあるは、あげくのはてに恐竜まで？でもほんとにやっかいなのは親父さまなんです！」

苦勞に苦勞を重ねてる娘は幸せになれるのか！

薄幸の美少女に愛の手を！

残酷な表現やチート、下品な表現が多々あります

苦手な方はスルーをお願いします

ギャグの表現等もみたことがあるような表現があると思いますが
オリジナルの小説です

こんな世の中なので皆様に笑いをお届けしたいと思い投稿しました
^^

明るい世の中になりたいですね！

1話 涙のオープニングw

「ううw・・・今のなんだったの？・・・」

あたしは親父さんとアメリカ海兵隊マリンコのみなさんと一緒に
東京は福生にある横田基地の南端で 拠点強襲訓練サバイバルゲームをやってたんで
すが・・・

なんかいきなり視界が ぐにゃってなったと思ったら目眩が・・・
あたしは周りを見回して・・・

4

「！・・・なに？この空・・・」

「・・・知らない天jy「あふおかー！（ばからーん！）」ふげっ
！」

あたしはいつもの突っ込みで父親の後頭部をひっぱたく・・・ええ、
ひっぱたきますとも！

「よし！ワンモアねへ・・・どこなんだ？・・・真っ白な空k「
おい！（パシーン！）」うげっ！」

さらにスリッパで頭頂部をおもいつきりジャストミート・・・ええ、ミートしますよ！

「んじゃ気を取り直してもう一度・・・神さm」つぎはないよ（ニコ^^）「すいませんでした！」

まったく！このオヤジは・・・なにがなんでもテンプレしたいのかい！

こいつと一緒にいると碌な目にあわんw・・・

それにしても・・・この空はいったい如何した事か・・・いやな予感満載です（親父がいるので当社比200%UP！）

「なんで空が3色に分かれてるの〜！またあたしが苦労するの〜！」

あたしは（orz↑このかっこで）めっちゃさげびましたときw・・・
・・・orz

「なんで四つん這いで挫けてるんだ？」

「兄貴ｗｗこの状況でよく落ち着いて・・・いられる人だったわ
うん納得・・・」

親父がにっこりとした顔であたしに落ち着いた声を掛けてるんだが
(あたしや涙目だぞw)
あたしやそこまで親父みたいに人生を達観できません ええ！出来
ませんとも！

あ、ちなみに兄貴って呼んでるのは 物心ついた時から「兄貴って
呼べ」って

毎日のごとく催眠学習なみに繰り返された結果です・・・
もっとも反抗する意味で心の中では「親父さん」もしくは「オヤジ」
って呼んでますが^^

「ハイハイ！二人とも！親子漫才はそのくらいにして状況を確認し
ません？」

オヤジとあたしは声のする方に顔をむけ・・・

がばっ！

いきなり抱き付かれたんだが・・・

「お、お、お兄様？いきなりなにをされやがっていらっしやいます？（A、＃）」

おやじが突拍子も無いのはわかってるんで

額にあおすじ（＃↑こんなの）立てて睨み返してやたよあたしゃ！

「だって、涙目で不安そうな顔してるんだもん！（TωT）ウルウル」

あたりまえだろ！いきなり目眩がして立ち眩んで 目を開けたら周りの景色が変になってるし

・・・あれ見て見ろ！空なんか3色に分かれてるんだぞ？

それにだ！もん！ってなんだ もん！ってw・・・あーw！40とつくに過ぎてるだろ！

「いや ハタチと670ヶ月と14日だぞ？（'v、）σケラケラ」

「心の中を覗くな！」

「んじゃ、ぱんつのなかをのz「死にたいの？（ニコッ^^＃）」
ごめんなさい！」

ズザーっとはなれてペコペコと土下座する親父さん・・・
つ、疲れるわwこのクソオヤジ！

「で、いつもの親子漫才は終わったのかな？」

はっ！忘れてましたよ

今の声の主は横田基地に来ているアメリカ合衆国海兵隊のモブA・・・

・ゲフン ゲフン・・・

えーと、ジョン・フレデリック中尉さん。

少しもどって最初に声をかけてくださったのが同じく海兵隊の

んーと、レティシヨ？レティシヤ？あ！そうそう

レティシア・フォンダ少尉さんだハハ

少尉さんは良い人でレティ（いつもはこう呼んでるんでちっと忘れ）とあたしは親友です！

んで、さっきまでサバゲと言う名の拠点制圧訓練？をやっとりました！

でもレティwちつと言わせて・・・絶対ゲームじゃないよね？これ！・・・

スモークグレネード投げてくるとか！ストーキングで後ろからナイフアタックとか！

海兵隊の皆様ってば めっちゃマジなんだもん！

まあ、親父さんと来た時点であきらめてはいましたよ？・・・毎度の事だしw・・・

「うーW親子漫才じゃないですよW・・・見てないで兄貴から助けてくださいよW・・・」

「あら^^いつもあなた達ってこんな感じじゃない^^うらやましいわ　クスッ^^」

うー、レティったらWいつもからかうんだよね　あたしと親父を・

・

お？ジョンさんがマジな顔をしてレティの所へ・・・まあ異常事態だもんねW・・・
おー軍人っぽいぞジョンよ！

「よし！アテイション！とりあえず現状確認だ・・・少尉！基地内の人員確認と安全確保を！」

「イエッサー！」

「その後は使えそうな物資を空いている格納庫にそろえてサバイバルの準備！」

「イエッサー！」

だよねーこっからみえるまわりの町がほぼ無くなってるんだもん
福生方面は国道16号近辺しか建物なくなってるしその後ろは熱帯のジャングル？って感じだしW

武蔵村山方面は森？ つか森林って感じ。
多分だけとほぼ南北で空が分かれてるの。

西（福生方面）は緑？っぽい青（ぶきみw）、東（武蔵村山方面）は、とーっても澄んだ青！（きれーへへ）

んで基地の真上だけは今まで通りの東京のくすんだ青空なんだ。

レティはその場にいた隊員（6、7人くらい？）に「ついて来い！」って言うって

三台のジープ？（後で兄貴に聞いたら『ハンビー』って教えてもらった）に分乗して

基地内の確認に出かけていっちゃった・・・女の子一人になってち
つとさみしいかな？

がばっ！

「んだから！おまいは！いきなり！抱きつくたって言ってるだろーがー！！」

あたしはそばに立て掛けてあるM—60をぐいと掴み 腰だめに
かまえて（この間0・8秒）

A	B
B	A
A	B
B	A
A	B
B	A
A	B
B	A
A	B
B	A
A	B
B	A
A	B
B	A
A	B
B	A
A	B
B	A
/	/
/	/
^	^

（あー快感！）

「いて！痛い痛い！いたいってば！……ごめんごめん……すい

ませんでしたー！」

「兄貴ってば！ほんつとにいきなりはやめてね！」

「わかった・・・今度からは許可をえと「んー？（ギロツ！！）」
もうしませんw」

「ヘイヘイ！こっちまでBB弾が飛んできたぞw・・・」

「あっジョンさんごめんなさいwww・・・」

親父のせいであたしがジョンさんにあやまるw・・・

ふーw・・・いーつもこんな感じで親父の尻拭いや後始末ばっかりw・・・

ロサンゼルスに行ったときもスミソニアンにいったときもヨーロッパ、中国、ベトナム、その他もろもろ

日本に居たって（ry

あ、そうそうココだけの話なんだけどさ　みなさんには事実を教えちゃいます

親父とあたしの過去のエピソードは5割方ノンフィクションなのだよ^^

ええ、ええ、実話でんこ盛りですとも！

そのうち（たぶん）書くとは思うけどうちの父さんは・・・んー良く言えば行動力有り？積極的？

悪く言えば考え無しに本能のままトラブルに突っ込んでく？

いやいや、ありゃトラブルから寄って来るってほうが正しいかな？
思い出したら涙が・・・orz

ありや？あたしまだ名乗ってないよね？

そう言えばモブ（失礼だな）とフレンドの二人しか名前を出してなかったなw・・・

ごめんなさいですw・・・（ちよつと反省wシユン・・・）

とりあえずわたしの自己紹介や現状を次回に？説明しようか・・・
（そろり・・・そろり・・・）

がばっ！

「だーかーらー！いちいち抱きつくなくっ！この○×△オヤジっ！」

まったくw・・・

あたしが弄いぢられるのって毎回つづくんですか？・・・

ねえ 聞いてますか？・・・作者さんw・・・・・・・・orz

1話 涙のオープニングw（後書き）

どーもです^^作者のM2ー1015です

今回はさわりの部分を少しだけ書かせてもらいました

第2話からギャグてんこ盛りでテンションを上げていきます^^

次回は基地の状況と簡単なオープニングメンバーの紹介です

徐々にですが作者の実話も取り入れて臨場感を出したいと思います

初投稿で四苦八苦してますが生暖かい目でみてやってくださいね^^

応援を宜しくお願いいたします

では^^ノ

2話 涙のアメリカ レティとの出会い 前編（前書き）

娘「どもー！今回でわたしの名前が出るんだよー^^」

レティ「私との初対面ですねー^^（ふふふ^^ヒロインはもらった！）」

ジョン「ん？レティなんか笑いが黒いぞ？」

レティ「あらやだジョンったら^^そんなことないわよん」

父「↑兄貴と呼べー！」

娘「あれは無視の方向で^^」

レ、ジ「OKー^^」

父「い、いいもん！今回は本編でおにちゃんって呼ぶらしいから！」

娘「え！やだ！あの頃の話だすの？・・・そかーレティとあった頃はそーだったっけw・・・えーレティ編はなくなりました！^^」

レティ「うそん！（私のヒロイン計画がw!）」

父「あー、ところで俺の名前も出るんだよね？」

娘「・・・」

父「でるんだよね？」

娘「あー暑っ苦しいんだからくっつくなんてばさ！」

ジョン「あーあ、また親子漫才はぢまったよw」

レティ「いーなーうらやましいわ・・・」

娘「いやいやwうっとおしいだけですから！」

父「しょぼーんw」

娘「口でいってるし！・・・ってそろそろはぢまるみたい！」

娘「今回はわたしの実体験もまぎります！よろしくねー^^」

全員「」「」では後書で会いましょう！」「」

2話 涙のアメリカ レティとの出会い 前編

「・・・知らない天jy」とう！（ぱかーん！）「えばあ！」

「兄貴！それ前回やった！ほんとに兄貴はくどいしシツコイ！」

「おや？18年も一緒にいて俺のしつこさに気づかなかったとは・・・ちなみに俺のしつこさは中国本土の裏通り安物料理よりしつこいぞ？」

「wwww聞いているだけで油酔いしそう・・・（orz）」

まったく！親父の相手してるとほんっとーに話がすみません（ちつと涙目w）・・・もう無視無視！

がばっ！

「うw！兄貴！はなせ！・・・たのむからは・な・せ・！」

「むかーし昔のおはなしじゃ・・・あるとk「このー！（ばきっ！）へぶらっ！」

「はあはあ！その話すじゃねー！なぐるぞ！」

「ぐーでなぐってからなぐるって言われても・・・」

あーw・・・さっそくぐだぐだwでも泣かないもん！・・・グスッ・
・・orz

(ソロリ・ソロリ・・・)

は！兄貴！チカヨルナ！・・・あぶねー・・・またハグされるとこ
ろだった〜)

「兄貴は罰として今回は脇役だかね！」

んじゃ前回のつづきでわたしの自己紹介しますね〜^^

まず名前ね！かみや・まこと神谷真琴で〜す^^

歳はぴちぴちの18歳！（まあ、もう直ぐ19歳なんですわw・・・
）

父親とわたしの父子家庭です（おかあさんはわたしが4歳のときに
死別してます）

あ、もうふっきてるから心配は無しね^^

（親父の世話で落ち込む暇が無かったのが正解かな？そこは兄
貴に感謝！）

趣味はお料理かな^^（親父の方が上手なのはこのさいおいとく！）
イタリアンと煮物が得意です！

あーあーwこなげなげな美少女に彼氏がないなんてw・・・泣
くぞw

「俺に勝ったら付き合っても（手をにぎるだけね）良いぞ！ははは

はははは！」

とかマジ言ってるからねーw

（うん、親父のせいだね！あれに勝てる若者はそうそういないからねーw）

身長は161cmまあふつう？

その他のデータはノーコメント！

太ってはいませーん^^ビバ！ナイスバディ（本人談）で すれんだーでーす^^

それで現在わけあって高校二年生なのよ^^

中学入ってから親父にいろーんな国に・・・ええ、そりゃもうがんばってたたくましく

命のかぎり乗り越えてきましたよ！・・・まさに命の海外留学って感じで！

まあ、海外に行くってんで ちよくちよく休学してたのが原因ですな・・・

（その元凶は親父さまなんですわ・・・あーあっちでニヤニヤ見てやがる！・・・よし、後でおしおきだね・・・親父さま唯一の弱点、足裏くすぐりの刑にけってー！^^）

今住んでる所は 東京都下の八王子ってところ^^一応市内は都会？っぽいかな^^

いやーでもねー盆地なモンで夏はめっちゃ暑いしw、冬はめっちゃんこ寒いのもw

親父さんは良い訓練って言ってエアコン無しの部屋です！

わたし？もちろん当然です！エアコンあります！へへへへへ

あとねーうちって先祖代々の武家なのよ・・・
わたしのおじいちゃんって めっちゃ厳しいかったの！マジ泣きは
いったもん・・・

まあ4年ほど前にポツクリ逝っちゃったけどね・・・作法以外はや
さしい好々爺でしたけどね^^

で、親父さんはめっちゃ厳しくされてたんだって！
武家修行ってやつ？

そうだ！みなさん冠婚葬祭の「冠」ってなんの儀式か知ってます？
正解は武士の成人式？（でいいのかな？）なんだって^^
15歳でやるらしいよ（んーゲンプクの儀？だったっけかな？）
もちろんうちの親父さまも神社でやったらいいですよ？・・・

でも親父さんは武家の儀式が嫌だったらしくて

「俺の代で小難しいことは終わり！」

ってなもん・・・せいせいしてるらしいよ（この辺実話ね^^）

ただねー困ったモンで剣道だけはやらされたよ・・・
護身と鍛錬だつてさーw・・・まあ何年か前に初段は取ったけどねー
初段とってから昇段試験うけてないから今ってどのくらいの実力か
はわかりません^^

今でも親父さんには教えてもらってるけどねー

で、おやじさん 剣道は四段なんですよ！

本気でやられたらマジで痛いんです！

段が1コくらいの違いならわたしでもそこそこやれると思うんです！
これが初段と四段だとねーw

ほんっと子供と大人、三輪車とダンプカーってなもんですw

だからマジで試合すると防具をつけててもね〜w
例えば面（頭ね）をきれいに入れられるとそりやもう脳震盪もんですよ！

小手だってそうです一発入ったら痛みでしびれて竹刀なんかもつてられましょ〜ん^^（実体験よ）

ん？みなさんも経験したい？ん〜そうですね〜

最寄の警察署で剣道場があれば体験できるかも^^たのも〜！ってな感じですな^^

んで結構なあんばいで親父さまには今でもきたえられているってなもんです^^

そして！運命のレティとの出会い！と言うほどのインパクトではなかったかな？

その他のインパクトが大きすぎてw・・・

まあ、レティに対してもある意味インパクトはくらったんだけどね〜・・・

でもそのインパクトは正直言って忘れたい思い出だしねw・・・あ、ちよつと凹んできたぞw・・・

（レティごめん・・・レティの事あんまし書けないかしんないw）

それは中学一年生の夏休前のことでありました！
親父さまがいきなり部屋に来て

「おい真琴、夏休みの40日間アメリカ本土に行くぞー」

って言われましたがな！

え！え！マジですか！海外旅行？いきなりのアメリカ本土！

初心者向けのグアムやハワイじゃありませんよね！

はじめての海外がアメリカ本土！やったー！

ってことは「ディ・ディ・ディ・ねずみの国」や「ユニバー・・・映画の遊園地」やハリウッドとか！

ワクワクってなもんです^^（この辺は実話ね^^）

（パスポートは中学に入るときに親父様と作りに立川へ行きました
おひるに食べたお寿司！とーってもデリシャスでしたね^^あ
！回ってないおすし屋さんもはじめてでした！まる！）

この時 あたしやーうかれてましたね・・・ええ、うかれてま
したとも！

んで大事なことを忘れてました・・・この旅行が親父さまと一緒にだ
とゆうことを・・・orz

出発前のショッピング！あー楽しいーお父さんが天使にみえます
^^

もちろんお約束の水着も買いました！

（ちよっぴり背伸びして はじめての ビ・キ・二！しかも黒！は
ずかしー／＼／＼）

いよいよ出発です！成田までは車で^^2時間くらいだったかな？
車を預けて空港ロビーへ^^

わー広い！

カウンターでチェックインしました

さてX線検査です^^わくわくしながら通りました・・・なにも鳴りませんでしたw・・・くすんw

出発ロビーで軽く昼ごはんを食べます

そして搭乗です！おおお！すっちー金髪だぞー！背も高いー！

座席についてお父さんからのフライトレクチャーです

へー救命胴着って最後はくちでふくらますんだー

成田から飛び立つこと1時間で飽きましたよw・・・ぶーぶー

滑走路から飛び立って上昇しているときはわくわくでしたがw・・・

あ！ちなみに上昇中は気圧で耳鳴りがするそうです

お父さんはガムを噛むとなりずらいよって教えてくれてたのでわたしはへーきでした！

お父さんが言うには後9時間くらいかかるそーですw

もうご飯たべて寝ます！おやすみなさいー^^

つきました！アメリカです！ロサンゼルスです！ターツチダウン！
へへへへへ

お父さんの古いお友達が車で宿泊施設まで送ってくれるらしいです
^^

アメリカの時間で今は朝の9時30分くらいですかね？

ロビーに行くとややマツチヨ？なおぢさんがお父さんと握手しています

ありや二人とも英語でしゃべっとるw・・・なんかくやしい！

英語は学校でならいはじめたばかりなので

ほんとーに簡単な言葉しかわかりませんw・・・ほんとくやしいです！

「ハ―イ! ガール! おじさんハ ジョンいいまゝス! よろしくネゝ
^^」

ありゃ? このひと日本語できるがなW・・・よし! ここはまかせろ!

「ぐっどもうにんぐ みすたーじょん まいねーむいず まこと・
かみや ないすとうみいちゅう^^」

さあ通じるか? どきどきもんですよ!

「H A H A H A H A! カミヤより英語うまいですネゝ^^」

うW・・・これは・・・結構はずかしいぞW・・・／／／（真っ赤
になりました）

「オウ! シャイガールね! H A H A H A H A!」

「オイ! ジョンW・・・娘はやらんぞ! ほしかったら俺をたおせ!」

「無理ネゝW カミヤ相手じゃ良くて相打ちネゝ」

そう言いながらお父さんはわたしをかばう様に抱きしめます・・・

／／

（お父さん暖かいんだよねゝ／／／）

「オウケイ カミヤ カモン レッツゴウ! ^^」

ジョンさんが車まで案内してくれるみたいです

・・・@!・・・は！意識がとんでましたよ！・・・瞳孔も開いてたはずです・・・

だって、だって、ジョンさんが案内してくれた車ってw・・・

「ん？真琴は知らないのかな？この車は軍用トラックって言うんだよ^^」

くっ！やられたw・・・お父さんが企画した旅行だったんだよw・・・orz

よし！OKOK心構えはできたぞw

もう驚かないからな！お父さんそのドヤ顔はもう二度と無いと思いなさい！

客室（ま、荷台とも言うらしいが）に上ります

両脇に椅子（まー板切れとも言うらしいがw）があり 奥になにか荷物？があります

客室の・・・えーい荷台でけっこう！つでに椅子も板でじゅうぶん！荷台にはわたしとお父さんの他に4人の兵隊さんがいらっしやいます

みなさん早口の英語なのでわたしは ちんぷとんかんぷとんです^^ まーもつともトラックがうるさくてほとんど聞こえませんがw

防音？なにそれ？ってな感じなんですな荷台ってw・・・

さてトラックは山のほう（東の方？）にむけて快調に走ってるんですが・・・

お父さんが言うにはかなりりっぱな宿泊地らしいです^^楽しみ^^

^^

（宿泊施設はサクラメントって町の近くらしいです）

宿泊施設までトラックで走るだけなので道中は省略〜〜！

W・・・親父がニヤケ顔でこっち見ながら催促してるW・・・わかった！ちゃんと報告します！

（後で絶対にくすぐってやるW・・・乙女の恥をW・・・）

山に入ると回りは砂漠？って感じです・・・砂ぼこりがW・・・山の上には人造湖があってトラックバスのフィッシングができるらしいですよ

それにつけても何ですかこのビニールを巻いただけの板ツ切れはW！wwwwお尻が痛いですW

なんなんですかねこの拷問はW

（お父さんとジョンさんにはおしおきをしなくてはW！・・・うらみは忘れません！）

さてさてお腹がへってきましたね・・・お？奥の荷物を黒人の兵隊さんがあさってますね？

ん？わたしにプラスチックのBOXをわたそうとしていますがW・・・？

かろうじて「ランチ」と言うのがきこえました！

わたしは日本語でありがとうって言ってしまいましたけど通じたみたいです！ニコってわらってくれました！

別の兵隊さんがクーラーBOXから飲み物を出しているようです

おとうさんが教えてくれました
わたしたちを空港で待っている間にお昼ご飯を買出しにいつてくれ
てみたいです^^

・・・@@・・・は！またまた目がめっちゃ開いてしまいましたw・
・

（お父さんはまたまたドヤ顔です・・・wwwく、悔しい！）
だって、だって飲み物のサイズが！どう見ても形は日本のハンバー
ガー屋さんの同じです・・・がw
1｝1・5リットルは入ってますよ！なになって？コーラがです！
wwwwこんなに飲めませんよw・・・

さて食べ物は何でしょうね？・・・BOXを開けます・・・！！

・・・@@!・・・は！またw・・・砂ぼこりで目が真っ赤になり
ますなw

だーってw・・・おおきいんです！なになって？ハンバーガーですよ
wわたしの顔にちかい大きさですw

（お父さん！わかりましたからニヤけたドヤ顔はやめてくださいw
！）

結論です！ハンバーガーは日本で食べましょう！これ実体験です！
（多少高めのレストランならまだそこそこたべられますが・・・）
パン？はぼそぼそ・・・ミートパテ？は味が無くてゴム？だったり
ラード？だったりw・・・
わたしは半分も食べられませんでした・・・

(半分でも日本のハンバーガー2〜3個分はありましたねw)

そして食後の地獄のトラック・・・うw！振動でw・・・リバー
マウンテンがやばいです！

ええ、ええ、みなさまのご想像通りですよ

某マレーシアの某マスコット？あの石像みたいになりました・・・
真っ青になってw

横になったマーライオンですね・・・orz

まーその後は助手席におじゃまして多少はよかったです
あいかわらず椅子はだめだめです！お尻が痛いw・・・

いつのまにか眠ってました時差ぼけってやつですかね
寝ているうちに宿泊施設についたみたいです

お父さんがお部屋のベットまでわたしを運んだらしいです・・・お
姫様だっこで！

夕方になりあたしは目が覚めました・・・がちよつとぼーつとして
います

しばらくぼーつしていると寝室のドアが「コンコン」とノックさ
れています

お父さんなら「だ、だゝれゝ・・・ここは警察じゃないよw」と
か言ってるそうです

ごほんっ！わたしはそんな事言いませんよ？ほんとですよ？

おぼえたての英語をつかいます

「か、かもん！・・・かむいん！・・・うえるかむ？」

これでよかったんでしたっけ？わたしでんぱってます！

がちゃ・・・ドアが開きました

・・・@!・・・は！女の子ですよ！金髪です！スタイルいいです！そして美人です！

あたしより10～15cmは背が高そうです！

さすが肉食の国！・・・二十歳くらいかなあ・・・おもわず見とれてしまいます

「コンバンハ・・・ワタシはレティいます^^」

めっちゃ日本語やん！・・・このコテージの従業員さんなのかな？

「こんばんは わたしは 真琴、真琴・神谷です^^」

ニコツとほほえます

これがレティとの初めての出会いでした^^

お父さんが部屋に来ました

レティはお父さんを見てしばらく固まってましたが……？

顔を真っ赤にしてベットルームから出て行きます……なんで顔赤いんだ？

するとちよつと立ち止まって

「お嬢さん デイナー……夕ご飯できます……ダイニングヘカモンです……カミヤもネ／／／」

おー夕ご飯のお呼び出しですか……ん？お父さんの知り合い？……
・クウウウ……ありや……／／／
お腹が鳴ってしまいましたw／／／

「真琴もハラへったか？^^具合はどうだ？食べそうか？」

「うん！もう大丈夫^^おなか空っぽだもん！」

「だよねー一人マールライオンだったもんね^^」

「う、うるさい！……おにいちゃんってばうるさいよ！」

あ！しまったwこの回想ではおにいちゃんって呼ぶのは隠そうとし

てたんだW・・・やっちゃったよW

うW・・・中学生までは親父の事　おにいちゃんって呼んでんだ
よな～W

・・・われながらみごとな黒歴史・・・あ、凹んできたW・・・O

r z

ううう・・・あっちで親父さんがこっち見ながらめっちゃドヤ顔し
てる～W

よし、レティが基地の偵察からもどったらM16A2・・・いやミ
ニミで蜂の巣にしちやる！

ふふふふ・・・たっぷり踊ってもらうぜ！親父さんよう！

さ～嫌な事（マールライオン事件ね）はすっぱり忘れてごはんだ～^^

お父さんとダイニングにいきます・・・なんかふつうの家みたいだ
な～・・・

ダイニングには怖そうなおじさんとさっきのレティさんがすわって
います

あれ？レティさんって従業員じゃないのかな？

わたしは頭の上に？マークを5個は浮かべてたんじゃないでしょうか

おじさんが立ち上がって言いました

お父さんの肩をバンバンとたたいてます

「我が家へようこそ！カミヤ元気だったか？^^」

・・・@.@;・・・え?え?え?・・・再起不能です・・・
・・・@.@;・・・まだ思考が追いつきません・・・
??????????

は!ここはお父さんに聞くとところだ!お父さんに振り向きます

うw・・・お父さんはこっち見てめっちゃドヤーって顔してるぞ?
・・・またもやはめられた?

「おにいちゃん?怒らないから説明プリーズ!」

「えーと　ここはおにいちゃんの昔ながらのお友達のお家さ^^」

「え?え?コテージとか貸し別荘じゃないの?」

「うん^^お友達のお家^^」

やられた・・・もろにくらいましたよおにいさまw・・・orz

「こんばんは!カミヤの娘だね?はじめまして!私はレオナルド・
フォンダだ!よろしくな」

「あ・・・真琴です・・・真琴・神谷です・・・お世話になります」

「ん!これから1ヶ月自分の家だと思ってくつろいでくれ^^リトル
ガールさん^^」

「む！・・・これでも12歳です！小学生ではありませんのでリトルはやめてください！」

あああ・・・しまったですwお父さんにむっときていたので思わず反論してしまいましたw・・・

ごめんなさいフォンダさん・・・ん？・・・なんだ？・・・ん？・・・

・
フォンダさんとレティさんが固まってるぞ？・・・ん？なにか変なこと言ったかな？

「マコト・・・12歳って・・・ほんとなの？」

「うむ・・・わしもビックリじゃわいw・・・」

「おう！真琴は俺のりっぱなマイレディだぞ！^^」

ふふんっってふんぞりかえるおにいちゃん

まだ固まってるアメリカ人のお二人・・・

そーですかそーですか見えませんか中学生に・・・ぷんぷん！

「レオ そのくらいにして飯にしよぜ」

あれ？お父さん？怒ってる？・・・ぱっと見じゃわかんないけど・・・
・なんでだろ？

（この時はわたしも知らなかったんだよねーw親ばかズの娘第一主義をさー・・・orz）

2話 涙のアメリカ レティとの出会い 前編（後書き）

真琴「はーい！わたしの名前は真琴でした〜^^」

レティ「私の出番・・・これだけ？」

ジョン「俺だってあれだけか？」

真琴「モブはいいの！また紹介って名前のいぢられがあるから^^」

父「・・・・・・・・・・」

真琴「あちゃ〜w・・・すねちゃってるよ」

レティ「わたしがカミヤの名前を・・・」

ジョン「ダメだ！やめるんだ！」

レティ「どうしてよ・・・カミヤかわいそう・・・」

父「・・・・・・・・・・」

ジョン「ミニミで蜂の巣だぞ？真琴ならやりかねんw」

レティ「うw・・・確かに・・・」

真琴「兄貴？・・・ん？あれ？・・・もしかしてにやけてる？」

レ、ジ「「はい？」」

父「はははははははははははははははは！・・・ぷっ・・・おにいちゃん・

・・・ぷっ！」

ジョン「やばい！レティ逃げるんだ！ハリーハリー！」

レティ「カミヤも！とつととずらんないと！ほら！早く！」

真琴「オヤジ〜wいっぺん死んでみような^^」

ジョン「真琴も落ち着いて・・・ってM2！Car50！カミヤは

やくあやまれ！」

父「ぷぷっ・・・おにいちゃんだってw・・・ぷぷぷっ！」

真琴「死にさせやー！くそおやぢー！」

えー今回はちと長くなりそうなので2回にわけます^^

次回はレティとの出会い後編です
その次はテンプレで神様かなw
冒険はもう少し後ですかね^^
みなさんに笑顔が訪れますように
では^^ノ

3話 涙のアメリカ レティとの出会い 後編（前書き）

真琴「やつほー！^^」

レティ「どーもー^^」

ジョン「・・・つ、疲れたw・・・」

真琴「あれ？兄貴はどこいったのかな？」

レティ「ああ、あっちでいつもの娘自慢をダディとやってるよ」

真琴「うん！よし、ほっとう」

ジョン「・・・そして俺はスルーですかw・・・」

真琴「ジョンサンハ ナンデツカレテルノカナ？」

レティ「あら・・・真琴？セリフが棒読みよ？」

真琴「いやー、なんか聞いてはいけない予感がしてね^^」

ジョン「前回の後書で 真琴ってばM2重機関銃ぶっばなしてただろ？」

レティ「・・・気持ちよく撃ってたわね・・・」

真琴「おほほほほ！私、記憶にございませんですよ？^^」

ジョン「あれの後始末を俺1人でやってたんよw」

レティ「あー、それは確かにつかれるわ・・・」

真琴「おほほほほほ、なんのことやら？^^」

ジョン「ふーw・・・やつぱり親子だなw・・・」

レティ「そうね、ある意味にてるわね・・・」

真琴「へ？ないない！絶対無い！ありえない！」

ジョン「いやいや・・・無自覚だったのか・・・」

レティ「そうね、類友ってゆーか、朱に交わって真っ赤かになったわね」

真琴「ガーン！」・・・orz

ジョン「ありゃ？こりゃしばらく固まったままだなw・・・」

レティ「（は！主役交代？）わ、わたしがんばる！！」

ジョン「ん？レティなんか黒くないか？」（ここんどこ多いな黒レティが？）

レティ「では みなさん！私が主役のレティ編、後半のはじまりで
ーす！^^」

3話 涙のアメリカ レティとの出会い 後編

はははは・・・（↑乾いた笑い）

もうね、目から光も無くなっててねW・・・これって瞳孔がひらいちやってる？

そんでもって ここって普通のリビングだよね？（これってあたしはリビングデット？）

なぜに わたしは水着をつけてリビングでポーズをとっているのでしょうか？

「・・・なんで こーなった？・・・」

は！いやいやいや！こんなテンプレな出だしってお父さんと同じじゃん！

前書きでも似たもの同士って言われてるのに・・・あ、凹んできた・・・orz

うん、なんでこーなったか説明しないとね・・・あんまりしたくないけどねW・・・

前編でさ 夕ご飯を食べ始めたところまでは平和だったんですよ・

・ええ、そこまではね・・・

ただねーほら、あたしって少しだけ胃をおかしくしちゃってたでしょ？・・・ん？知らないって？

あー！もう！トラックで酔ってマライオン状態！

って乙女に言わせるな！まったくw・・・思い出してくれました？

で、目の前のテーブルなんですけど・・・みごとに　肉！肉の山盛り！・・・肉のアートだったですw

まあ、お腹がすいていましたので食べましたよ？

うん、スペアリブはおいしかったね！

ただねースペアのリブちゃんなんですけど・・・子牛さんの片腹一枚分なんですよ・・・

わたしの胴体ぶんくらいありましたかね？（このへん実話ですよ？）

あたしならば　あばらを1本食べればそりゃーまんぷくですわな・・・

・
でもお米かパンか野菜がたべたい・・・たぶん日本人ならそう思いませんか？

んで周りを見渡すと・・・フレンチフライ（日本で言うフライドポテトね^^）しかないしw・・・
パンすらないとは！おどろきです・・・

お父さんとフォンダさんは樽？でビールあびてるし・・・
レティさんは・・・はー？もりもり食っとるがな！しかもジュース

がぶ飲み！

うW・・・あのですねーこのジュースなんですが めっちゃ甘いんです！

ええ。ええ。砂糖水か！ってくらいにねW

まあ、とーっても健康？と消化？に良い？お食事はとっととすませました^^

うん 台所の主導権をうばわねば！

今はレティさんがやってるそうですね・・・早速レティさんにおねがいしましたよ？

なんでもレティさんのお母さんは海外出張で中東？のあたりでお船に乗船しているそうです！
すごいですねー

フォンダさん一家は細かいお料理をほとんどしないらしくて
あたしがいろいろとレティさんに教えながらお料理を作りたいことを伝えると

レティさんも日本食にあこがれがあったらしく二つ返事で了承してくれました^^まる！

食事が終わったと思ったらデザートなんですって^^らっきー！って思いましたよ

ええ、このときはねW

デザートはバニラのアイスクリーム！ってかなんで？小どんぶりサ

イズの器なんですか？
まあ食べますけどね・・・

でっかいスプーン（日本で言うカレースプーン）でアイスクリームをひよいとすくいます・・・
すくいま・・・すくい・・・ん？ん？ん？・・・なぜ？のびる？
ジェラート？・・・いやいやいや！・・・いやな予感びしばしましたよ？

ひとくち食べました・・・orz・・・みずあめです！まさに！
バニラ味のひゃっこいみずあめです！

アメリカ人が太る訳だ・・・うん、このアイスは無理！（この辺も実話ね）

レティさんの腕をつかんで台所へぐいぐい進みます

・・・@@!・・・は！固まってしまいました・・・
だって、でかいんです 巨大なんです！・・・なにがって？冷蔵庫ですよ！

こんなの日本じゃそのへんの料理屋だっておいてないです！
ホテルとか？たぶんそのくらいじゃないとおいてないと思われます

なかを開けると案の定・・・みなさんの想像通りです！
ええ、ほぼ肉ですねこれは・・・まあ、たまごとかミルクはありましたかね

後は野菜と穀物ですね・・・・・・・・・・ジャガイモしか無い・・・・・・・・
Orz

まあ、コーンフレークとシリアルがみつかった時は神に笑顔で祈りましたね・・・マジで^^

とりあえず、明日の朝食の確保は万全ですね^^

レティさん食事当番わたしにまかせてくれてありがとうー！^^

リビングにもどると・・・ありゃ？お父さんとフォンダさんが取っ組み合ってますね？なぜ？

あ！そう言えばお父さん夕食前に機嫌が悪そうでしたね・・・

レティさんを見上げると・・・あれ？なんで生暖かい目で微笑んでるんでしょう？

「ああ、マコト 心配しないでもOKですよ^^いつもの事ですからネ」

「お！真琴 戻ったか^^こっちこい！レオに真琴のすばらしさを見せてやろう！」

「ふん！望む所さ！レティ、ダッドのところにおいで^^」

「マコト・・・ああなったらダディはとまらないワ・・・覚悟ヲきめてネ？」

え？え？え？・・・覚悟ってWなんですか！

お父さんに抱っこされてかいぐりかいぐりされながら放心状態のわたし・・・

お父さんはわたしの自慢話をしつづけています

フォンダさんもレティさんを横に抱きしめてしゃべりっぱなしW・・・

二人とも相手の話なんか聞いちゃいませんね・・・

は！逃げなければ！このままではまずい！・・・

それに日本を出てからお風呂に入っていません・・・汗臭いかな？・・・クンクン・・・

「おにいちゃん、あたしお風呂はいりたい・・・トラックでほこりだらけだし・・・」

「マコト、私とバスしましょうネ！・・・カモン^^」

OK！レティさんも逃げたかったのでしょう あたしの手をとってリビングをでます^^

よし！エスケープミッションコンプリート！^^

お部屋にもどって着替えをださないと・・・おうW荷物もほどこいていませんでしたねW・・・

レティさんも手伝ってくれると言うので荷物を整理します

ん？レティさん何ごそそやってるんですか？

「わーっ！ベリーキュート！・・・これってマコトの水着ですか？
^^」

「そうですよアメリカに来る前に日本で買いました^^」

「ぜひ！着てみてください！わたし、とっても見たいです！」

「いいですよ^^でもお風呂がさきですね^^」

「では、着替えはこの水着でーす！わたしも水着にするでス！」

上に何か着ればいいのか？なんて簡単に考えたこの時のあたしにめっちゃ説教したいです！

レティさんのお話によると日本風のお風呂らしいんですよ！

これはとってもうれしかったですねー

しかもかなり広くてちよつとした温泉風呂みたいです^^

わたしはよろこんで スパーっと真っ裸になり お風呂へ突撃ー！

さーっと身体を洗って ざばーっと流します^^

んーんーんー！いきかえりますねー^^

ザブン！と湯船に飛び込んでふりむくと・・・ふりむく・・・ふり

m・・・

・・・@!!!@!!!・・・は！固まりました・・・ガ
ン見してしまいます！

言葉になりません・・・大きいんです！でっかいんです！・・・何
がって？レティさんですよ！

胸です！バストです！乳です！おっぱいです！・・・わたしが か、
完敗だとw・・・orz

（このおぼろいとの出会いがあたしに一生消えないキズを残したん
だよねw）

あれか？肉食が良いのか？カロリー過多が良いのか？

いやいやいや・・・それは太るだけだw・・・www人種差別反対
！日本人にもあの乳を！・・・

あたしは思いましたねアメリカ人に産まれたかったと！
ええ、マジで思いましたとも！

まあ、アメリカの食べ物は別ですけどね・・・

と言うわけであたしは現在カルチャーショックにて脳内UPUが過
負荷状態w・・・

お風呂場で固まっています・・・orz↑この形のまますっぱんぽん
でw・・・

レティさんがあたしのそばで何かさけますね？なんなんですよ？

いやいや！それよりもあたしの育てる計画を考えねば！

アメリカにはまだ一ヶ月以上滞在するのですから アメリカの秘密は暴いてさしあげましょう^^

あれ？レティさんいきなりあたしをお姫様抱っこ・・・

うわー！おばーいがあたしのおなかに ででーん！ってのっかってますよ！

どうすればあのように育つのでしょうか？わたしはそのことばかり考えていました まる！

あたしの癖？になるんですが深く考え出すと周りがまったくみえなくなるんです・・・

直さなくてとは思っているんですがねw

ん？レティさん、あたしのからだを拭いてくれておまけに着替えまで！こりゃらくだ^^

よし、このまま発育について熟考しましょう^^

またまたお姫様抱っこではこばれていきます

レティさん大きな声でだれかにさけндеますねー？

ありゃ？お父さん？わたしは今レティさんに降ろされてその場についています

お父さんがあたしの手足をまげたりのばしたり？・・・

ん？なんか光ってますね？ぴかっ！ぴかっ！て感じです・・・
あたしの横にはレティさんがいますが・・・ん？ん？なんですかね？
ポーズとってますねレティさん・・・わたしもポーズとってますね？
あれ？レティさん水着ですね・・・マイクロビキニってやつですか
あれは・・・

お父さんがこっちむいて笑えって言ってます

あたしは無意識にスマイル^^

ピカッ！！・・・うつまぶしい！！・・・ん？まぶしい？

は！現状を理解してしまいました・・・orz

レティさんはお風呂で固まったあたしを心配して着替えの水着を
ごていねいに着せて

お父さんたちのところにはこんでくれたんですね・・・

ここまでは良いのです！・・・が、しかし！

あたしをまっていたのは酔っ払ったお父さんたち・・・

それで娘の水着撮影がはじまったと・・・くw・・・一生の不覚w！

まあ、しかたありません・・・もうかなりの枚数を撮られています
あとでフォトデータは完膚なきまでにはかいさせていただきますしよ
う・・・ふふふ！

はやく終わって欲しいです・・・でもこれって娘自慢の勝負になる
んですかね？

あたしゃせいぜい高尾山・・・かたやレティさんは大ロッキーマウンテンですよ・・・

・・・あ、・・・自分で言ってる凹んできましたw・・・
いやいや！まあみてなさい！10年後のあたしを！レティさんくらいの歳になればあたしだって！

ん？フォンダさんがなんか言ってますね？

「レティ！1週間後の誕生日はなにかほしいものはあるのかな^^」

ありゃ？1週間後？あたしとおなじ日にちですね？

「そうだったな レティちゃんはうちの真琴とおなじ誕生日だもんな！おれも買ってやるぞ？^^」

「うん！ハイスクール最初の16歳の誕生日だから記念になるようにマコトと同じ物が良い！^^」

・・・@!・・・え？え？・・・なんですとー！？

このビックなおぱーいであたしと3歳しか変わらないですと！・・・もうだめです・・・

わたしのHPはもうゼロです・・・エンプティです・・・orz
(この衝撃の事実であたしは水着のフォトデータを消すことを忘れ

ちゃってw・・・orz)

と言うわけで冒頭につながるようになるんですが・・・ちと長かったですかね？

んで1週間後のプレゼントなんですが・・・ふーw・・・なんだっ
たと思います？

レティさんにおまかせしたんですよ・・・あたしとおそろのプレゼント・・・

頂き物は・・・コルト社製のガバメント デルタエリート 9mm
パラ でしたw・・・

どこの世界に中学1年生の乙女に拳銃プレゼントしますかねw・・・
まあ、レティさんはお互いのネームが彫金されてるテッポを恍惚の
目で眺めていましたが・・・

ここはやっぱりアメリカでしたねw・・・orz

おう！そうでした！忘れていましたね

ここがどこだか説明していませんでしたね・・・レティさんのお家
？ いやいや そうではなくて・・・

覚えてますか？ みなさん！・・・この旅行のコーディネーターがだ

れだったかを？

なんと！ここはアメリカ合衆国 海兵隊の陸上訓練基地だったので
すw・・・

フォンダさん一家のレオナルドさんはこの副司令官さまでしたw・
・

ついでにお母様は 強襲揚陸艦？ってゆう軍艦にお勤めだそーで・
・
しかもヘリコプターのガンナー？まあ射撃手って言えばいいのかな？
そのガンナーをやっているらしいとかで・・・orz

うん、アメリカってなんか違うってなて思いました！まる^^

えーと、思い出の（涙の？）アメリカ旅行のお話はまたの機会に
たしまして

だってwこの次に体験した海兵隊キャンプ生活のお話までしてたら
本編がまったく進みませんもん！

ふん！べ、別に 中学生時代の乙女のはづかしい秘密が世間にばら
撒かれるのがいや！ってわけじゃないんだからね！

は！取り乱しちゃったよW・・・それから あたしゃツンデレじゃないからね！ほんとなんだからね！

あ、そうそう、軍隊でキャンプって言うとな軍事訓練の意味合いになるんだってさ^^

あたしゃ一般で言う楽しいキャンプのイメージがあったからあのとときお父さんから

「みんなでキャンプいくぞー！」

って聞いたときは思わず喜んじやったけどねW（学習しろよ！あのころのあたしW）

でもこの旅行？（ほとんど軍事訓練だったような気がするなW）から帰ってきてからだね

「兄貴」って呼ぶようになったのは・・・言葉使いも今みたいになったしね^^

もっとも親父さんは

「真琴が不良になったー！おにいちゃんって呼んでくれないー！」

って一ヶ月くらいさわいでいたっけ・・・

あ、ちなみに親父さんのハグを避けだしたのもこのころだったかな？

って・・・また脱線してるなWあたしゃ・・・

よし！では！現実の横田基地にズームイン！

「はい！こちら超常現象に襲われた現実世界の横田基地です・・・

実況はわたくし、かみや・よしはる神谷義春が命を掛けてお送りいたします！」

フルで名前を出したぞーってうれしそうにこっち見ながらドヤ顔してますな・・・

まったく！このオヤジは！目をはなすと直ぐこれだ！・・・

「ご覧下さい！まわりの景観を！えースタジオの真琴s「ばかものー！（ばしーん！）」ふえぶら！」

はあはあ！・・・こいつは！まったく！突っ込むのも疲れるんだぞ！

「おい！兄貴その手に持つてるマイクはどっからだした？あそこにある大型のTVカメラは？」

そっちの照明器具はどこからもってきたんだ！？」

「ん？かってに出てきたぞ？」

「んなわけあるかー！脳みそになんか寄生でもされたか！ばかもんが！」

「ほ、ほんとだもん！よっちゃん 嘘いわないもん！・・・」

「よっちゃん言うな！きもい！あーチキン肌になるW！」

そうだ！モb・・・もとい、ジョンさんが見てたはずだよね？

「マコト・・・今、俺のことで失礼なこと考えなかったか？」

「いえいえ！（アセッ！）それよりジョンさん・・・あのカメラと
か出てくるところを

見てましたか？どうせ兄貴がなんかやらかしたんだろうけどW・・・

」

「いや、いきなり現れたね・・・うん、パッって感じで」

「は？ジョンさんはそんな目の当たりにしてそのわりに落ち着いてますよね？」

「だって、カミヤだろ？」

・・・そうだったw・・・ジョンさんもオヤジの変態加減を知ってるひとだったよw・・・

いつのまにか後ろにいる二人の兵隊さんなんかは目を@@こんなに
して固まってるのに・・・

ああ、あの二人の兵隊さん、非常事態だから武器とか装備をもって
きてくれたんだね
さっきまではあたしと親父さんとジョンさんの3人だけだったもん
ね・・・

ジョンさんは早速装備を装着しだしてるね・・・ん？・・・あれ？
あたしたちの分もあるのかな？なんかいっぱい武器とかあまつてる
よね？

ま、それよりこっちが先だ！

「兄貴、ほんつとにあのカメラとか照明はどっからもってきたの？
ん？」

怒らないからあたしに教えてみそ？」

「うむ・・・実は、神谷義春って名前なんだ！だからおにいちやん
って呼んでくれ！^^」

「もう一回はたくよ！」

「その前にだ、おれからも真琴に質問がある・・・真琴、そのハリ
センはどっから出した？」

え？え？え？・・・まてまてまて！・・・ハリセン？・・・ハリセン？右手をみると・・・

「え？・・・なんで？・・・なんでハリセンなんかもってるんだ？あたしゃ・・・」

「ちなみにだ・・・第一話でもスリッパでひっぱたいてたよな？」

え？え？え？・・・うん・・・ひっぱたいてたね・・・確かに・・・スリッパで・・・

そろーと足元をみると・・・うす緑色してて先端にWCとマジックで書かれたスリッパが・・・

「ありや？・・・なんで？・・・あたしって手品師？」

「そこは やっぱり親子って事じゃねーの？マコトとカミヤはさへ」

ジョンさんがなんか余計なこと言ってるしW・・・うん、あとでいちめよう^^

「兄貴・・・その右手のマイクって「あこりや自前だ・・・うん」・・・」

カクッ・・・あーあWヒザをついちゃったよW・・・なんかねーWもう疲れましたよW・・・

この人はいつもいつも・・・あ、また凹んできたW・・・orz

がば！

またかい！今はめっちゃ疲れてるんですけどW・・・ちょっと涙目W・・・

「兄貴！落ち込んでるんだからほっといてよ！」

「やだね！真琴が落ち込んでるからこうしてるんだろが！」

「あ、兄貴・・・／／／」

へへへっちよっとうれしいかも！へへ／／／（あたしって単純？）

「それにだ！真琴の育ちそうで育たないつるぺたーんの記録だってこうやって測ってるんだぞ！」

あ？なんだって！

「それにだな レティと比べて当社比1／3？いや1／4のコンパクトタイプかな？」

だがしかりし！小さくても育ってる？って実感を俺は噛み締めたんだよ^^」

「あ！ばか！カミヤ！・・・うん、おまえ死んだなW・・・」

「うW！ばか兄貴！確かにレティと比較すれば小さいけどBーくらいはあるんだぞ！」

「それってAってことじゃね？レティはちよっときついけど今はEって言うってたぞ？^^」

「あゝあW・・・カミヤ・・・アーメン（合掌）」

WWW!あたしの感動をかえせー!・・・WWWって　とり合えず
!　兄貴は!ぬっ殺す!!

あたしは立ち上がってジョンさんに近寄ってと・・・

「ジョンさん（ニコッ ^^）その腰のM9（ベレッタ92FS）ち
よっとかしてね ^^」

「ばか・・・マコト、実弾はやばいって!・・・やめなさいって!
・・・」

ジョンさんとあたしは追いかけてっこ!

あたしはテップを奪おうと手を出して　それをよけるジョンさん・
・腰振りダンスだなこりゃ・・・

「マコト!やめなさい!・・・カミヤもマコトに謝るんだ!はやく
!」

かけっこしながらジョンさんの腰振りダンスを見てたらあたしも少
し落ち着いてきたかな・・・

うん、実弾はやめとこう・・・今日のところはね ^^

「ほら!二人とも　シェイクハンド!握手して!」

ジョンさんに後ろから肩を押されて親父さんの前へ・・・

「兄貴！今回はゆるすけど・・・つ、次はないんだからね！」

そう言って親父さんと握手します・・・

ん？・・・おやじさん？・・・なぜにドヤ顔？・・・ん？

「ジョン！真琴が・・・真琴がツンデレになったぞ！（ドヤ～^^）
」

あらあら、まーはやいこと・・・ジョンさん　あたしからさーつと
離れて行ったよw・・・

「兄貴～！あんたって人h・・・」

その時です！

あたしと親父さんの足元から光が・・・うw・・・まぶしい・・・
まぶしいので細めで親父さんを見ると・・・あれ？また？なんでド
ヤ顔？

「真琴！これって・・・これって神様んとこいけるんじゃない？ん
でさ、真っ白く光るへやでさ！

うー！おら、めっちゃワクワクするぞ！」

あーw・・・だめだw・・・この人はこーゆー人だったw・・・

「バカ兄貴！いいか！ぜったい神様には変なことするなよな！いいな！」

「それっておやくそく？だよね？やって下さいって言う^^」

「あーwもう！違うって！マジでやm・・・www・・・」

あれ？・・・力が入らな・・・意識がw・・・

「うん！俺、神様のまえでも自分らしくがんばる！」

なにを・・・言ってw・・・いつも・・・後始末はあたしなんだぞ？・・・

だめだ・・・意識が・・・www・・・

・・・

・・・

・・・

あたしは沈み行く意識のなかでめっちゃドヤった顔の親父さんを見て・・・

よし！って覚悟を決めましたさW・・・うん、無理！だれかたす
けてー！・・・orz

3話 涙のアメリカ レティとの出会い 後編（後書き）

カミヤ「ふふふ！義春と呼びたまえ！」

真琴「無理やり自分で名のつてやがんの！」

レティ「作者に聞いたんだけど本当は神様の時に出す予定だったみたい・・・」

ジョン「カミヤ・・・おまいさんいつか痛い目に遭うぞ？」

カミヤ「ふーんだ！よっちゃんきにしないもんね」

真琴「兄貴Wたのむから次回はおとなしくしてくれよな？」

カミヤ「無理！」

レティ「（あー・・・私、なんでこんな変態に惚れたんだろ・・・）」

ジョン「ん？レティ？なんか言ったか？」

レティ「へ？・・・いや、最近肩が凝るかなって^^」

カミヤ「じくじくっ」

真琴「いやいやW口で言ってるし！って！どこ見てる！」

ジョン「カミヤ！こっち来い！一杯飲みにくぞ！」

カミヤ「お！いいね^^」

レティ「いいなーわたしも行きたいな」

ジョン「わりーWレティはお嬢ちゃんのフォローを頼む」

レティ「ま、いつか・・・ジョン後で奢りなさいよね」

ジョン「おう！んじゃいつてくる！」

カミヤ「いつてきまー！」

真琴「レティって・・・その・・・おっきいよね？」

レティ「へ？なにが？」

真琴「・・・なんでもない！・・・」

レティ「？変なマコト・・・」

真琴「もう直ぐ19歳だよな」W・・・まだ育つのかな」W・・・」

・・・あ、凹んできたぞ・・・今回は結構きついぞ?・・・orz

みなさん!どーもです!M2-1015です^^
えーご意見は多々あると思いますがこんな感じで
グダグダのギャグでいきます!

今回は神様編ですが

この親子はどう対処するんでしょうかね^^
あらすじはあるんですけど

キャラがかってに走り出してしまつてW・・・

私もこの親子には手をやいておりますです!

それでは次回「神様編」でお会いしましょう
皆様に笑顔がもっと増えますように^^
では^^ノ

4話 涙の神様・・・ほんっとすいません！うちの兄貴が迷惑かけましてW（前

真琴「どーもでーす！」

ジョン「オース！」

カミヤ「↑そーいえばこれって義春じゃないよね？カミヤってなってるよね？」

レティ「・・・出番がないw・・・これでは主役の座がw・・・」

真琴「ありゃ？兄貴はスルーとしてレティ？どったの？」

ジョン「なんか毎回主役がどーのって言ってたな？」

レティ「は！何言ってるのジョン！主役はマコトじゃない^^」

ジョン「ん？そーだったっけ？」

レティ「ニコッ！^^」（チャッキ！ジョンの背中に銃を突きつけてます）

ジョン「うw！・・・いや！俺の勘違いだったかな？」

真琴「ん？レティ？」

レティ「なんでもないわ^^真琴（ニコッ^^）」

カミヤ「↑ここ直せー！」

真、レ、ジ「「スルーで^^」」

真琴「んじゃ神様編いってみよー！」

4話 涙の神様・・・ほんっとすいません！うちの兄貴が迷惑かけましてW

ん・・・

・・・ん？・・・ここは？・・・なんであたしってば床でころがってるの？・・・

・・・WWW頭がはたらいてないわ・・・WWW

でも真っ白い部屋だなーここって・・・

実はあたし、寝起きはめちゃくちやわるいんです！テヘツ^^
なーんて考えてると・・・ん？ん？・・・親父さんがだれかとしやべってる??

は！・・・真っ白い部屋？親父さん以外にもだれかいらっしゃる？・・・
・・・って事は！

そりやあもうあたしや、ふらつく頭を片手で抑えながら ガバツ！
って一気に起き上がったさ！

ええ、ええ、きつとテンプレですよねW これってさW・・・
もうね、いやな予感がばつきばつき！

声のする方に振り向くと・・・！・・・そこには予想の斜め上の展開がW・・・orz

「・・・兄貴・・・なにしてるの？・・・まさかとは思うけどその

お方はどちらさま？」

「おお！気が付いたか真琴！・・・どこにも異常はないか？」

「うん・・・あたしは大丈夫・・・なんだけd」（がぼっ！）よかった！」あ！／／／

親父さんがめずらしく心配そうな顔で あたしに近づいてきて・・・お！いきなりハグですかい！・・・ん？お父さんってばちよつと震えてる？

よかったって言ったって事は あたしってば心配されてたんだよね？　^^・・・ちよつと照れるね／／／

「ほんとに心配したんだぞ？・・・体感時間で10時間くらいおきなかったからw・・・」

「え！あたし、そんなに寝てたの？」

ふと時間が気になって腕時計を見ると・・・ありや止まってやがるねw・・・

え？この止まった時間ってここに飛ばされたくらいの時間だよね？・・・ありや？

は！いやいやいや！そんな事よりもだ！

さっき目が覚めた時の親父さんがやらかしてた事（一方的なタコなぐり）を聞かないと・・・

あーん！・・・本心は聞きたくないー！・・・orz

「ねえ兄貴、さっきあその人と何やってたの？あの人はこちら様？」

「ああ、あいつは俺たちをここに呼び込んだ自称神様だ・・・」

「え？神様って！？・・・だったらあの人なんでぼろぼろなの？なんで四つん這いで泣いてるの？」

「ああ、真琴がなかなか起きないもんで『神ならなんとかしろー！』って言ったら

『無理』って言うんだもんwで、おもいきりしぼこも「ばかもの！（ばき！）」ぐはっ！」

あたしはずっと持ってたハリセンで親父の横っ面をひっぱたく！・・・ええ、ひっぱたきますとも！

「だってw・・・俺がせっかく『う！まぶしい！ここは？・・・真っ白な部屋だ』ってやろうとしても

マコりんが寝てたらつまんないじゃん？だからぼこも「大ばかもの！（スパーン！）げふえっ！」

「テンプレギャグの為かい！さっきのあたしの感動をかえせ！・・・それと！マコりん言うな！」

「wwww・・・真琴、スリッパもそうだったけどそのハリセンめちやくちや痛いぞ？」

まるで鉄パイプでぶん殴られてるみたいにw・・・」

「そんな事あるわけないでしょ！バカ兄貴！・・・ほら、さわって

もただの厚紙じゃん・・・」

「いや、ほんとにマジなんだがw・・・」

は！神様のことを忘れてた！

まったく！・・・神様にいたずらするくらいなら想像してたけど
タコ殴りでぼろ雑巾にしちゃうとは・・・親父様w・・・orz
あたしはぼろぼろで四つん這いで泣いている神様？のもとへ小走り
に近づいて・・・

「大丈夫ですか？・・・今おこしますからwよいしょっと・・・」

「・・・ありがとう・・・ひどい目にありましたw・・・」

「ケガはありませんか？・・・」

「はい・・・この空間ではどんなケガも直ぐになおりますから・・・」
「

神様？を助け起こすとみると治っていきます・・・あら、服も
直るのね・・・

後ろで親父がぶつぶつ言ってるな・・・まだいじけてるのか？

よし、ほっとこう・・・うん、あれが交じるとややこしくなるw・・・

「で、すいませんがあたしに説明をして頂いて良いですか？・・・あ、兄貴はほっといていいです」

「カミヤ・マコトさんですよ？私はあなたを呼び出しましたこの世界の神です」

「ほんとに神様なんですか！・・・ほうほう」

うん、テンプレ通りの美男で優男だね・・・ちよつとかっこいいかも！^^／／

ありゃ・・・あたし今きつと顔が真っ赤だね／／／
いーじゃん！神様ってばいい男なんだからさw！

「あら？あまりおどろかれないんですね？普通は呆然となったり喚いたりするんですが・・・」

は！いかんいかん・・・親父さんのおかげであたしや精神的な耐性がきたえられてる？

「あら！びっくり！神様なんですか！」

「はーw・・・いいです・・・無理しなくても・・・先ほどから見ましたが貴方たち親子は
良い意味でも悪い意味でも似てらっしゃいますよね・・・」

ありゃ・・・あきれられちゃってるよ神様にw・・・うん、でもこれだけは言っておかないと！

「神様！あんな歩く公害といっしょにしないでくださいね！」

「それで、貴方をここに呼び出した訳なんですけど……」

「スルーですか！」

「はいスルーです^^それではまず3つの空になった世界の現状からお話します……」

んーとね、このスルースキルを持ったハンサムな神様の長〜い話を要約するとだね……

まず西側のジャングルは太古の世界なんだって 人は住んでないらしいよ？動物は居るみたいだけど

で、東側の森林地帯はね 地球で例えるなら中世ヨーロッパの時代みたい？……ただし！

モンスター？って言うか魔物！がいるらしいのよw……んで魔法もあるんだって！

王国？もいくつかあるらしんだけど……種族も何種類かしらしゃるって？……種族？

白人や黒人とかじゃなくて？ふむふむ？え？エルフとかドアーフ！あと亜人や獣人とかだって！？

めっちゃめっちゃファンタジーじゃんそれって！

うー見て見たい〜w！

ほう、時間の流れはおんなじで1日24時間なんだ……うん、時計はつかえるね^^

で、あたしたちがいるこの基地がその2つの世界をつなぎ止めてる

っと・・・って接着剤かい！

ん？ほうほう、神様のもっと上の方が終焉を迎えかけた2つの世界を救おうとしてくつつけたと・・・

で、くつつけたは良いが世界が安定しなくて我々を召喚してこの世界の定着をさせる事にしたと・・・

あら、ほんとに接着剤なのねんw・・・

で、あたしは何をすればいいのかな？

ふむ、二つの世界の触媒？東の国に行って西のジャングルを開拓させるの？なんで？

西にも人が住みはじめれば異世界同士に絆ができると・・・ほう、そうなんだ・・・

おおむね神様のお願いはこんな感じかな？

個人的には、おもしろそうだし興味はあるねゝゝゝ

だってリアルファンタジーじゃん！

ただ最大の懸念がねー・・・あたしの後ろで最大の懸念さん（親父様）が、まだいじけてるね・・・

ああ、そうだった、あとレティたちだね・・・どうなるんだろ？

「神様！質問があるんですが・・・」

「なんででしょう？ゝゝゝ」

「私たちは元の世界に帰れるんですか？」

「直ぐには無理です 最低でもこの世界が安定しないと・・・何年かかるかは・・・すいません」

そーかー帰れないのかーw・・・じゃやるしかないね！

うん、このお気楽さは絶対に親父様に鍛えられたせいだね・・・ま
ったくw

「この世界を救える心・・・純粋な魂の持ち主としてマコトさんを
召喚したのです

あ、あと、マコトさんは魔術をつかえますよ^^」

へ？神様、今なんだった？魔術？あたしが？

「本来はマコトさんだけ　ここに呼ぶはずだったのですが　なぜか
魔力が減っていて足りない魔力を
補うためにお父様にも来て頂いたのです^^」

「え？あたしってば魔力もってるの？え？え？」

「はい^^この異世界では今でも多分1番ではないかと？・・・お
父様も多少はありますね魔力が・・・
マコトさんはここに召喚した時に魔力が無くなりかけていたので気
絶したのでしょう・・・」

「いやいや、あたし魔力って言うか、そのw・・・魔法なんてつか
ってないよ？」

「それです！」

と言って神様はあたしのハリセンをビシッと指差してますが？・・・
これが魔法？・・・ん？

「?・・・ハリセン?」

「そうです、それは具現の魔法です・・・イメージしたものを実際に投影し具現化する魔法です・・・」

ただ、具現投影は魔力の消費がものすごく多いんです・・・あのTVカメラや照明などでも

マコトさんは大量に魔力を消費していますね・・・

それにそのハリセンは強化の魔法もかかってますから・・・叩かれたらかなり痛いですよ?」

「へ?あれも?あたしがだしたの?なんで?TVカメラなんてイメージしてなかったよ?」

「あの場所の魔力の力場が不安定だったのでしょう・・・ お父様がイメージしたものが

マコトさんの魔力を使って具現化されたみたいですね・・・」

そうだったんだーwあれはーw・・・やはり親父さんのせいだったのかーw・・・

にしても ふむ、具現の魔法ねー・・・うん、他の魔法はつかえるのかな?

「あのー神様、他の魔法も使えますか?」

「魔力があるなら魔法はつかえますよ?実際に物質ハリセンの強化もしてますし^^」

そうか 使えるのか・・・うん、覚えても損はないな・・・よし覚えよう!

神様の話だと どうもイメージが大切らしいんだよね魔法って・・・

魔法も楽しみだね！

でも使い方は 実地で試行錯誤しながら覚えてねっていわれちゃった^^

もう、このイケメンさんたら・・・結構めんどくさがり？

そうだ！何年も戻れないんだから 後はレティ達みんなの為の交渉だね・・・

「それで神様にお願いがあるんですけど・・・聞いて頂けますか？」

「私に出来る事ならいいですよ^^」

「まず、みんなの安全なんですけど・・・」

「はい^^わかりました・・・えいっ！・・・終わりましたね」

「へ？もう終わり！？」

今の えいっ！って掛け声で、神様はみんなに今のあたしと同等の魔力をあげたらしい・・・

それと基地のフェンスに あたしたちは通れる永久的な絶対結界を高さ20mで付属したんだって

しかも！あたしたちに悪意または危害を少しでも持つてる人や動物は通れないんだってさ！

ついでにこの世界の言語（読み書きね）も解るようにしてくれたんだってさ^^

はーさすがイケメン！神様ってすごいねーまさにコンビニエンス！

あと、もともとの地球世界はかなり上位の世界だったみたい・・・

だから下位世界のここなら あたし達は スパイダーマ！いやいやw・・・

某超人的特撮ヒーローなみの体力なんだってさ・・・ジャンプで10mなんて楽勝だって！

そこから落っこちて受身がとれなくても せいぜいすり傷くらいってどんな化け物だ？

よし、基地にもどったら親父さんで試そう！・・・20mくらいからでいいかな^^

「マコトさんには感謝の気持ちで魔力を貴方の身体が受け入れられる最大まで増やしましょう^^」

「え！いいんですk 「俺にもその魔力よこせ！」 うわ！びくつりしたw」

あーおどろいたwってか、なんで真後ろ5cmにいるのさ！ちかいちかい！息かかるって！

あー！ちかいって！はなれろ！耳なめようとすんな！・・・バカ兄貴の変態めw！

「俺だってここに来てるんだから特典あったって良いだろ！？それに強いぞ？俺は」

あーそうそう・・・この親父さんは事サバイバルに関しては結構どころかめっちゃくちゃプロなんだよね

んー悪戯に使われるんだろうけど・・・それを差し引いても魔力は

あつたほうが良いよね！

うん、あたしからもお願いしよう・・・

「あの、神様・・・あたしからもお願いします　兄貴にも魔力を増やして下さい」

「え？お父様にですか？ほんとに良いんですか？後でキャンセルはききませんよ？」

「やたー！真琴の許可がでたー！ルンルン！」

「W W W おどるな！バカ！・・・ええ良いです・・・あんなんでも兄貴は貴重な戦力になります！

・・・まあ、アホでスケベで変態で人外ですがW・・・」

（へーきだよね？うん、ジョンさんにも後で協力してもーらおっと
^^）

「わかりました^^西域の開拓方法はお任せしますので　がんばって下さいね」

「はい！出来るだけの事はやってみます！」

「あ、ひとつ言い忘れてました・・・あなた方が使っていたエアーガンですが

こちらの異世界では十分な武器となりますので　なにぶん上位世界の道具ですから^^」

「え！そうなんですか？・・・気をつけて取り扱います」

「では、また会いましょうねマコトさん^^」

「はい！」

あたしが返事をする　またもや足元から強い光が！
あーまぶしい！・・・あや？親父さん不満そうな顔してるぞ？・・・
ん？なんでだ？

「おーい！神！ここは真っ黒な落とし穴で落っこちるとこだろうが
！」

つ、疲れるw・・・
・・・このバカ兄貴はw！・・・ほんとテンプレが好きなのねw・
・orz

さてさて、戻ってきましたよ横田基地へ^^
腕時計を見ると・・・おー動いてる・・・って神様の部屋って時間
止まってたのかな？

「えーこちら現場の 神谷義春です スタジオの真琴S「まだやるか！（ぱからーん！）」ふえぶらW！」

「バカ兄貴！くどい！しつこい！うざい！」

「だからW・・・そのハリセンは痛いってW・・・」

「おはなしをすすめましょうね お兄様！（ニコッ ^^）」

「はい！すみませんでした！」

まったくW・・・さて、まずはジョンさんに説明しないとね・・・
あんなんでも指揮官だもんねW・・・
どっから話すかな・・・うん、隠さず全部話そう！

「カミヤ！マコト！大丈夫なのか？・・・いきなり光に包まれてたが・・・」

「うん、へーき^^・・・でもちよつと深刻なお話があるんだけど・・・
ジョンさん聞いてくれる？」

あたしは神様の部屋で起こったことを事細かくジョンさんに伝えました

ジョンさんはレティが戻ったら全員で話し合いをするそうです

事が事だけに命令ではなく協力として部下にお願いをするみたい・

・ジョンさんえらいねw

でも『オーマイゴット』っていちいちはなしの腰を折るのはやめてね^^

親父さんの魔力の話してる時なんか『ジーザスクライスト!』だってw・・・

あれ?ジョンさん?なんでorz↑こんなかつこしてんの?・・・ん?

「マコト・・・あー、言い難いんだが・・・あれだ、カミヤも魔力がめっちゃ高いんだな?」

「うん、そうなった」

「その魔力を与える許可はマコトがだしたんだよな?」

「そーだけど・・・いけなかったかな?」

「うん、よし、マコト カミヤのおもりはおまえにまかせた^^」

「え?なんでさ!」

「あれだろ?同等の魔力持ちはマコトだけなんだろう?」

「うん・・・そーだけどw・・・」

「んじゃ、あれがなんかやらかした時に止められるのはマコトだけだな？」

「うw・・・そーなるのかなw?・・・」

「あれがおとなしくしてると思うのか マコトは?」

「・・・無理です・・・」

「んじゃ、がんばれマコト! ^^」

えええー! ジョンさーんw・・・そこはさーみんなで協力しよーよw・・・

あー! 親父さんってばあたしたち見ながらめっちゃドヤーって顔してる・・・w

ありゃ絶対なんかやらかす時の顔だ・・・w

うえーん! あたし、はやまったのかなあw・・・

イケメンの神様助けて! って言っても親父さんにぼろんぼろんにされてたしw・・・

レティー! お願い! はやく戻ってきて・・・!

あ、・・・レティでも親父さん押さえるのって無理かもしれないw・・・
ってことは?・・・適任者はあたしだけ?・・・いやー! 考えたく

ないよ～～～！

う、うえくん！だれでもいいから あたしを助けて～～～！
・
o
r
z
・
・
・
・
・
・

4話 涙の神様・・・ほんっとすいません！うちの兄貴が迷惑かけましてW（後

真琴「いきなりですが！それでは第一回質問コーナー！^^」

カミヤ「ん？質問が来るほど人気あるのか？」

M2「・・・orz」

カミヤ「おお！作者へこんでるがな^^」

真琴「もう！いちめちゃだめでしょ？ナイーブな人なんだから」

カミヤ「あれがナイーブならゴキ〇リはとくに死滅してるはずだが？」

真琴「・・・えー『真琴さんのキャライメージってどんな感じですか？』ですって^^キャツ！うれし^^」

カミヤ「スルーですかW」

真琴「んーとね、ブラック〇グーンのレベッカさんをかわいくした感じかな？^^」

カミヤ「あんなに胸ないだろ？もっとつるペターンじゃんおまえは」
真琴「・・・」

カミヤ「まあ、後は似てるかな？ポニーテールとかね・・・ま、ペたんこだが^^」

レティ「ジョン！巻き添え食らう前に にげるわよ！」

ジョン「おう！」

真琴「このほか兄貴！くらえ！必殺のソードカトラスだ！」

レ、ジ「「あーあW・・・まあ死なないで（ね）（くれ）^^」」

レティ「（次回こそはたっぷりと出番がありますよーにW・・・）」

どーもー^^M2ー1015です！

神様でした！また出てくる予定です（いじられ役で^^）

で 私、ブラックラ○ーン大好きなんですよ！

レティですがいじわるして出番がないわけではありません・・・たぶん？

次回は基地内の様子と西のジャングルです

いよいよ（やっと？）戦闘シーンですかね？

それでは皆様の笑顔がもっと増えます様に^^
では^^ノ

5話 涙のジャングル あんなのいるって聞いてないよ〜W（前書き）

真琴「どーもでーす！」

ジョン「ばわー^^」

レティ「うふん・・・あなたのレティよん（はーと）」

真琴「・・・出番少なくておかしくなってるのかな？」

ジョン「マコト・・・そつとしいてやれ・・・」

真琴「うん・・・」

カミヤ「ハンバーガー食べたいぞー！！」

真琴「うを！なにをいきなり・・・」

カミヤ「いやね？作者に今回の本編みせてもらったんよ」

ジョン「ふむ・・・」

カミヤ「したらね？ジョン達の部下の名前がね・・・」

ジョン「あーあいつらね・・・そりゃ食いたくなるわ・・・」

真琴「そーなの？」

カミヤ「まー読めばわかるわ・・・あー！バーガー食いてーw！」

レティ「カミヤは本編よんだのね？」

カミヤ「読んだよ？」

レティ「それで・・・あたしの出番は・・・あった？（ドキドキ）」

カミヤ「おいジョン、ハンバーガー食いに行くぞー！」

レティ「・・・スルーですか・・・」

真琴「んじゃ第5話のはじまりでーす！^^」

5話 涙のジャングル あんなのいるって聞いてないよ〜W

「キヤー！兄貴のバカやろー！」

「マコト！早くこっちに逃げて！」

レティィ！？・・・言われなくても逃げますよあたしゃ・・・うん

兄貴も何をつれてきてるんだか！限度があるでしょ限度つてもんが！
確かに神様はジャングルには動物がいるって言ってたけど！・・・
確かに動物だけど！

「もう！ほんとうにマジで！ 兄貴のバカやろー！・・・キヤ
ー！！！！」

S i d e レティィ

私はジョン中尉から基地内確認と安全な格納庫の確保を命じられた
ここは基地の南端だ 中央の倉庫までは3分くらいか？

部下5人をつれて3台のHMMWV（多機能高機動車・ハンヴィー）に2人ずつ乗り分けた・・・

落ち着け、私！将校は冷静にならないと・・・

そうだ！ロッテとリーアのメデイカル班はここに残そう・・・

「ロッテ軍曹とリーア伍長はここで待機！」

「イエス マム」

「残りのおまえたち！まず武器の装備をする！車両格納庫へむかうぞ！」

「「「イエス マム！」「」「」」

「USマリンコ！」（アメリカ合衆国海兵隊の掛け声です^^）

「「「マリンコー！」「」「」」

私たち3台は車両格納庫へ周りを監視しながらゆっくりめに向かったが・・・

うん、予想通り他に人は見あたらないわね？・・・猫の子一匹歩いてないわ・・・

私たち以外に生物はいないのかしら・・・今いるのは全部で11人？・・・

トループスが7人、メデイックが2人、シベリアンも2人・・・
もっともあの親子は超がつくほど実戦経験豊富だけれどね・・・

車両格納庫へ着くとまずは個人携帯武器等を装備させる

「アテイション！全員強襲偵察用装備装着！拳銃も着けろ！ライフ
ルにはM203もだ！」

わたしを含めみんなが武器庫から装備をだして着ける・・・その後
は・・・

「モース上等兵！HMMWVの前部ルーフにそれぞれM2、M24
OG、Mk19を設置！

ファスト上等兵は同じく後部ルーフにM24OGを設置しろ！

フレック上等兵は弾薬を運んだらモースを手伝え！Mk19はとり
あえず榴弾のみで良い！

ベッガー上等兵はロッテ軍曹の車両用にM24OGを2丁を持って
いく用意をしろ！

マック軍曹はM249ミニミを全車両へ1丁ずつ車内へ運んどいて
くれ・・・

あ、ロッテたちの分もあるんで計4丁の用意！あと中尉とカミヤ親
子の分も装備をそろえて・・・

それから 狙撃用にM14とM82A1も2丁ずつ頼みます・・・」

「「「イエス マム！」「」「」

「軍曹、すまんが私は個人装備を部屋からとってくる・・・30分
でもどる！頼んだわよ」

「少尉お気をつけて・・・」

さて、自分の部屋へいきますか・・・マコトとカミヤにも預かって
る物を渡さないと・・・

ドアを開く・・・ロッカーを開けて2丁のデルタエリート・・・私
とマコト、お揃いの拳銃・・・

ふっとあの日・・・6年前の誕生日を思い出す・・・銃の彫金を指
でなぜながら・・・

いけない！急がないと・・・マコトのライフルM655、それから
マコトとカミヤのカタナ・・・

マコトはそれぞれに名前をつけてたわね・・・

後は・・・私のお爺様のかたみのM1897・・・そうそう デル

タの予備マガジンもね・・・

ショットガンの弾はどうしよう・・・スラッグとダブルオーバック
でいいかな？

忘れ物は無いかな？・・・うん、よし！戻ろう！

(※ 兵器や武器等の説明は簡単にですが後書にて少しづつやる予
定です。)

車両格納庫に戻るとほぼ準備は完了していた・・・

「マック 燃料は？」

「全車満タンです、予備燃料、弾薬も規定の2倍積んでます いつ
ものレーションも積みました」

「うwwww・・・私あれきらいなのよねw・・・日本食になれちゃうとあれはねw・・・」

「まあ、わたしもですが・・・H A H A H A H A！」

ほんと、あの脂っこくて甘ったるいカロリーだけのレーション考えたやつ尻をけとばしたいわ！

以前なら平気だったのに・・・私の食生活を改善したマコトがいないのよ・・・

あゝマコトとはじめて行った八王子のラーメン屋さん・・・おいしかったな・・・

は！いやいや！何考えてるんだ私は・・・さっさと急がなくては！

「フレックとベッガーはいったん戻って装備を中尉たち、あっちの5人にわたしてちょうだい
それからロッテの車両にも武装の搭載をお願い・・・直ぐに行ってください！」

「イエス マム！」

「マックはモースと北端のヘリポートから東側を調ながら南下して中尉の所で合流ね・・・」

あ、途中のF-15D戦闘爆撃機の格納庫と弾薬庫のロックも忘れずにお願いいね・・・

私はファストと西側に行くわ・・・まず管制塔と司令部を調べてか

ら南下するわね」

「イエス マム！」

「さあ！みんな！ロックンロールよ！！！」

「マリンコ！GO！GO！GO！！！」

・・・管制塔・・・うん、思った通り誰も居ないわね・・・司令部も空ね・・・

「よし！ファスト、西住宅地域を確認しながらもどるわよ・・・」

「・・・ねえ、レティシア少尉・・・俺たちどーなるんすかね？・・・」

「大丈夫よ^^心配しない！中尉だっているし、もっとたよりになる人もいるのよ？^^」

「へ？あのお嬢ちゃんたちがっスか？」

「そ！^^だから私はなんの心配もしてないわよ？マコトはあなたよりもはるかにストロングよ^^
ここだけの話、あの2人私よりずっと強いのよ？^^」

「マ、マジっすか？@@！」

「マジマジ^^クスッ　そのうちわかるわよ^^・・・さ、戻りま
しょう^^」

「はいっす!」

んー、やっぱり不安なのね・・・わたしだって不安なんだもの・・・
でも、カミヤがいるし^^／／
は! 私なに赤くなってるの? ファストの前じゃない・・・もう!

訓練施設の建物が見えてきたわね・・・

あれ? マコト?・・・なんで四つん這いで凹んでるのかしら?・・・

「うえーん・・・れてい・・・えぐっ、えぐっ・・・」

「ちょっと、マコト! 落ち着いて!・・・何で泣いてるの?」

「ジョンさんがー兄貴の・・・ぐすっ・・・めんどろみろってー
W・・・」

「??? マコト? とりあえず涙を拭いて・・・あー鼻水も! ほら、
ティッシュあげるから・・・」

「えーん・・・ぐしゅ・・・れていーあじがとー・・・(ちーん
っ!)」

もどって来たのはいけど・・・いったい何があったの?・・・
カミヤは今にも高笑いしそうにぐいって胸張ってるし・・・
ジョンは おらしーらねって感じでそっぽむいてるしW・・・まっ
たくもう! なんなのよ!

はーW、ここはジョンに聞くしかないわね・・・

「フレデリック中尉、いったい何があったんです? あんなに凹んで
いるマコトは初めて見ますが?」

「あー、その、なんだ・・・えーっと、うん、もしもだ カミヤが
今までの何倍ものパワーで
はちゃめちゃになにかやらかすとしたら レティはそれを押さえつ
ける事ができるか?
・・・ま、とーぜん俺にはまったく無理だがな・・・^^」

「そんなの、わざわざ聞かなくたって完全に無理だって決まっ
てるじゃないですか!」

「そうなんだよなーW・・・んで マコトにそれをまかせたら・・・
ああーなった」

「???? おっしやる意味がよく解らないんですが?」

ジョンは私が居なかった時に起こった事を正確に細かく話してくれただけど・・・

カミヤが？この世界で最大の？魔力？魔法？

そりゃそうね・・・うん、ジョンに1票！

なので私はこれしか言えません・・・ゆるせマコト！

「うん、それは私にも無理ね・・・マコト、悪いんだけどがんばってね^^」

「うゝゝW・・・レティのWゝ・・・うーらーぎーりーものゝゝ！」

「そこは無理だけど 他の事は協力するから・・・ファイトね、マコト^^」

「うWゝゝゝ」・・・orz

あら、また凹んじやったわ・・・ま、マコトは切り替えが早いし平気かな？

まあ 正直、あの悪戯以外なら 私がカミヤの面倒を見ても良いんだけど・・・ポツ／／／

きゃー！私ってば はずかしゝゝ！・・・／／／

Side 真琴

レティたちが戻ってきたんだけど・・・あっさりと

「うん、それは私にも無理ね・・・マコト、悪いんだけどがんばってね^^」

「そこは無理だけど 他の事は協力するから・・・ファイトね、マコト^^」

って言われちったよーw・・・

うん、・・・いつまでも凹んでちゃだめだ・・・親父さんに主導権を取られてしまう・・・

それだけは絶対阻止しないと！

うん、よし！ファイツおー！・・・がんばれー・・・がんばるんだ！ あたし！

がばっ！

「おうw！いきなり！アホ兄貴！・・・だから！

いきなり抱きつくな！いいかげんにしろ！（バキッ！）ふえぶっ！」

「真琴さんw・・・ハリセンは痛いt「ギロツ！」すんませんです！」

まったく！この親父は進歩がまったく無いな！

・・・あれ？レティ？顔が真っ赤だぞ？・・・ほほに手をあてて・・・くねくねしてる？

いやんいやん？って言ってるなー？・・・なんぞや？

「ねージョンさん・・・レティが変だよ？」

「あーあれかw・・・マコトは知らなかったっけ？まあ、いつもの事だ気にすんな^^」

ん？そーなんだ？・・・でもちよつと気になるわね・・・顔赤いしw・・・

「フォンダ少尉！マック軍曹！よし、偵察で見た事を聞かせてくれ」

ジョンさんのそばにマリンコのみなさんが集まって来ますねー・・・そりゃ状況を聞きたいよね・・・よし、あたしも聞こう！

内容を要約すると・・・見てきた限りではあたしたち以外にはだれも居なかったみたい

ん？でもさ 横田基地って東アジアを統括してるアメリカ空軍極東司令部じゃなかったっけか？

ふむ、おとなりの赤い国たちが勘違いしてせんそー起こしてなければいいけどねー・・・

東西にわかれた空のラインの下は幅2～3kmで砂漠っぽくなって
るそうです・・・

このわかれたライン、正確には南北じゃなくて北北東から南南西を
結んだ線で

2つの世界が分かれてるらしいんだって んでその中心がこの基地

なんだって・・・

お、ジョンさんも異世界トリップと神様のお話もしてますねー・・・
うんうん、みなさーん　嘘じゃないよー　その話はほんとだよー・・・

・
ありゃ？みんな『オーマイゴット』とか『ジーザス！』とかw・・・
ジョンさんと同じだー

アメリカ人はみんなそうなのかな？

「・・・と言う事だ・・・アメリカ軍海兵隊としての行動はここま
でにしたいと思う・・・

これからは、この世界に來た11人が仲間として、そしてこの基地
を1つの国としていきたいと

俺は思う！・・・困難もあるだろう　危険な目にも遭うはずだ・・・
だがそれが俺たちに与えられた
神からの試練なんだ！・・・どうだ？みんな・・・やってくれるか
？」

おお！ジョンさんかっこいいー！
みなさんも納得してるっばいみたいですなー

基地に結界があると分かったのしばらく休憩を取ります・・・
おなかへったー^^

「ヘイ！マコト、レーシヨンあるぞ！マックからもらった^^」

「ゲッ！・・・まあ食べないよりはましかー・・・いただきますジ
ョンさん」

「ジョンでいい・・・みんなにも階級の事や敬語は控えるように行
ったしな^^」

「でもジョンさんがリーダーなんでしょ？」

「まあな・・・本音はカミヤにやって貰いたいんだが・・・」

「へ？兄貴？あれにやらせたらジョンさんが苦勞しますよー^^」

「まあな・・・これからよろしくな！マコト^^」

「はい^^」

さて、方向は決まったね・・・あとは親父さんを抑えながらどーや
つてくか・・・だね・・・

ふー食った食った^^・・・まーあいかわらずまづかったけどねーw
ペンタゴンのレーション部門ってのがあったら蹴っ飛ばしてやりた
いと思うねーマジで・・・

お？レティが荷物持ってこっちに向かって来ますねー・・・

「マコトこれ・・・さっき自分の部屋へ行って取ってきたの^^こ
れはカミヤの分ね」

「あ！あたしのデルちゃん（レティとおそろの拳銃ね^^）とロコ

コちゃん（ライフルね^^）！
おー！みっちゃん（刀ね^^）も！・・・ありがとー横田に持って
きてたんだー^^」

この3点セットがあれば鬼に金棒だね！特にみっちゃんはうれしー！

あ、みっちゃんはね　うちに代々伝わってる平安時代の太刀でね
大典太光代って言う

とってもすごい国宝の刀の影打ちなんだって^^あたしが使うので
刃渡りは短か目の65cmくらい？

太刀と小太刀あいだくらいの長さなんだ^^よく切れるよーみっち
ゃんは^^

江戸時代に罪人の死体で試し切りしたら2人の胴体を真っ二つにし
て3人目の背骨で

止まったってくらいに良く切れるらしいよ・・・ま、親父様の刀は
もつとすごいらしいけどね・・・

んーなんだっけ？そうそう名は童子切って言ったかな？その影打ち
なんだってさ親父さんのも^^

なんでも平安の都で悪いことしてた酒吞童子って妖怪を切り裂いた
刀みたいだよ

刃渡りは少くし長めの80cmくらいだね^^

これも罪人の死体で試し切りしたらしいんだけど　なんと！重ねた
6人ぜんぶ真っ二つで

さらに！土台まで切っちゃったらしいんだよね・・・
ある意味、親父さまにはあってるのかなw・・・

親父さんもレティから太刀を受け取ってご満悦みたい^^

(※ 影打ちとは 簡単に纏めちゃうと目的の名刀を作る段階での本試作品みたいな感じです)

「よしみんな！まずは我々の生存確保とライフラインの確認だ・
・今日のところは
2班に分けて行動する・・・宿泊場所は車両倉庫を中心としたエリアだ」

ジョンさんがみんなに説明してます・・・みんなは黙って聞いてますねー・・・ん？

親父さまだけなんかワクワクしてませんか？・・・いやな予感がw・
・

「レティ、すまんがマックとファスト、ロッテとカミヤ親子をつれて16号周辺の商店を確認、

使えそうな物資をリストアップしてほしい

それが済んだら南方面へ砂漠のジャングル側を進んで偵察を頼む」

「どのあたりまで行きますか？」

「そうだな・・・できれば八王子か相模原あたりまで頼みたいんだが・・・無理はするなよ」

「はい、期間は2〜3日くらいいいですか？それと武器使用の制

限は？」

「オールハンドだ 危険があればかまわない・・・われわれの生存が全てにおいて優先だ^^」

「では M2とMk19が装備されたHMMWV2台で行きます」

「おう！ テイクケア・・・気をつけてな^^」

あたしたちは2台にわかれて出発！

残りの人たちは電源の確保と基地内の各物資を集めたり 物品リストを作ったりするそうです

んで、1台目はレティの運転であたしと親父さん^^

2代目はファスト君運転でマックさんとロッテさん・・・

ロッテさんって医者様なんだよー！ 免疫学をやってるんだってさー
！ すごいねー！

基地を出る前にロッテさんから錠剤をみんな飲まされたんだけど・・・

・
なんだっけ？ がんまぐろばりん？ って名前のお薬で、なんでも微生物とかなんかに対して

抵抗力を養う？ って感じのお薬なんだってさー・・・めっちゃニガかったけどw・・・

で、16号沿いのお店をちえっく！ マックさんと親父さんは車の屋根の上で見張りです！

リストを作りながら南へ向かいます・・・あ、このTシャツいいな
ー・・・よし、貰ったところ！

ほぼ商店街の 物資リスト作り（ウインドショッピング^^）は終
わり！

コンビニから飲食物もいただいて車に載せます（やたー！かっぱえ
○せんだー^^）

ありゃ、マックさん達はお酒もはこんでるぞ？・・・いいのか？

さーて砂漠だぞ！あたしたちはジャングル沿い50m位のところを
平行に進んで行きます

運転手以外は屋根の上からテッポこまえてしつかり偵察^^
そろそろ多摩川くらいかな？・・・でも川なんかまったく見えませ
んがw・・・

「レティ！止まれ！」

お？親父さん・・・なんか見つけたのかな？

「カミヤ！どうした？なにかあったのか？」

「レティ・・・あそこで何かが動いてたんだ」

親父さんが車から降りてジャングルの1点をピシッと指さしてま
すがw・・・なにかいるの？

おお！レティとマックさんさすが軍人！すぐさまM2とMk19を
ジャングルに向けてますね
おくれてロツテさんとファスト君も車のボンネットからミニミをか
まえてます

あたしがM655（ロココ）を構えながら親父さんに近づき・・・

「兄貴、何かいたの？」

「わからん・・・ジャングルが5m位『もぞっ』て感じで動いたん
だ・・・

俺が中に入ってあそこを見てくる・・・みんなはここで待ってろ・・・

・真琴は一緒に来い」

そろりそろりと親父さまはM16A2をかまえてジャングルに・・・
あたしもロロコをかまえてその右斜め後ろ5mから親父さんをフォ
ローしながらついてきます

あ、親父さん太刀持ってきてる！あたしも持ってくればよかったか
な？

「真琴はここで待て・・・俺が確認してくる」

「うん・・・兄貴、絶対もどってね・・・」

「大丈夫だ 逝ってくる^^」

バカ兄貴！それ字が違うから！フラグ立つから！・・・でも無事でいて お願いだから・・・

親父さまが居なくなったら・・・あたし・・・一人ぼっちw・・・
ジャングルの入り口でそんなことを考えていたら・・・

B A B A B A ! B A B A B A !

！
いきなり3点バーストの銃声！

あたしはゆっくりさがりながらロココちゃんのセレクターをフルオートへ・・・

ジャングルの入り口あたりを警戒しながら見ていると・・・

・・・@!・・・は！な、なんじゃありや？

親父さんが走ってこっちに向かって来ます！・・・後ろに・・・後ろにでかいの引き連れて！

ずしーんずしーん！ってこれ足音ですか！？

「おー真琴のびっくり目を見るのは久しぶりだなー^^」

何のんきな事 言ってるんですか！・・・そして あ、あれはなんなんですか！

「おい真琴、固まってないで逃げたほうがいいぞ？あははは^^」

あー！なんで落ち着いてじゃべれるんですか！！・・・そして何んで笑ってるんですか！！
ええ、ええ、言われなくても逃げますよ！・・・逃げますとも！
まったく！このひとは！

「キャー！兄貴のバカやろー！」

「マコト！早くこっちに逃げて！」

レティ！？・・・言われなくても逃げますよあたしゃ・・・うん

兄貴も何をつれてきてるんだか！限度があるでしょ限度つてもんが！
確かに神様はジャングルには動物がいるって言ってたけど！・・・
確かに動物だけど！

「もう！ほんっとうにマジで！ 兄貴のバカやろー！・・・キャー
ー！！！！」

って冒頭につながるわけなんですが！・・・でっかい・・・ティラ
ノサウルスみたいなのが・・・
追っかけてくるんです！・・・めっちゃよだれ垂らしながら！

もう！親父様の無事を心配してたあたしの穢れ無き乙女心を返せー
ー！！！！！！

親父さんてばこんなんばっかし！

ジョンさんレティー！もうあいつをなんとかして！

ほんとに！お願い！・・・

・・・あーW・・・あたしってば親父様の世話係りだったんだW・・・
・・・orz

M16A2だとフルオートが無いのでM16A1のフレームを使っています

んで、6、5、5なので ロ、コ、コって読んでます！

M16シリーズはアメリカ軍の正式ライフルなのです^^

ちなみに今現在海兵隊ではM16A4やM4A1はまだ少なく

メインはまだM16A2らしいです^^

次回は砂漠でのお話です！第一村人発見？になるのかな？作者しだいかな？

それではみなさま！また会いましょう^^

バイバーイ！

テヘツ^^ノ

6話 涙の盗賊さん 親父さん! そのドヤ顔をなんとかしろw! (前書き)

真琴「おはこんばんちはー! どうもです!」

レティ「どーもー^^」

ジョン「おーっす!」

カミヤ「↑ここの義春への変更はあきらめんど!」

真琴「ないない^^」

レティ「そーね^^ないわね^^」

ジョン「んで、俺の出番はまだないのかな?」

真琴「んーどうなんでしょ?」

レティ「とりあえず私はあるみたいよん^^」

カミヤ「↑だからここは義春だってw!」

真、レ、ジ「「しつこい!」「」」

真琴「んじゃ第6話はじまるよーん!」

6話 涙の盗賊さん 親父さん！そのドヤ顔をなんとかしろw！

ズシーン！バキバキ！ズシーン！メキメキ！・・・

ジャングルをなぎ倒しながらめっちゃおっきいゴジラトカゲ？君がこっちへ向かってくる〜！

親父さんと走って逃げてますが・・・逃げ・・・ん？・・・ありや？
親父さんとあたしってば 駆け足めっちゃ速いじゃん！・・・
これが神様が言ってたやつかー・・・助かるね〜ハハ

おう！親父さんライフルをあたしに放り投げて・・・って熱っ！
んだから！撃ったばかりは銃身とか熱いんだってば！

「真琴、みんなの所へ逃げ！・・・みんな！手はだすなよ！いいな
！」

「兄貴！大丈夫なの！？・・・」

親父さんは途中で振り返り 腰の太刀をすらりと抜き放つ・・・両
手でかまえて

あれが出てくるあたりのジャングルをしっかりと見据えて・・・

あたしはレティのところに急いで戻り 車にライフルを放り込み

みっちゃんをつかんで腰にさす

親父さんの後ろ20m位まで近づいて援護の構えをとる

よし！落ち着けよあたし・・・絶対生みんなと生きて帰るんだ！うん！

「レティ！マックさん！援護おねがい！」

「OK！」

ん？後ろでみんながなんかしゃべってるな？・・・いや！今は前方に集中！

S i d eレティ

カミヤがマコトをつれてジャングルに向かってる・・・まあ あの2人なら大丈夫でしょ・・・

あれ以上のコンビは無いモンね・・・あら？ジャングルの入り口に

マコトを残した？・・・

マコトを残す？・・・あれ？結構危険なの？・・・私はさらに気を引き締めた

「マック！もしかしたらNO, 10かも！」

「ナンバーテンかよ・・・OK、了解！」（※No, 10とは最悪って意味のスラングです）

「レティさん・・・あの親子ほんとにへーきなんスかね？」

「ファスト・・・基地でも言ったけど大丈夫よ　ま、見ててもらいなさい^^」

「ファスト！マコトは俺の剣道の先生だぞ！で、俺はまだマコトに1回も勝った事が無いんだぞ？

・・・それにカミヤはマコトの剣や武術の師匠でもあるんだ^^」

「まじっスか@@！マックさん！」

B A B A B A ! B A B A B A !

ライフルの銃声！

みんなに再度注意をうながさないと！

軍医のロツテは大丈夫かな？射撃経験はあるはずだけど・・・

「みんな！くるよ！ロツテ！セーフティは外れてるよね！？・・・構えて！」

「それでも海兵隊員ですよ？レティさん^^」

OK、よし、みんな落ち着いてるわね・・・
あら？カミヤが走ってくる・・・マコトも遅れて来るわね・・・

ズシーン！バキバキ！ズシーン！メキメキ！・・・

なに！いったい何が来るって言うの！

え！あ、あれって！・・・恐竜！？

「まだ撃つな！2人の安全が先！目標がジャングルから出て射界が
開けるまで待て！」

「キヤー！兄貴のバカやろー！」

マコトが叫んでる！

「マコト！早くこっちに逃げて！」

「もう！ほんっとうにマジで！兄貴のバカやろー！・・・キヤ
ー！！！！」

うん、その気持ちは痛いほど解るわね・・・

え？カミヤ！？マコトにライフルを渡した？なんで？・・・立ち止
まって振り返ってる！

「真琴、みんなの所へ急げ！・・・みんな！手はだすなよ！いいな！」

「兄貴！大丈夫なの！？・・・」

カミヤは途中で振り返り 腰からカタナをすらりと抜き放ち・・・
両手でかまえて・・・

ジャングルをしっかりと見据えている！

カミヤ・・・1人でやる気なの？・・・無茶よ！危険だわ！

マコトも心配そうにしているわよ！

マコトは急いで戻り 車にライフルを放り込んで 自分のカタナを
つかんで腰にさす・・・
マコトもやる気なんだ！

「レティ！マックさん！援護おねがい！」

「OK！」

そう言って駆け出すマコトの背中を見ながら

私は返事をしてM2重機関銃の銃握をもう一度しっかりと握りしめた・・・

Side 真琴

さあ、そろそろ出てきますかねw・・・

ズシーン！バキバキ！ズシーン！メキメキ！・・・来た！

おうw！身長10m以上はあるんじゃないかい？

恐竜さんに親父さんがジャンプして・・・って！飛びすぎ！それじゃ飛び越えちゃうって！

あゝあゝ 案の定 頭を飛び越えて 尾っぽの方までいっちゃったよw・・・

あらやっちゃったって顔でニヤケるな！バカ親父！

www・・・緊張感がw・・・緊迫感がw・・・あ！

「兄貴！横！危ない！（ドカッ！）」

すっ飛んでく親父さま・・・横殴りの尻尾をもろにくらった！？・・・くっ！

こいつ！ゆるさん！

あたしは居合いの構えでジャンプ！そのまま恐竜の首の横を通りすがりに

スパッ！と一閃！

スタツつと着地して再度向き直るが……向き直る……ん？……あれ？……

恐竜さんってば　ぴくぴくするだけで動いてないぞ？

ずん！・・・首が！もげましたがな@！

ずしーんｗｗｗｗ・・・さらに！恐竜さん倒れましたがな@@!・・・あれ？あたしってば強い？

は！親父さま！怪我は無いのか！・・・うつ伏せで倒れてる！・・・

あたしは心配で駆け寄りました・・・父さん！

親父さんの横で膝をつき怪我の具合を確かめます・・・そのとき!

「マコト！伏せて！」

D O D O D O D O D O D O ! (レティのM2
ね ^ ^)

B A B A B A B A B A B A B A B A ! (ロツテさんと
 ファスト君のミニミニね^^)

BAW! . . . BAGGOON! (マックさんのMk19だよ^^)

おう！レティ！なぜに一斉射撃！？

「射撃止め！」

レティの号令で静かなったけど・・・後ろを見ると・・・うげ！
5〜6匹？（ミンチになってるのでわからん^^）ほどの小さい恐
竜が・・・

小さいって言っても2m弱位はあるか？・・・これって・・・ラプ
トルっぽい？

は！そうだよ・・・親父さんは！・・・倒れてる親父さんを抱き起
こそうとして・・・
ん？・・・ん？こいつ　もしかして笑いをこらえてる？

「あはは！真琴^^・・・あまりにも身体能力が上がってるんであ
の恐竜から1発くらってみて
身体が大丈夫なのか試したんだ^^ちっと痛いだけだも「ばかー！
（パカーン！）」ぐへっ！」

「うw・・・そのハリセンの方が　い、痛いw・・・」

「し、心配したんだぞ！このバカ！・・・も、もう　おまいの心配
なんかしてやるもんか！」

「あなたたちってどこでも親子漫才ができるのね・・・うらやまし
いわ^^」

「うw・・・れていゝってばw・・・」

レティが・・・あたし達を見て笑ってるw
で、でも・・・親父さんを心配したあたしってば偉いよね？・・・
ね？・・・orz

さて、気を取り直してこの恐竜さんたちの実況見分ですな・・・

おお？ファスト君てば周りのミンチを見てびびりながらこっちにきますねー

かわいいのう・・・んであたしのそばにきて・・・

「お、俺の師匠になってほしいっス！マコトさんの戦いを見てあなたの戦い方にほれましたっス！」

は？・・・なんですと？・・・師匠？だれが？・・・あたし！？

「うん、無理！」

「な、なんでですかw」

「親父様の面倒見ながら教えるのは無理！・・・（ん？までよピコーン！^^）・・・
ファストくん「ファストでいいっス！」・・・んじゃファスト、あ

たしもねある人の弟子なの」

「だれっス！？もしかしてお父様っスか？」

「そうそう^^だから弟子入りなら親父さんに言ってね^^」

「はいっス！ではマコトさんはアネさんっスね^^俺がマコトさんの次の弟子っスから！」

「姉さん・・・（orz）」

まあ、でも親父さんも若い弟子がそばにうろちよろしてたら悪戯もへるでしょ・・・

二ヒヒ・・・あたしってば賢い？^^

それからみんなで恐竜の死体の傍へ来て・・・親父さんが遭遇した状況を・・・

「ジャングルに入って50m位か？そこでこのデカイのに逢ったんだ・・・こいつの周りに

あの小さいやつが7〜8匹いて喧嘩してて・・・んで小さいやつが俺に気がついたみたいで

2匹ほど飛び掛ってきたもんだからライフルで仕留めた・・・のはいいんだけど・・・

銃声であのどっかいのもこっちに気がついて・・・

後は走ってジャングルを飛び出したって所か？そっから先はみんな

も見ての通りだね・・・」

ふむ・・・あれ？親父さん6発しか撃ってないよね？・・・6発で2匹倒したの？

でもM16A2の5.56mmじゃ・・・威力無いよね？

やっぱりこの世界ではあたし達の武器は攻撃力が高いのかな？・・・どーなんだろう？

よし、みんなに聞いてみよう

「ねえ、レティ あっちでミンチになってるのってさ 機関銃とかの破壊力が大きすぎない？」

「そうね・・・私もそう思ったわ・・・マックは？」

「うむ、俺の撃った榴弾は2m位はずれていたんだが・・・爆風で首がちぎれてたな・・・」

ロツテさんとファストも『うんうん』と頷いてますな

「やっぱり神様が言ってた通りなのね・・・マコトのカタナなんて光ってたしね！」

「へ？みっちゃん光ってたの！？」

「うん・・・マコトはたぶん 無意識に強化の魔法をかけてたんじやないかな・・・」

「そうなのかい・・・そりゃよく切れたはずだw」

魔法ってすごいね．．．はやくちゃんと覚えたいな

それからジョンに無線で恐竜との遭遇をレティが報告して出発！
ファストのお願いで親父さんが後ろの車に行きました．．．んでロ
ツテさんがこっちへへへ

あたしの作戦はうまく行ってるねへへ

さらに進んで距離的には八王子の市街地を越えたくらいかな．．．
は！．．．あうっ．．．い、いかん！やばい！．．．もれる．．．

「ちょっと、レティ．．．止まってくれるかな？．．．お花摘みし
たい！」

「OK へへちようどいいのでこの辺でキャンプしましょうかへへ」

「ありがとーへへちよつと丘陵の物陰まで行ってくる」

ひょいとロココをつかんで車を降りて丘陵の向こう側まで．．．
しゃがんでつと．．．ふっすっきり！．．．
テッシュはポケットだったねへへ

．．．よし終了っへへ．．．ん？．．．お！．．．あれって！
．．．たぶんヘリコプターじゃね？

あたしはレティのところまでもどってハンビーのエンジンをかけて

出発準備！

「レティー！ちょっと来てー！」

「なに？どうしたの？エンジンなんかかけて」

「あっちにヘリが不時着してるみたいなの！見に行こう！」

「え？ほんとうなの？」

「うん！みんな行くよ！」

レティをルーフの銃座に上げてロッテも一緒に乗ってもらいます
あ、あたし運転できるんですよ？去年免許は取ってます^^
後ろから親父さんたちの車もついてきます

4〜5Km走ってヘリの側へ車をつけて・・・おお！ロッテさん！
はや！さすがお医者さん^^

ピュ〜ッって走っていっちゃった^^

ヘリは無事みたいだねー・・・うん、どこも痛んでないや^^

コックピットに2人いるみたいだけど・・・ロッテさん・・・気絶
してるだけ？よかった！

にしても・・・でっかいヘリだな・・・輸送機みたい・・・

お！パイロットさんたち気がついたみたい
ふむ・・・ロッテさんの話だと離陸して高度を取ったら直ぐに周り
の景観がガラッと変わって

意識が朦朧となつてきてとりあえず不時着したらしいんだけどそこまでしか覚えてないらしいよ

名前はパイロットがヒューイ少尉さんで　コパイ件整備士がベル軍曹さんだつて^^

マックさんがジョンさんに連絡したら飛べるようなら横田基地まで来て欲しいってさ

2人に詳しい状況を説明して協力してもらいんだつて^^

ベルさんに聞いたんだけどこのヘリは『CH-53Kスーパースタリオン』って言うんだつて^^

西側最大のヘリコプタなんだつて！すごいね

でもまだ試作機で試験飛行中のものらしいよ　なんでも搭載能力がUPして今まで積みなかった

ハンビーが積めるようになって　さらに武装も機関銃が1丁から2丁に増えたらしいよ

元気になったヒューイさんとベルさんは早速横田基地に戻るそうです　よかったね^^

砂漠でヘリを駐車？駐機だね・・・させるのは機械に良くないそうです

バイバーイ！またあおうね^^

さてさて、あたしたちは夕食とお休みタイム！

あ、マックさんレーションじゃないよーそれいらなーい^^！コンビニに弁当があるんだよ^^

カップスープもありますよ^^

ちなみにかっぱ○びせんはあたしのじゃー！・・・ええ、あげませ

んとも！

簡易テントで4人はお休み・・・2人は見張りです・・・見張りは交代ですよ？もちろんね^^

最初はあたしと親父さん・・・あたしは東側担当で親父さんは西側です

ここは砂漠の真ん中へんなので森やジャングルまでそれぞれ1km位はなれてます

ルーフに上がって照明弾をとなりに置いて・・・コーヒーを・・・うん、おいしい！

親父さんなにかやらかすかって心配してたんだけどさすがに疲れてるみんなを考えて

おとなしく見張りをやってますね・・・いつもこーなら良いのにね・・・

ん？親父さん？・・・みんなの期待をはずしてすいません？・・・なに言ってるんだかw・・・

星がきれいだな・・・あんな星しらないや・・・やっぱり違う世界なんだな・・・

それに魔法か・・・無意識じゃなくてちゃんと使えるように覚えたいなあ・・・

魔法の先生でもいればいいんだけどねw・・・な～んて考えてたら・・・

さて交代ですね^^3時間交代なのであたしは6時間は寝れますね^^

お休みなさ～い！まる^^

「・こ・お・な・」

「まこ・おき・さ・」

「まこと！起きなさい」

「ふえ〜？れてい？・・・おはよ〜・・・ふあ〜W・・・」

ぼー~~~~・・・ぼー~~~~・・・
・・・あ〜〜Wまだ・・・ねむいぞ？・・・（あたしや朝がよわ
いんですW・・・）

「ほんと^^マコトは寝起きが弱点ね^^」

「うん・・・ねおきはらめ〜W・・・」

「アネさんは寝ぼすつけっスね^^」

ハンカチを濡らして・・・顔をふいてっど・・・おー目が覚めたー
^^

ファスト・・・うるさいよ！

コインフレークをミルクでかきこんでっど・・・装備確認・・・よし！OKだ^^

本日の予定は・・・お昼ごろまで南へ進んでまたこの辺にもどって
キャンプするの
か
戻るときは東の森林側をもどるのね・・・よし、行きますか！

今日は順調に進みます・・・10時ころに大きな川にぶつかります・
・500mはありますかね？
場所的には相原か橋本あたりですかね？

「HMMWVじゃ無理ね・・・渡るならLAV-25かAAV7が
いるわね・・・」

「んじゃ戻る？レティ」

「そうね・・・もし先に進むんなら次回は車両の乗換えが必要ね・
・ジョンに報告するわ」

レティは無線でジョンとおしゃべり・・・あー暑いから泳ぎたいな
あー・・・

でも何がいるか分からないモンね・・・この川に・・・
あ！親父さん飛び込みやがった！・・・いいな・・・水着もって
くればよかったw

あーきもちよさそう・・・ファストのやろう！あいつも飛び込んだ
！マックさんめかい！
ふん！あたしやもう知らん！え○せんのやけぐいだー！

それから早めのお昼ご飯を食べて・・・だから！マックさん！レ
ションはいらないって！

帰り道は東の森の方によせてと・・・うん、運転たのしいねーハハ

もう直ぐキャンプ予定地だね・・・帰りも平和だったねー・・・ん？なにか聞こえた？

「キャー！たすけてー！」

親父さん・・・銃座の上からこっち見てテンプレ！ってw・・・そのドヤ顔やめれ！
バックミラーにうつって見えてるんだからね！

あたしは悲鳴の方向へハンドルをきります・・・よし、2号車もついてきてる！

「レティ！悲鳴の方へいくよ！射撃用意して！ロツテさんも後ろの銃座にあがって！」

「はい！マコトさん」

森へ少し入ると道がありました・・・お！見えたぞ！・・・馬車が襲われてる！？

2台のハンビーで近づいて・・・30m位手前で横向きに急停車！

ありゃ？襲撃現場のみなさんはこっちを見て驚いて固まっていますな～
やっぱりこの世界じゃ車は珍しいよね・・・

あたしが降りると親父さんもバツって感じで降りてきます・・・あ

ら？もうやる気満々なのね・・・

親父さん1人だけ恐竜倒せなかったせいでストレスあるのかな？
みんなはルーフの銃座で火器をかまえてます

女性ばかり？商人みたいな人？と冒険者？達を襲ってるのは盗賊
？っぽいヒゲ面の男達・・・

いやらしい顔をしてんな〜この盗賊たちw・・・

親父さんもテンプレ〜ってなドヤったいやらしい顔してるしw・
・まじめにやれ！

「んで真琴・・・どっちをやっつける？」

「そりゃ決まってるでしょ？男の方！女性を襲う男なんかけちよん
けちよんにしちやる！」

がばっ！

「をい！こんな所で抱きつくな！ばか兄貴！TPOを考えろ！TP
Oを！」

「だってw・・・男の方に行くなんてお父さんしんp「違う！（パ
シーン！）」グハッ！」

「んだから！男の方をやっつけにいくの！まったく！」

「だから、そのハリセンは痛いんだってb「ギロッ！」すんません
でした！」

親父さんはスライング土下座でぺこしてます

ほんとに！この親父は！緊迫感の欠片も無いんだから！・・・ん？
・・・ありや？

あれ？・・・前も後ろも・・・味方も盗賊さんも・・・みくんなあ
きれてる？

だよーこれじゃ正義の味方じゃなくてただの漫才師じゃんw・・・

あゝまた凹んできましたよw・・・

えーと・・・この状況・・・どうしよっかなー・・・この沈黙は結
構つらいぞ？

でも、なんで・・・いつもいつもこーなるのー！・・・orz

6話 涙の盗賊さん 親父さん! そのドヤ顔をなんとかしろw! (後書き)

真琴「お疲れさまー^^」

レティ「おつかれー^^」

ジョン「出番が無い・・・こないだまでのレティの気持ちかわつきたよw・・・」

レティ「でしょー^^ふん!^^」

ジョン「取り合えず作者さま・・・出番ください・・・」

レティ「ファストくんが変わりにがんばるらしいわよ?」

ジョン「なんですと!」

カミヤ「ところで真琴・・・キャンプしてゆうべは着替えたのか?」

真琴「うw・・・着替え持ってきてないもん!」

カミヤ「そうか・・・まあ、下着は下だけだから・・・上はいらないモンな」

真琴「・・・どーゆー意味かな^^」

カミヤ「いや、ぺたんこのその大きさはいらんだろ? ぶら^^」

真琴「・・・ロココちゃん出番だよ^^」

ジョン「レティただぞ? 逃げようか?」

レティ「そうね! いそいで逃げるわよジョン!」

真琴「コキユートスで寝そべって来い! このバカ兄貴!」

どうも^^作者のM2ー1015です^^

今回やと恐竜等が登場できました

第一村人?と盗賊もちよこつと出せました

あらすじに沿って書いているのですがこの主人公たちって

ほんとにかつてに動いてしまつて書くのが大変なんです^^
しばらくは1〜2日のペースで投稿できると思います

今回は 第一村人と冒険者のお話になりますかね・・・
ジョンさんはその次かな？ ^^

それでは皆さんの笑顔がもっと増えますように^^
では！ ^^ノ

7話 涙のキャンプ あたしだってある程度はあるよね？何って胸ですよW(爺

真琴「まいどです^^」

レティ「うふふふ・・・どうもです^^」

カミヤ「↑まだこのままなのか？」

ジョン「このままじゃね？・・・っつか出番くれ！」

真琴「次回はあるんじゃないかな・・・出番が」

ジョン「wwww・・・」

カミヤ「俺だって少ないぜ？セリフとかさ」

ジョン「あるだけいいじゃん！」

レティ「わたしは順調になってきたわね^^」

ジョン「基地に残らなきゃよかったw・・・」

真琴「今回はどんなお話なんだろうね？^^」

カミヤ「まあ・・・今回、真琴は落ち着いていこーな？」

真琴「ん？なにかあるの？」

カ、レ、ジ「「「「「「「「」」」」」」」」」

真琴「ん!？」

レティ「さ、マコトはじめましょうね^^」

真琴「んじゃ始めます・・・ん？←このサブタイトルって？・・・」

レティ「は！やばい！第7話のはじまりです！」

7話 涙のキャンプ あたしだってある程度はあるよね？何って胸ですよW

S i d e ? ? ?

私はヒーノ村の村長であるお父様より 今年の税を王都であるシャ
マールの町へお届けすると言う
とても大事な命を言い遣いました
私はこの大役を誇りに思っ昨昨日村を出たのです！

ああ、それが・・・なんと言う事でしょう！

2時間ほど前より盗賊に襲われ 命からがらここまで馬車で走りま
したが

とうとう馬が疲れ果てて倒れてしまったのです・・・

倒れた馬に馬車が乗り上げ馬車の車軸も壊れてしまいました
これでは馬車はもう使えません！

幸いに馬が疲れていてスピードが無かったので馬車は横転せずに済
みましたが・・・

「キヤー！たすけてー！」

私は怖くなり叫んでしまいました
村でギルドから雇った2名の冒険者の方々が直ぐに馬車から飛び降

りて剣をすつと構えます

護衛の村人3人も剣を抜き 私を守るように壊れた馬車の前に立ちます

盗賊たちがやって来ました・・・5～60人位はいるでしょう・・・絶対絶命です！

！弓矢が飛んできました！私は御者台のかげに飛び込みますが・・・頭をあげると・・・

冒険者の方々は剣で矢を払いのけていますが傷を受けている様です・・・下を見ると・・・

ああ・・・護衛の3人が頭や胸に何本もの矢をうけて・・・血だらけに・・・

あれでは助からないでしょう・・・私は絶望感で一杯になりました・・・すると・・・

あら？土煙が・・・盗賊たちの後ろからすごいスピードで馬車？が走ってきています

50m位手前で2台の馬車が急に止まります・・・え！馬車じゃない！・・・馬がいません！

あんな乗り物を見たことはありません！

私達は盗賊も含め見たことも無い乗り物に対して固まってしまっています

それぞれの天蓋に人が1人づつ・・・あ、いつの間にか2人づつになっってます！

それぞれが なにか鉄の棒？複雑な形の棒を盗賊達に向けています
すると扉が開いて腰にレイピア？をさした男の子？が降りてきまし

た14〜15歳位でしょうか？

私と同じ歳位の男の子は濃い茶色の髪に限りなく黒い茶色の目をして
います！

初めて見るふしぎな色です・・・でも・・・かっこいい！

違う馬車？から騎士様？も出てきました

黒い髪！黒い目！私はそんな人間なんて見るのははじめてです！

騎士様もレイピアを持っています

スラリと抜き放ち・・・は！レイピアではない！？あの様な剣はは
じめて見ます

助けて頂けるのかしら？・・・

あら？・・・じっと見ていると男の子と騎士様は何かの寸劇？をは
じめています？・・・

貴方達は旅をしている芸人さんなのですか？・・・
まわりはみなあきれ返っています・・・

えー、あのー、私達を・・・助けて頂けるんですよね？・・・？？？

S i d e 冒 険 者

このままではまずい・・・馬が限界を超してる・・・
後ろを振り返る・・・やつらはあきらめてはいない
たずなを引き締め・・・いかん！・・・馬が倒れた！・・・バキッ
！ガガガガ・・・ボキッ！
・・・馬を巻き込んで車軸が折れた！？・・・ガッ！ズザザザザ
ザー！
馬車がスタックした！

「キャー！たすけてー！」

村長の娘が悲鳴をあげる・・・クッ・・・戦うしかないか・・・

私は馬車から飛び降りる・・・相棒も私にならない降りてくる
私達は盗賊に剣を抜いて構えた
村から来た護衛も娘と馬車を守るようにして剣を抜く・・・

は！矢が！私と相棒は剣で矢を振り払って・・・うつ！1～2本掠
ったか？

護衛の3人は・・・ダメか・・・だが！ただでは死なんぞ！

きっ！っと気合を入れた目で20mほど先の盗賊達をにらむ・・・
む？

その後ろから土ぼこりをあげて高速で馬車がせまる・・・援軍か！？

馬車は盗賊から30mほどの所で止まり・・・なに！なんだあれは
！馬車なのか！？

う、馬を繋いでない！・・・それで走れるのか！？

それぞれの屋根に人が1人づつ・・・あ、いつの間にか2人づつに！

なんだ？あれは！なにか鉄の棒？の様な複雑な形の棒を盗賊達に向けてる？武器なのか？

すると扉が開いて腰にレイピア？をさした14〜15歳位男の子？が降りてきた

年下の少年は濃い茶色の髪に限りなく黒い茶色の目をしてる！あんな色の目は初めてだぞ・・・

違う馬車？から騎士も出てきた・・・いや、剣士か？

黒い髪！黒い目！私はそんな人間なんて初めてみたぞ！

細めの腰の剣・・・この騎士もレイピア使いなのか？

スラリと剣を抜き放ち・・・は！レイピアではない！？あの様な剣は見たことが無い！

こちらに助勢してくれるのか？

え？・・・しばらく見ていると・・・コントなのか？少年と剣士が何かの寸劇？を始めたな？

旅の芸人一座なのか・・・彼らは？

まわりはみなあきれ返っているな・・・私も気が抜けたぞ？

えー、あー、われわれを・・・助けに来てくれたんだよね？・・・
???

S i d e 盗賊

やっと追い詰めてきたぞ！・・・俺は盗賊団のお頭として命令を出す

「おまえら！もうすぐやつらの馬がつぶれる！馬車が止まったら弓で矢を飛ばせ！

護衛は殺すんだ！女は捕まえろ！・・・いいな！」

よし！馬がこけた！いい具合に馬車とからまったな
お！馬車も壊れたぞ・・・

「今だ！矢を飛ばせー！」

馬車の側にいた3人は殺ったな・・・後はあの女冒険者か・・・く
つくつくっ！

ぶをををーん！

なんだ！あの音は！・・・ん？後ろか！・・・馬車が2台？・・・
土ぼこりで良く見えん！

馬車は俺達から30mほどの所で止まり・・・ありやいったい何な
んだ！？馬車なのか！？

馬もないで走ってきたのか！？

屋根に人が1人づつ・・・2人づつにふえたぞ！

なんだ？あれは？なにか鉄の様な複雑な形の棒をこちらに向けてるな・・・武器なのか？

すると扉が開いて腰にレイピア？をさしたガキが降りてきた

ガキは濃い茶色の髪に限りなく黒い茶色の目をしてる！

あんな色の目は初めてだぞ・・・

違う馬車？から男も出てきた・・・剣士か？

黒い髪！黒い目！俺はそんな人間なんて初めてみたぞ！

剣が細めだな・・・レイピア使いなのか？

男が剣を抜き・・・は！レイピアじゃない！？あんな剣は見たことが無いぞ！

お？・・・なんだなんだ？ガキと剣士が何かの寸劇？を始めたぞ？・

・

流しの芸人一座なのか・・・あいつらは？

部下どもはあきれ返って固まってるな・・・あいつらは何がやりたんだ？

あー、んー、俺達は攻撃中だったよな？・・・もうやっていいのか？・・・???

Side 真琴

「え〜ん！親父さんのせいで白い目で見られてるよ〜w・・・」

「気のせいだ！」

「ぜ、絶対ちがうよ〜」

「まあ、それは置いといて・・・真琴！やるぞ！」

「置いとくな！・・・でも、うん・・・やりますか！」

あたしもみっちゃんを抜いてビシツツと盗賊にむけて構える！
盗賊に向けて言い放つ！

「おっさん！強盗殺人の現行犯だぞ！神妙にすれば殺さないでおく！大人しく捕まれ！」

「なにをほざいてるガキが！この人数で俺達とやり合うってか！片腹痛いわ！」

「あくまでも引かないつもりなんだね！」

「坊主！男のガキは家でおっぱいでも飲んでろ！」

「・・・（ニコッ ^^）」

(レティ…あちゃー・・・うん、盗賊・・・死んだわね・・・アーメン)

「ううう！真琴をバカにするとは！ゆるせん！」

あ、親父さん突っ込んで行っちゃった・・・ふう・・・しゃーないW行きますか^^

「レティ！弓矢持ってるのと魔術使いそうなのを撃っちゃって！」

「了解よ！さあ、みんな！ロックンロールよ！」

あたしは最短距離を切り開きながら冒険者さんたちの方へ助太刀に向かいます

親父さんは・・・うん、手当たりしだい？・・・好きにやってね^^

DODODO！BABABABAN！

おーレティ達もがんばってるね！・・・馬車に近づきながら

「マコト・カミヤ 助太刀します！」

「すまん！・・・あーそのなんだ、コンもあの気の引き方は・・・うまかったぞ？」

「なぜに疑問系なの！それに言い直したよね！？」

「いや！すまん！助かったのは事実だ！」

盗賊に斬り付けながら冒険者さんとはなします

はーはー・・・ほぼ かたずいたかな？

は！親父さんまった！そのボスっぽいのはあたしがやるから！

「兄貴！そいつはあたしがやる！」

「・・・真琴をコケにしたんだから俺がやりたいんだが・・・まあ
いっか？ほれいいぞ？」

親父さんに代わってボスっぽいものの相手します

「坊主！俺に勝つつもりかい！・・・返り討ちにしてくれるわ！」

左右にみっちゃんを振り血を飛ばして鞘に収めます・・・軽く深呼吸
吸をして・・・

右手で柄を握って・・・左手の親指でコイクチを・・・そして相手
に向かって走って

「はっ！」

左胴に一閃！

あたし得意の居合い抜きでフィニッシュ！^^

盗賊さんもあたしを男の子扱いしなければねー・・・お、女の子な
んだぞ！ふんっだ！

全員が馬車のそばに集まります
これから自己紹介ですかね^^

「助けて頂いて有難う御座います 私はヒーノ村の村長の娘でメアリ・エンジェスと申します」

「わたしは冒険者で剣士のリリス・ヒューイットだ よろしく・・・
こいつは相棒の・・・」

「ケイト・ウォーレンスです・・・魔法剣士やってます」

おお！生魔法使い！・・・魔法教えてくれるかな？後で聞いてみようっと^^

「あたしはマコト・カミヤでこっちが親父様のヨシハル・カミヤね^^」

「私は小隊指揮官のレティ・フォンダよ よろしく^^」

「俺はマックだ^^」

「ファストです どうも^^」

「ロツテです・・・軍医で医者をしています・・・お仲間の方は・・・お悔やみを申し上げます
それと・・・メアリさんとケイトさんは怪我をしている様なので私が診ますね？^^」

そっかー・・・戦闘が終わって姿が見えないと思ってたら ロッテさんってば

矢でやられた人たちを診てたんだねw

ロッテさんが2人の応急処置をしています・・・リリースさんが言いました

「ありがとう助かったロッテ殿・・・取り合えずここから離れたほうが良い・・・

この匂いで・・・血の匂いで魔物が寄ってくる・・・いそいだほうが良いぞ」

ありゃ？魔物ですか！・・・そーゆー事なら急ぎましょう！

まず護衛さん3人のお墓を掘って・・・埋めました・・・なむ！

臨時の措置として2台のハンビーに積めるだけ馬車の荷物を移して・・・全部は無理かな？

メアリさん達3人にあたしの車に乗ってもらって・・・狭いけどがまんね^^

レティがジョンさんに無線で状況報告！

「マコト、ジョンからだけどメアリさん達を基地につれて来て欲しいらしいんだけど・・・」

「そかー・・・うん、今晚のキャンプで話してみようよ」

「そーね・・・ジョンにはそう言っておくわ^^」

さて、夕べのキャンプ地へ向かいますかね・・・もちろんあたしの運転で^^

異世界のみなさんは目が・・・@!・・・になってます！

曰く速い！とか揺れが少なく乗り心地が良い！とか鉄で出来ている！とかねー^^

驚きっぱなしみたいですよー・・・

食べ物のお菓子とかどんなのがあるの？って聞いたら

くだものくらいで甘いものってほとんど無いんだって・・・あってもほぼ貴族用らしいよ・・・

キャラメルあげたらめっちゃおいしい！って喜んでました

ありゃ・・・メアリさん？顔が真っ赤ですよ？ん？あたしと目が合うとそらす？

盗賊に襲われてまだ落ち着かないのかな？・・・ん？

キャンプ地に到着ー！さあご飯だー^^・・・

あー、そうだったw・・・コンビニ弁当もう無いんだったw・・・

ありゃりゃw・・・

でもかっぱえび〇んはまだあるよー^^

マックさん！だから！うれしそうにレーション持ってこないでってば！・・・

ニコニコしながらみんなに配ってるw・・・異世界組はなんじゃこりゃ？って顔してるねー

・・・まあ、それしかないから食べますけど・・・はい、食べますです・・・

いただきます！

このレーションなんだけどねーメインディッシュとパンクラツカ
ーが付いててね

ココアとお茶かコーヒー、あとガムとチョコレートとデザートと・

・
塩コショウ、タバスコ、ナプキンとお手拭とスプーンとマッチが入
ってるんだよ

そうそう、温たため用の水ヒーターも入ってます^^（めっちゃ熱
くなるんだよこれ！）

スプーンは自然分解するらしいよ・・・ちよっただけエコ？

メインの味が24種あるんだけど・・・え？おいしいやつ？・・・
んー

まあ、おすすめ？は（なんとか食える？ってのは）パスタ系かな？

（レーションファンの方 すいませんね^^）

異世界組みに食べ方を教えてあげて・・・

ありゃ？異世界組の方々はびっくりしながらおいしい！って食べて
ますねー・・・うまいかそれ？

・・・ってことは・・・こっちの世界のご飯は期待できないのか？

・・・それはやだなーw

はい、カップスープもどうぞ^^・・・おースープがそんなにうれ
しいのか？

インスタントだからお湯をそそぐだけだぞ？・・・魔法か！とか言
ってるし・・・

へ？そうなんだー・・・あのねこの世界は基本的に旅の最中は保存
食がメインなんだってさ・・・

旅で温かい食事はほとんどないんだって（レーションも保存食なん
だけどねー）

あ、そうそう　おいしい？　からってレーシヨンの毎日レンチャンはだめよ？

アメリカ軍でも最大連続2週間までしか食べちゃいけないらしいからねゝゝゝ

ちなみにノルウェー軍だっけか？　なんと1食7500カロリーのレーションがあるらしいですゝゝ

レーションは太ります！　まるゝゝ

食事が終わってミーティングです

お！　親父さんはファストと訓練か？　・・・良い傾向だねー　いつてらっしゃーいゝゝゝ

ファスト　がんばるのだよ？　ゝゝ

んで異世界組みさんたちとお話です

なんでもメアリさんたちは今年の税を納めに王都まで行く途中だったんだって

護衛も3人いなくなっちゃたし馬車も無し・・・しかも持ってこれた荷物は半分くらい？

あたしとしては良いチャンスなんで王都まで護衛かねて行きたいんだけどねー

でもメアリさんの税の半分はどうするかね・・・お！　ひらめいたぞ！

「ねえ、レティ・・・あたしたちもこの国の王様に用があるでしょ？　だから一緒に行くのが

ベストじゃないかな？・・・んでメアリの足りなくなった税の分とあたしたちも王様へのおみやげってか献上品をもって行くの^^」

「マコト・・・おみやげってなにもってくの？」

「16号沿いの基地の人相手のおみやげもの屋さんからとりあえず持ってくるだよ^^

この世界ではめずらしいものばかりでしょ？・・・でも武器はまだだめ！わたさないよ^^

どうしても武器がほしいってんならエアガン渡せばいいじゃん^^」

「ふむ・・・それはいいアイデアね！・・・LAV-25も一緒になら多分だけ安全ね^^

早速ジョンに連絡するわね^^」

レティは連絡するために車にむかっていきます

ジョンさんは賛成したみたいです^^

あたしは異世界組みにこの提案をします

「・・・って事なんだけど・・・メアリはどうかかな？」

「はい！とてもうれしいですけど・・・宝物まで頂いていいんですか？／／／」

「うんいいよ^^安物だしね・・・あと、リリースとケイトはどう？」

「私はメアリが良いならそれでかまわんよ？ケイトは？」

「うんいいよ」

「んじゃ、けってー^^あとケイトに個人的にお願いがあるんだけどいいかな？」

「何でしょうか？」

「うん、魔法を教えてほしいんだ^^魔力はいっぱいあるらしいからねあたし」

「まった！マコト殿・・・私もお願いがある・・・マコト殿に剣を教えてほしい」

「へ？あたし？」

「そうだ、交換条件だケイトがマコト殿に教えて　マコト殿が私に教える・・・どうだ？」

「んーカタナがいるなー・・・古物商でも探してみるかな？・・・うん、良いよ^^」

「すまん、ありがたい^^」

みんなあたしにしゃべりかたが硬いんだよねー特にリリースね・・・肩こっちゃうw・・・

うん、女の子どーしなんだからざつくばらんに行きたいよねー・・・よし！

「あたしからお願いなんだけど・・・歳もあまり変わらなさそうだ

し敬語無しでさ

もつとざつくばらんに話しません?・・・女の子どーしなんだしさ
! ^^」

お?、お?・・・どーした?・・・みんな?なに固まってるんだ?
・・・ん?

「「「えーっ@@!」「」」

なんだなんだ?

「「「マコト・・・」」」

あたしが?

「「「女の子だったんですかー!」「」」

・・・・・・orz

「・・・女ですよ?・・・」

「「「「・・・じー・・・」」」」

あーん!男の子に見られてたー!・・・てかメアリはなんで残念そ
うな顔してんの?・・・

グスッ・・・あたし、泣くぞ?・・・こんなに美人でかわいいのに・
・

た、確かにみんなより・・・む、胸ないけど!・・・あ、凹みそう・
・

がばっ！

「おう！また！いきなり抱きつくな！ばかあにk「うっちゃり！どしーん！」うげっ！」

うっちゃりってw・・・相撲かい！・・・くらっちゃみたいw・・・そして投げ飛ばすな！

ああw・・・腰がw・・・いててw・・・

「おまいは！抱きついたあげく、うっちゃりかい！投げ飛ばすな！バカ兄貴！」

「だって・・・真琴がみんなより小さいおp「死んでしまえー！（バッキーン！）」グハッ！」

はーはー！こいつは！いつもいつも！いーかげんに・・・は！異世界組みが・・・あたし達を白い目で・・・そ、そんな目であたしをみないでー！

あー・・・親父さんがからむと　ほんつとに疲れる・・・

w w wもう勘弁して・・・ファストはなにやってんっだ？おさえと
けよwこいつを・・・

ファスト作戦はしっぱいなのかなあゝ・・・
良いアイデアだと思ったんだけどなゝゝw・・・orz

※ 作中に出てきました『LAV-25』についての簡単な解説ですへへ

LAV-25装甲兵員輸送車といまして8輪式歩兵戦闘車で水陸両用の高速偵察車両なんです
車体上部に砲塔がありましてブラッドレーM2、M3と同じ対空にも使える口径25mmの
M242ブッシュマスター機関砲を主武装として搭載しています
M240機関銃も2丁装備しています
乗員は3+6名で、ディーゼルエンジンで最高時速は100km/hです

航続距離は満タンで約650km走れます
ちなみにHMMWVは最高時速125km/hで満タンで約400

k
m
走
れ
ま
す

7話 涙のキャンプ あたしだってある程度はあるよね？何って胸ですよW（後

真琴「・・・お疲れ・・・です」

レティ「まあ、おちついて、ね^^」

ジョン「よし、おじちゃんがえびせ〇買ってやるぞ^^」

真琴「ほんと？^^」

ジョン「ああ、買ってやるさ^^だから元気出せ！な？」

真琴「うん！^^」

レティ「ある意味おこちゃまねW・・・」

カミヤ「ファスト！本編ちゃんと読んだか？」

ファスト「はい師匠！読んだっス！」

カミヤ「あーやって真琴をいじるんだぞ？わかったか！？」

ファスト「はい師匠！わかりましたっス！」

真琴「・・・（ニコッ！^^）」

ジョン「レティずかるぞ！」

レティ「OKジョン！いそぎましょう！」

（みっちゃんを抜きながら・・・）

真琴「おまいら！ゆるさへんで！」

どーもです^^作者のM2—1015です^^

昨日は台風で大変でしたね・・・みなさんはお怪我とか無かったですか？

うちは庭が大変なことになってましたW・・・

さて、次回ですが基地に戻って王都へ出発ですかね？

出発までいけばいいんですが・・・

それでは皆様にもつと笑顔が訪れますように^^
では！^^ノ

7. 5話 涙のキャンプ 閑話です ねえ！私にだって・・・胸あるよね！？

メアリ「はじめまして！^^」

リリス「どーもです！」

ケイト「どうも^^」

メアリ「マコトさん！かっこいいわー！（はーと）」

リリス「うむ、剣の腕もなかなかのもの！」

ケイト「・・・ごはん、おいしかった・・・」

メアリ「マコトさんって彼女いるのかしら・・・」

リリス「剣をぜひ教わりたい！」

ケイト「・・・お菓子もおいしかった・・・」

M2「えー、みなさんばらばらなのですが・・・では7. 5話いつてみよー！」

今回は 書ききれなかった異世界の3人に焦点をあてています

まあ、ケイト中心なんです^^

閑話と言うことで^^

7. 5話 涙のキャンプ 閑話です ねえ！私にだって・・・胸あるよね！？

Sideメアリ

かっこいい！私はそれしか考えられませんでした
長い髪の毛を後ろで束ねてまるで凛々しい騎士様のようです・・・
盗賊の間を剣を振るい舞いを踊っているようにまっすぐこちらへ進
んできます！

「マコト・カミヤ 助太刀します！」

ああ！やや高めなりりしいお声！・・・マコト様とおっしゃるんで
すね・・・（ポッ！）
もう私はマコト様しか目に入らず周りの出来事をまったく気にして
いませんでした
マコト様はあつと言う間に馬車の周りの盗賊をなぎ払ってしまいま
した・・・かっこいい・・・

最後は盗賊のお頭らしき人と一騎打ちです・・・がんばってください
い！

それはまさに一瞬でした・・・マコト様が剣を鞘に収めたと思った

ら・・・

颯爽と走り出し剣を抜き盗賊を切り裂いて・・・すごい！

光り輝き舞うようなうつくしい剣筋・・・

まるで小さい頃に寝物語で聞いた英雄叙事詩そのものです！

マコト様を見ているとほほが熱く・・・もう顔全体が耳まで真っ赤です・・・／／／

ああ！神様！これって一目惚れて事なんでしょうか！・・・ああ、どうしましょう？／／／

Side ケイト

私は基本的に動揺はあまりしないんですが・・・今回は別です・・・盗賊相手の戦闘も忘れて・・・あぜんとしちゃいました・・・あれはなんの漫才でしょう？

男の子が盗賊に降伏勧告してますが・・・まあ、この人数差ではまづ無理でしょう

思った通り盗賊は向かってきたのですが・・・すごいです！

最初に動いた剣士の男の人は強かったです！アッと言う間に5人を切り捨てちゃいました！

D O D O D O ! B A B A B A B A N !

な、なんの音です！？・・・馬車？からも攻撃してます？・・・あ、あれは魔法なんですか？

馬車から音と炎が上がるたびに盗賊の身体が弾け飛びばらばらになってます！

男の子もこちらに真っ直ぐ向かって来ながら道々の盗賊をあっさりと排除しています！

剣で切り裂いています！・・・すごいです！
は！さらに剣が光で輝いてます！・・・あれは剣に強化の魔法をかけているんですか？

「マコト・カミヤ 助太刀します！」

マコトさんと名乗った男の子は見る間に馬車周辺の盗賊を切り捨てちゃいましたね・・・

しかも一太刀でお頭らしき盗賊まで・・・なんとすごい男の子でしょうか！？

S i d e リ リ ス

私は基本的にあまり動揺はしないのだが・・・今回は別だ・・・盗賊相手の戦闘も忘れて・・・あぜんとしてしまった・・・なんの漫才だあれは？

まあ、盗賊の気を引いてもらって助かるが・・・

少年が盗賊に降伏勧告するが・・・まあ、この人数差ではまず無理だろう

予想通り盗賊は向かってきたが剣士の男は強かったアツと言う間に5人を切り捨てていた

D O D O D O ! B A B A B A B A N !

は！なんの音だ！？・・・馬車？からなのか？・・・盗賊に攻撃している？・・・

あ、あれは魔法なのか？

馬車から音と炎が上がるたびに盗賊の身体が弾け飛びばらになっっている！

少年もこちらに真っ直ぐ向かって来ながら道々の盗賊を排除している！

剣で切り裂いているのか？・・・すごい！

それにあのような剣筋は見たことが無い！

は！剣が光で輝いている！・・・あれは剣に強化の魔法をかけているのか？

「マコト・カミヤ 助太刀します！」

マコト殿と名乗った少年は見る間に馬車周辺の盗賊を切り捨ててしまった・・・

しかも一太刀でお頭らしき盗賊まで・・・なんてすごい少年なんだ！？

私はあの少年が使う剣を必ずマスターしたいと心から思った・・・

S i d e 異世界組み

（本来は依頼主のメアリがやるべきなのですが・・・あの様子（マコトに一目惚れ？）
では無理そうなのでリリスは・・・まあ、思い込んだら一直線のイノシシ女ですしね・・・
ここは私、ケイトが話を纏めるとしましょうか・・・）

それぞれの簡単な挨拶もすんだところでロツテと名乗るお医者さんがリリスを診ます

治療が済み　リリスが血の匂いで魔物が集まる事を教えると村から来た護衛従者3人の墓を道の脇へ作っています
普通は遺品を回収して終わりなのですが・・・

穴を掘り、土を被せ大きな目の石をのせて最後に祈っていますね・・・マコトと父親が祈っています・・・それは変わった祈りでした・・・手を合わせてうつむいて・・・マコトの達の国のしきたりですかね？他の人たちは敬礼でしょうか？

二の腕を真横にして手を目の横、ちょうど三角を腕と手で顔の横に作る感じですね・・・

私達は出来る限りの荷物をこの車と言う乗り物に移しました
メアリさんは荷物が残ることに心配顔ですが・・・

・・・ハンヴィーといってましたね確か・・・鉄で出来た乗り物なんですごいです

しかもものすごく透明な板が窓についています！

馬が要らない代わりになんでも燃料と言う油で走るそうです
燃料があるかぎり休まず走り続けられるそうです・・・

車が走り出すとみな口々に言い出します

「速いです！」

「ゆれが少ない！」

「椅子の座り心地がとても良いわ！」

「これは！全部鉄なのか！」

「窓の板が透明です！」

私達3人は目が・・・@@ ↑こんな感じでカルチャーショックです

隊長であるレティさんとお医者様のロツテさんは屋根の穴から周りをみはってます

マコトさんは御者席（運転席と言うらしい）でこの車を操ってます

冷静になって考えると・・・この車・・・鉄で、それも複雑で丹念

に作られていますね・・・

マコトさん達が着ている服やレティさんたちの装備などもかなり丁重で丹念なものです

もしかしたらこの方達は貴族などの高貴な産まれなのかもしれませ
んね・・・

森をそれて走るとそこはなんと砂漠です！昨日の空の異変といいな
んなんでしょう・・・

このまま砂漠を進み昨日マコトさん達が野営した場所で今晚もキャ
ンプするそうです

マコトさんが食べ物のお話をふってきます

「この国のお菓子ってどんなのがあるのかな？」

「菓子ですか？われわれはほとんど食べませんね・・・菓子はほぼ
貴族用ですからね・・・

甘いものはくだものを食べるくらいですよ」

マコトさんはとても残念そうな顔をしていますね・・・

ん？メアリさん、残念そうな顔もまた素敵！って目で見て・・・真
っ赤ですよ？お顔がね・・・

真琴さんが『きやらめる?』と言う菓子をくれました・・・

とても丁寧に包装されています・・・包装をはがすのが勿体無いくらいです・・・

口に入れると・・・

あ!あまい!こんなおいしい菓子は初めて食べますね!

メアさんが『おいしい!』を連発しています・・・マコトさんが笑顔で振り向くと

真っ赤な顔でうつむいちゃいました・・・分かりやすすぎです、メアさん・・・

きやらめるを食べてさっきの疑問が確信に近づいていきます・・・こんなおいしいものを食べるなんて贅沢は平民ではできませんよやはり貴族なのですかね・・・

キャンプ地に着いたようです車から降りて私とリリアはカマドを作ろうと・・・

周囲をみまわしてもカマドを作る石どころか燃やす木も無いんです・・・

どうしようか困っているとマックさんが茶色い袋をくれました・・・ビーフシチューだよって言ってますが・・・

え?これが食事なんですか!・・・びっくりしましたねさすがに・・・

マコトさんが食べ方を教えてくれました・・・書いてある文字は読めませんが・・・

袋をやぶると中からたくさん袋がでてきました・・・
なんと！砂糖に塩にコシヨウまで入っています！超贅沢！

主食の温め方？え！この袋に水をいれるだけ？・・・私の知らない
魔術ですか！？

熱々のシチューはとてもおいしい！パンもかちかちの保存用ではな
くやわらかです

ジャムと言う甘い物をかける？はちみつみたいな感じですかね・・・
ジャムをつけると甘くておいしい！

チョコレートと言うデザートにコーヒーまで！

マコトさんが人数分のカップを持ってきて何かの粉を入れています
そこにお湯をそそぐと・・・なんと！スープです！魔法ですか！
マコトさんはただのインスタントと言いましたが・・・『いんすた
んと』ってなんですかね？

料理魔法の事ですかね？

さらに驚いたことにマコトさんはこの食事が好きではないと！・・・
こんなに美味しいのに！

もっと美味しいものがあるんですか！・・・やっぱり貴族の方なん
ですかね？

我々の旅では保存食がメインなのですが・・・

しかしこれはキャンプの食事の域をはずしていますね・・・調理器
具すら無くてこの内容・・・

うゝんまさに豪華な宮廷料理・・・ま、食べたことは無いですけどね

最後にマコトさんが一言ぼそつと言いました この携帯食は太るよ

と・・・

先に言ってお下さい！全部食べちゃったじゃないですか！・・・orz

食事が終わって今後の為の話し合いです

マコトさんとレティさんは何か確認しています・・・私達の事なん
でしょうね

マコトさんのお父さんはファストと剣の訓練に行くそうです
リリースがうらやましそうに見えますね・・・

メアリさんが説明しています・・・今年の税を納めに王都まで行く
途中だった事、

護衛も3人いなくなり馬車も無くなった事・・・しかも持ってこれ
た荷物は半分だけ・・・

マコトさんがなにやら考え込んでいますね・・・
するとひらめいた！って顔でレティさんを見ます

「ねえ、レティ・・・あたしたちもこの国の王様に用があるでしょ
？だから一緒に行くのが

ベストじゃないかな？・・・んでメアリの足りなくなった税の分と
あたしたちも王様への

おみやげってか献上品をもって行くの^^」

「マコト・・・おみやげってなにもってくの？」

「16号沿いの基地の人相手のおみやげもの屋さんからとりあえず持ってくんだよ^^

この世界ではめずらしいものばかりでしょ?・・・でも武器はまだだめ!わたさないよ^^

どうしても武器がほしいってんならエアガン渡せばいいじゃん^^」

「ふむ・・・それはいいアイデアね!・・・LAV-25も一緒になら多分だけど安全ね^^

早速ジョンに連絡するわね^^」

レティさんは連絡?・・・どうやってするんだろ?・・・するため
に車にむかっていきます

私達にマコトさんが提案をします

シャマルの王都までわれわれの護衛で一緒に来てくれるらしいです
しかも王様にも会いたいって・・・簡単に言ってますけど・・・

「・・・って事なんだけど・・・メアリはどうかかな?」

「はい!とてもうれしいですけど・・・宝物まで頂いていいんです
か?／／／」

「うんいいよ^^安物だしね・・・あと、リリースとケイトはどう?
う?」

「私はメアリが良いならそれでかまわんよ？ ケイトは？」

「うんいいよ」

「んじゃ、けってー^^あとケイトに個人的にお願いがあるんだけどいいかな？」

「何でしょうか？」

「うん、魔法を教えてほしいんだ^^魔力はいっぱいあるらしいからねあたし」

「まった！マコト殿・・・私もお願いがある・・・マコト殿に剣を教えてほしい」

「へ？あたし？」

「そうだ、交換条件だケイトがマコト殿に教えて マコト殿が私に教える・・・どうだ？」

「んーカタナがいるなー・・・古物商でも探してみるかな？・・・うん、良いよ^^」

「すまん、ありがたい^^」

私の意見がはいってないですよ？ リリス・・・まあ、知的好奇心がありますので

マコトさん達と行動できるのはうれしいですけどね・・・それに退屈しなさそうですし^^

そのあと別口でマコトさんからお願いされたんですが・・・

「あたしからお願いなんだけど・・・歳もあまり変わらなさそうだし敬語無しでさ
もつとざつくばらんに話しません？・・・女の子どーしなんだしさ
！　^^」

なんですと！・・・フランクに喋るのは賛成ですが・・・いやいや
！その前に！

「「「えーっ@@!」」」

お、男の子だと思っていましたよ！？

「「「マコト・・・」」」

みんな声をそろえて叫びます・・・せーの！

「「「女の子だったんですかー！」」」

・・・・・・or z

マコトさんは四つん這いになって涙声で

「・・・女ですよ?・・・」

「「「「「「「「「「「「「「」」」」」」」」」」」」」

私達は呆然とマコトさんを見ている・・・特に胸とか、あと胸とか・・・

マコトさんは貧にVゲフンゲフン・・・胸が小さかったので男の子だと思っていましたよ

おう!

マコトさんのお父さんがいきなり現れてマコトさんの胸を題材にしてコントを始めちゃいましたね・・・あ、マコトさんが凹んでいます・・・

今後は胸の話はタブーですかね?

それにしてもこっちでも凹んでる人が1人いますね?・・・メアリさん・・・

とっても残念そうな顔して・・・メアリ・・・儂い恋だったね・・・ご愁傷さまです・・・

元気だしましよ?明日はきっと良い事がありますって^^

S i d e レ テ イ

さっきのジョンとの無線だけど・・・カミヤとマコトにはまだ内緒にしとけて・・・

いいのかしら？

基地のみんなは賛成なんだよね

んー、ジョンも私も大役ね・・・

まあ私を含めこっちの海兵隊員はみんな賛成だったけどね^^

うん、きっとカミヤはおもしろがるでしょうね・・・

でもマコトは基地に戻ったらどんな顔をするのかしら？

それはそれで楽しみでもあるわね^^

マコト^^多数決の民主主義って事であきらめてね^^

7. 5話 涙のキャンプ 閑話です ねえ！私にだって・・・胸あるよね！？

メアリ「あーん！・・・ふられたー！あーんあん！」

リリス「メアリ・・・泣くんじゃない・・・」

ケイト「ってか、ふられる以前じゃ・・・」

メアリ「び、びえーん！！」

リリス「あ、こらケイト！余計な言を・・・な、泣くなメアリ・・・」

ケイト「だって、告ってもいなかったしw・・・」

メアリ「び！え！ーん！！！！」

リ、ケ「ほっとくか・・・」

どうもです！^^M2ー1015です

人物を変えながら書くのって難しいですね

試行錯誤で書いてます

次回は基地へ帰るまでになりそうです

ジョンの出番は次回も無いかな？

それでは皆様の笑顔がもっと増えますように^^
では^^ノ

8話 涙のお風呂 個人的に胸の格差社会はきらいです！（前書き）

真琴「おひさでーす^^」

レティ「どーもです^^」

ジョン「おーす！^^」

ファスト「どもっス！」

真琴「あれ？親父さんは？ファスト」

ファスト「師匠はなんか撮影しなきゃってどっか行っただっス」

レティ「・・・なんかやりそうねカミヤは・・・」

ジョン「だなー・・・ま、俺は知らんが」

真琴「もう！ファストは兄貴の見張りでもあるんだからね！しっかりしてよ！」

ファスト「俺、師匠の見張りっスか！？」

真、レ、ジ「「がんばって！^^」」

ファスト「なんか・・・理不尽っス・・・」

真琴「でも、あやつは何をやらかそーとしてんだろ？」

レティ「いやな予感しかないわね・・・」

ジョン「ま、カミヤだしw・・・」

真琴「んじゃ、はじめまs・・・←ん？・・・」

レティ「やばっ！だ、第8話はじまりです！」

8話 涙のお風呂 個人的に胸の格差社会はきらいです！

あ、あたしってばみんなに男の子に間違えられてたんだw・・・o
r z

めげるなあたし！凹んだら負けだ！・・・うん、へーきだよ？・・・
たぶんねw・・・

うん、このことは忘れよう・・・忘れるに限るね！

さてと・・・

あれ？メアリ？落ち込んでない？・・・どーしたんだろ？聞いてみるかな・・・

「ねえ、メアリなんだけど　なんで落ち込んでるのかな？リリースはわかる？」

「ん？・・・うむ？なるほど落ち込んでるな・・・ケイトはわかるか？」

「・・・2人とも・・・にぶちん？・・・ま、そつとしいた方が
良いかもね^^」

ん？ほっといても良いのかな？・・・ありゃ？メアリなんかニヤッ

と笑い顔になったよ？

小声で『そうよ！女の子でもいいじゃない・・・性別なんて関係ないわ！』とか言ってるよ？

ゾクッ！おう、なんか寒気がしてきましたよ？

「ね、ねえ、ケイト・・・メアリはほんとに大丈夫なの？なんか変だよ？」

「・・・大丈夫・・・がんばれマコト^^」

「?・・・なにをがんばるの!？」

その後ケイトはニヤニヤとあたしを見てるだけだし・・・
メアリはあたしの近くに來てだまって顔を赤くしてるだけだし・・・
リリスは頭に？マーク出してるし・・・ま、いいか・・・たぶん・・・

見張りの順番は昨夜と同じだそうです

異世界組みも見張りをやるって言ってたけどそこは遠慮してもらって寝てもらいました

あ、寝る前にあたしが18歳だって教えたら みんなまたびっくりしてたんだ・・・

14〜15歳位だと思ってたんだってさw・・・くすん・・・凹んでたまるか！

さて、見張りやって眠りますかね・・・

親父さんも銃座にのぼって・・・カタナの手入れしてるのかー・・・
静かで良いけど・・・

見張りの時だけは親父さんってばマジで大人しいから助かるけどね・
・

こーゆー時の親父さんって背中がすごーくおつきく見えるんだよね
ー・・・

4年前のあの時もそーだったなあ・・・ベトナムの国境付近で追わ
れててさー・・・

あたしゃへとへとだったしねー・・・なさけないぞw帰ったら特訓
だーとか言ってたけどさ

親父さん怪我してたのに一晩中見張りやってくれて・・・あたしに
寝て良いぞって・・・

横になって見た背中、大きかったなー・・・

まーなんとかラオスからタイへ抜けられたんだけどねー

たった2人の家族・・・親父さんありがとねー・・・好きだよーハ
ハ／／／

は、！いかんいかん・・・この話は長くなる！見張りをせねば！

さて、あたしもみっちゃんの手入れしますかね・・・ん？・・・あ
れ？

おお！汚れてない！なんでだ？・・・これも魔法なのかな？・・・

ま、いつかハハ

S i d e 異世界組み

さてさて、こちらは3人娘のテントの中ですが・・・

メアリ「はあゝ・・・マコトさん 素敵だったわゝ／＼／」

リリス「うむ、あの華麗な剣さばき！」

ケイト「・・・」

メアリ「やっぱりマコトさんて・・・かっこいいわよねゝ／＼／
ゝ」

リリス「うむ、あの若さで・・・いやもう18歳だったんだが・・・
あの剣技はすごいな！」

ケイト「・・・」

メアリ「うふ！王都まで一緒・・・あんな事や、こんな事まで！・・・
きゃっ（ポツッハッ）」

リリス「うむ、あんな技や、こんな技をぜひ教えてもらおう！」

ケイト「・・・」

メアリ「そ、それから二人は・・・いやゝん！／＼／（くね

くね)／＼／

リリス「うむ、マコトと私は二人で魔獣の討伐などで名声を皆から受けるんだな! ^^」

ケイト「・・・うるさいよ! もう寝なさい! (でも2人とも会話が
かみ合っていないよね?)」

真琴「へっくちゅん! ・・・ん?」

そんなこんなで夜は深けます・・・ケイトは寝不足でしたとさ! チ
ヤンチャン ^^

Side 真琴

「・・・き・・・!」

「・・・コト・・・起き・・・」

「マコト!・・・起きろ!」

「・・・んんん?・・・あーさーでーすーか?・・・」

「うむ、今は太陽が昇るところだ^^起きてくれ」

「・・・はい・・・リリース?・・・んじゃおやすみ・・・」

「いやいやいや!寝るのではない!起きてくれ!」

「・・・んにゅ?・・・あと1時間・・・ん・・・」

「あゝゝ!マコト様のお寝ぼけ姿!・・・あはゝん!いいですわゝ
(抱きしめっ!^^)／／／」

「いやいや・・・メアリ!そうではなく起こすのだ!」

「ほへ?・・・おっぱいがゝWWWおつきいぞ?・・・んん、や
わこい・・・んにゅ?」

「あ!マコトさん!・・・いきなり・・・そんな・・・あはゝんっ
!／／／」

「いやいやいややWメアリW・・・起きてくれ!マコト!」

んー・・・まだ眠いのになW・・・あれー?なんでメアリと寝てるん
だ?・・・ん?

およ?リリース?・・・んにゃ・・・まだ頭が働かないにゃゝW・・・

「ぼくくくくく・・・」

「とりあえず起きたか・・・って、口で『ぼくくくくく』って言うてる？」

「あん！もう起きちゃうんですかマコトさん？ 私なら・・・いいですよ？（ポツ！／／／）」

は！いかん・・・なんかあたしの貞操が危険な予感？・・・
よし、起きよう！
ほんとあたしってば朝だけは弱いよね・・・

「んくく！おはようリリス、メアリ・・・ってなんでほおずり！？」

「おはよう御座います^^マコトさん！（すりすり^^）／／／」

「おはようマコト^^さあ朝飯前に剣の訓練だ！」

「w・・・はいな」

リリスは元気だねー

あたしは腰にはりついてるメアリをはがしながら濡らしたタオルで顔を拭いて・・・

んーさっぱり！^^

てか、まだ起きるの早すぎない？・・・はあくwリリスはこーゆー

とこ真面目だね」

あたしが起きたんで見張りの2人に声をかけます

「レティー、ロツテさん！あたし起きたんで降りて休憩してー^^」

「あら！マコトが起きてる！？・・・ほんもののマコトよね？」

「もう・・・レティったらw・・・あっちでリリースと剣の訓練しますね^^」

「りょうかい！コーヒーでも入れとくわね^^」

「うん、ありがとーロツテさん^^」

あれ？そー言えば・・・ケイトがいない？・・・まだ寝てるのかな？

「ね、ケイトは？・・・まだ寝てるの？」

「うむ、昨夜はなかなか寝付けなかった様で朝飯になったら起こして欲しいそうだ・・・」

なぜか・・・機嫌がわるかったな・・・なにかあったのかな？」

まだ寝てる人がいるからちょっと移動して・・・ここなら良いかな？

メアリはおずおずとついてくるね・・・見学かな？

さて、リリスにはなにから教えようかね・・・まずはリリスの型を見ますかね・・・

うん、思った通りだね・・・ぶったたきつける様な剣筋ね・・・型を直すの大変かな？

あたしはリリスにいくつかカタナでの剣筋を素振りで見せてあげて真似してもらいました

リリスはめっちゃ真剣に素振りしてるな・・・こりゃマジだね・・・

でもスジは良いよね・・・うん、カタナは絶対に見つけてあげよう^^

「おーい！マコト！朝飯だぞー！」

おー、マックさんが呼んでますね・・・もうそんな時間か・・・

「はーい！・・・リリス朝ごはんだって^^・・・ほらメアリも・・・行くよ！^^」

ごはんごはんだー^^・・・おーケイトは起きてきたのか・・・
コーヒー飲んでるね^^

さてさて・・・うつ！マックさんW朝からレーションはいりませんよ？・・・

あら、すねた顔がかわいいじゃないですか！・・・マックさんたらもうっ^^

ありやりや、3人はレーション食べるの？うれしそうにもらってるね・・・

マックさんも受け取ってもらってうれしそうだよ・・・よかったね
^^

あたしはドライフルーツ入りのシリアルとミルク、それでカップス
ープです ん、おいしー！ ^^

みんなにぼそっと「太るぞ」ってまた言ったらケイトがピクツって
なって考こんでたけど・・・

（でも結局食べてたね^^）うん、ちょっとおもしろかったです！
まる^^

さて、出発前に今日の行程をみんなで確認^^

このまま何も無ければお昼前には戻る・・・んだけど・・・

一昨日の恐竜も見てもらってさ、リリース達に確認してもらおうよ・・・

・

今までにも居たのかどうかね・・・ってなわけで寄り道して帰ります

「みんな聞いてくれる？このままあたし達の基地？町？って言うか
国？に向かうんだけど

1つ聞いていいかな？・・・あのさドラゴンとか竜ってそっちには
いるの？」

からでも分かるね」

「んであそこに倒れてるやつが例の竜なんだけど・・・」

「ありゃー異世界3人娘は目が『@@!』↑こんななっちゃってま
すな」

「まあ、あたしも恐竜こりゅうに会ったときはなったんだけどねー」

「どう？こんなの見たことあるかな？」

「いやいやいや！これをマコトが仕留めた？」

「うん、首をスパーつとね^^」

「マコトさん・・・すごいですw・・・／／／」

「で、こんなのそっちの国にいるのかな？」

「・・・ドラゴンとは違うみたいですわ・・・初めて見ます」

「んじゃ、あっちの小さめなのは？」

「ばらばらで良く解りませんが・・・いないと思いますわね」

「そーか・・・」

「これもマコトがやったんですか？」

「いや、レティ達だよー」

「マコト達って・・・いったい・・・」

「うん、それは町に着いたら教えるねー^^」

やっぱりこっちのジャングルはリアルジェ○シクパークなんだね
w・・・

うーん・・・これも報告してみんなで考えるか・・・移住しなきゃ
いけないんだしね

「で、マコト この竜の一部を証拠として持って行きたいのだけど・
・・・いいかな？」

「いいよー、でもケイト 持って行くってどこへ？」

「我々がこれから向かう王都にある冒険者ギルドだよ」

おお？・・・親父さんがすつとんでこっちくる！

「ぼ、冒険者ギルドだって！！（ドヤー^^）」

「ふーw・・・はいはい・・・テンプレ乙です・・・」

まったく、このおっさんはw・・・でもそうだよね・・・

この砂漠ってさ幅が2〜3km位しかないから恐竜があっちへ行く
事だってあるよね

確かにしかるべき所へ連絡しないとねー・・・もつとすごいのがい

るかもだしw・・・
取り合えずデジカメで写真とっとくかね・・・

リリスがティラノぽい方のキバと爪、ケイトがラプトルぽいやつの
キバと爪を採取して・・・
ん？メアリは・・・あたしの後ろにくっついてる？

「本当はこいつ自体を運べればよいのだが・・・」

「ん？リリス^^写真取つといたよー」

「じゃ、写真とは？」

「あ、分かんないよねー^^こっちきてー」

あたしは車に戻りノートPCにデジカメのデータを入れてみんなに
見せたんだけど・・・

「な、な、なんだ！これは！・・・絵なのか？」

「いつの間に絵なんか描いてたの？マコト」

「私がいるわ！ほら、ここにリリスとケイトも！」

「んーとね、これは写真って言ってね、このカメラで見たものを記
憶する機械なんだよ？」

「「「・・・@!・・・」」」

「まあ、そんなに驚かなくても・・・それじゃあ、あたしの国、て
ゆーか町に着いたらさ

もつと驚いちゃうぞ？ 楽にいこーね楽に^^」

んー基地に着いたらもつと驚いちゃうよねー・・・どうしようかね・
・

うん、レティと相談したほうが良いよね
3人を車に乗せてからレティと話すか・・・

「ねえ、レティちょっくらいいかな^^」

「なに？ マコト」

「あのねー基地へ着いてからの事なんだけどさー・・・」

結局3人娘以外の全員と打ち合わせしてジョンに無線で報告、16
号沿いの町に入ったら

ノンストップで管制塔ゲート経由で車両格納庫へ行くことになりました

歓迎会用に美味しい昼ご飯をたっぷり用意して待ってるそーです
！まる^^

砂漠をしばらく走っていると・・・見えてきましたねー基地が^^
まーここが第二の国であり町になるんだよねー・・・新しい居場所
か・・・

家に残してきたモモちゃん（メスの猫でアメリカンショートヘアな
んだ）元気かな・・・
またイケメンの神様に会えたら保護を頼んでみよーっと

お、もう直ぐ舗装路だねー・・・やっと車が揺れなくなるよ

「おい！マコト！なんなんだこの道は！石畳じゃないぞ！」

「まったくゆれません！」

「道だけではなく この町の建物もすごい！」

「まーまー、落ち着いてね^^戻ったらみんなの歓迎パーティーもある
しね^^」

「む、パーティーとな！私達はその様な場所で着るドレスの持ち合わせ
は無いが・・・」

「へーきへーき^^そのかっこでOKだよー」

「そうなんですか？・・・」

「うん、あたし達だってこのかっこだよ？気にしない気にしない^^
」

国道16号を北上し 福生病院の先のゲートを右折つと・・・滑走路側に出て南下して・・・

車両格納庫前にとうちゃーく!

お! ジョンさんやみんなが格納庫前でお出迎えです^^

「おー^^おかえり!・・・ごくろうさん^^・・・みんな怪我はなかったか?」

「ジョン^^レティ以下5名只今帰還しました・・・直ぐ報告をしますか?」

「硬くなるなよレティ・・・なんならタメ口でもいいぞ? ^^ それとうれしい発見があった」

「はい、楽にしますね^^・・・で、うれしい発見って?」

「ここの参謀長の屋敷に露天風呂があるんだ^^もつともヒューイから聞いたんだが・・・

すでに湯は沸かしてあるから女性だけで入ってくると良い^^

旅館みたいに湯船は大きいからみんなでゆったりと入れるぞ^^」

「やったー! お風呂だー! 3日ぶり・・・ふふふ!」

「こら、マコトはしゃがないの!・・・でもジャパニーズバスは最高よね!」

「うん! さあ、行こう! ^^」

戸惑っている3人娘を車に乗せて・・・あ、べつのハンビーだよ^^
さっきまで乗ってたやつは荷物とか降ろさなきゃだしねー

さすがジョンさん着替えも用意してくれてました・・・

サイズはレティさんが大体の大きさを無線で知らせてたんだって・・・
さすがです！

下着は軍の支給品だけど服は福生の町で適当に持ってきたらしいよ
^^

明日は下着とかも町で探さないかねー・・・

脱衣所でぽーっと服を脱いで・・・ありゃ？3人娘は戸惑ってるの
かな？

あらそうなの？・・・あのねーお風呂に入るのって初めてなんだっ
てー

貴族や王族くらいなんだってさーお風呂に入る人って^^

で、石鹸で体をこうやって・・・わかった？それからこのシャンプー
ーで髪の毛を・・・

そうそう わかったね^^・・・

実際にあたしが身体を洗ってやり方を教えました・・・さあ！入る
ぞー！^^

「ふえー^^いい気持ちー・・・」

「マコトったらオヤジくさいわよ・・・ふえー^^って^^」

「いいじゃん、それが醍醐味！」

「さ、みなさんも湯船に入って^^」

「・・・おじゃまします・・・」

「うむ・・・」

「はい・・・」

「「おお～気持ち良い^^」」

「でしょ～^^」

3人娘はめっちゃ喜んでます・・・レティはもともと慣れてるし
ロツテさんは休暇の度に
温泉旅行してたんだってー・・・ってロツテさん・・・縁に両手で
枕作って頭のせて
ふへ～って感じで　ぐてーっとのびてますな～・・・浮いてる
な・・・ちちがw・・・

「えい！（もにゅ！）」

「おう！メアリ！・・・あん！・・・な、なんで後ろからちちを揉
むですか！」

「うふふふふふ／／／」

「いやいや！メアリさん！うふふ、じゃなくてですね・・・」

「うむ、良いではないかマコト・・・減るもんじゃないぞ？」

「いやいやリリス！・・・これ以上減ったら困るから！」

「ふむ・・・確かに少しばかりちいSゲフンゲフン・・・」

「あー！今、小さいって言いかけたー！・・・もう！剣、教えてあげないよ！」

「いや、すまん！これ、この通りだ！」

とリリスは頭を下げるんですけど・・・

リリスはCくらいあるなー・・・メアリとケイトはDくらい？・・・
レティとロッテはE～Fはありそうだし・・・あ・・・目から汗が
でてきた・・・

がんばれ！あたし・・・大きけりゃ良いってもんじゃない！・・・
と思う・・・

あ、・・・お湯でみなさんのがぷかーんと揺れてたゆたってる・・・

う、うらやましくなんか無いんだからね！

だめだ・・・凹んできたw・・・

ううw・・・神様！あたしにも！ギブミーおぱーい！・・・

こーゆー格差社会には断固反対です！・・・orz

8話 涙のお風呂 個人的に胸の格差社会はきらいです！（後書き）

真琴「おつかれー・・・っつか最近 このネタ（胸）おおくない？」

レティ「とゆーか、こればかりね・・・」

ジョン「まー作者が貧乳ヒロイン好きだからなー」

真琴「ひ、貧乳じゃないもん！」

レティ「そうよジョン！マコトだって多少はあるのよ！」

真琴「た、たしょう・・・orz」

レティ「あ、そんな意味じゃなくて・・・もう！ジョン！どーするのこれ！」

ジョン「すまんすまん・・・」

マック「レーション食べれば元気になるぞ？」

真、レ、ジ「「なるかー！！」「」」

カミヤ「おーいファスト・・・約束のしっかり撮れたぞ^^」

ファスト「師匠！今はやばいっス！」

カミヤ「ん？見たがってじゃん女子6人の入浴シーン^^」

真、レ、ロ、3人娘「「「「「のぞきかー！！！！」「」「」「」」

ファスト「師匠！にげるっス！」

カミヤ「ん？女の子達 いなくなっちゃったね？」

キュラキュラキュラキュラキュラ・・・

ファスト「M1A2っス！エイブラムスっス！師匠！にげるっス！」

真、レ、ロ、3人娘「「「「「おまいら轢殺！！！！」「」「」「」」

どーもです^^作者のM2ー1015です^^

涼しくなってきましたねー皆様はお風邪など大丈夫でしょうか？

この小説は手探りで書いていますが表現とかむづかしいですねー
あらすじの通りに書いていくと

予定の文字数が2〜3倍になります

このままゆっくと書いていこうと思います
なので皆様にも気長なお付き合いを宜しく願います^^

今回は歓迎パーティと町での物品調達ですかね？

それでは皆様の笑顔がさらに増えますように^^
では^^ノ

9話 涙の王族 えゝ！だ、だれがお姫様なのゝw！（前書き）

真琴「どうもゝ^^」

レティ「ハイ！^^」

ジョン「やったー！やっとセリフじゃゝ！^^」
カミヤ「ふっかつ！」

真琴「前回戦車でふみつぶしたのに・・・」

レティ「カミヤの生命力ってw・・・」

ジョン「ファストは瀕死だったな・・・」

真琴「のぞきは死刑！あたりまえ！」

レティ「そこは賛成ね」

ジョン「まー俺は男だからある程度の気持ちは分かるんだが・・・」

レティ「ん？」

ジョン「ジョークだよ？ジョーク・・・」

真琴「では！第9話はじまるよゝ^^」

9話 涙の王族 えゝ！だ、だれがお姫様なのゝw！

「さあみんな！マコトを弄るのはそのくらいでね^^」

レティw・・・やっぱり弄^{いぢ}られてたんだーw・・・あたしってばw・・・orz

「さ、ここはレティにまかせて・・・もう上がりましょ！湯あたりしちゃうわよ^^」

レティとロツテさん・・・ニヤツとアイコンタクトとってる？

ロツテさんに連れられて3人娘は脱衣所へ・・・

レティがあたしに微笑んで声をかけてきます

「マコト、ジョン達と企画してたんだけど・・・3人娘の歓迎会であの子達を驚かすためにね
みんなで仮装してみようって事になったのよ^^」

「へ？仮装？・・・うん、それはいいかもね」

「でしょ？仕返しにびっくりさせてあげなさいな^^」

「うん！」

ん？レティ何でそんなにニヤツとした顔してるんだ？・・・ん？
お風呂から上がってレティと2人で車で移動・・・おーさすが仕官

！個室なんですねー

んで、レティの部屋で着替えます・・・が、えーと・・・これ着るの！？

だって、ふりふりですよ？これってw・・・

「え！？ねえ、レティ・・・マジでこれ着るの？」

「うん^^ハリアが選んだんだって」

「リアさんが選んだんだ・・・でもこれって・・・」

「もんく言わない！・・・さあ、着替えて・・・お化粧とアクセサリーもね！」

「・・・はい・・・」

うわ！・・・何？このピンクのドレス・・・まるでお姫様じゃん！
ティアラまで冠って・・・

うわーレティ！・・・化粧が濃いつてば！・・・真っ白な長い手袋・・・
真珠のイヤリング・・・

おう！ネックレスとブレスレットもかい！・・・ヒールも高いぞ？
髪の毛もセットアップですか・・・あー、もう好きにして！

レティは軍のフォーマルユニフォームですな・・・その帽子かつこ
いいね・・・

あら、サーベルまで装備するんですか・・・

着替え終わって外に・・・おう、ヒールが・・・よろけてしまう・・・

・
よろけながら苦勞して外に出ると・・・

・・・@!・・・は！びっくりです！こんなまで用意して・・・
でかいんです！長いんです！黒いんです・・・なにがって、
車ですよ！・・・（あれと勘違いした人はエッチだぞー・・・キャ
ッハハ）

キャ、キャデラックのリムジンです！フルスモークです！

窓が開いて・・・親父さん・・・そのドヤった笑顔　いいかげん止
めませんか？

おお！親父さんめっちゃフォーマルスーツですね

ファストも軍のフォーマルユニフォームで　さらに運転手ですか・・・

・

後部座席にレティと乗り込んで・・・広いですね・・・まるで動
く応接室ですね

おー冷蔵庫もあるー

「真琴、今後の打ち合わせだが　この国、ヨコタ国と呼ぶが、俺が
王様で真琴が姫様なハハ」

「まあ、こんなの着せられた段階で予想はついたけど・・・」

「んでジョンが宰相でレティが將軍だぞ？良いか？・・・それでだ
真琴は姫なんだから
言葉使いに気をつけるんだぞ？」

「うん・・・後のみんなは？」

「うちの連中はみんな貴族で軍と政治の要職って事にした^^」

「3人娘はどうするの？」

「ロツテとリアに着替えを頼んであるからへーきだろ？^^」

「ふうん・・・ま、がんばるか！^^」

と、のーてんきにも この時のあたしは3人娘にどつきりを仕掛け
る方だと思っていました
えー！油断してましたとも！

リムジンが車両格納庫側のパーティ会場に着きました
ファストが運転席からサツと降りて後部座席のドアを優雅に開きます
ありゃーレッドカーペットまで用意したんですね・・・

まず、親父さん次にあたしとレティが降ります
レティがあたしの横に立ち手を取ってくれます
3人で優雅にしずしずゆっくり歩いて進んで行くと親父様が立ち止
まります

ジョンさんが大きな声で・・・

「ヨコタ国 国王陛下ヨシハル・カミヤ様、同じくプリンセス マコト・カミヤ様・・・御入場！」

チャキーン！

おお、みんなフォーマルユニフォームで一斉にサーベルを抜いて顔の正面に構えてる！

背筋伸ばして・・・さすが軍人ですねー

さーて3人娘はどこにいるのか・・・いたいた^^

おーシックでかわいいドレスですな・・・3人とも似合ってるね^^
でもさ、ふふふ^^3人娘 口をあーんぐり開けてめっちゃおどろいてるぞ^^・・・ぷぷ！

ファストったら今にも噴出しそうね^^あれ？リアも笑いをこらえてる？

さて、からかうとしますかね^^・・・さーて すまし顔して・・・

「本日は ご無理を言って我が国に来て頂き真に有難う御座います・
・・・歓迎の宴ですが

粗末では御座いますがお食事をご用意致しましたので ごゆるりと
ご歓談くださいね^^」

と言って優雅にニコツと微笑んだあたし・・・ぷぷ・・・あー面白
い！固まっちゃってるよ！

これってば病み付きになりそう！^^

Side 3 人娘&ロッテ+リア

「さあみんな！マコトを弄るのはそのくらいでね^^」

「さ、ここはレティにまかせて・・・もう上がりましょ！湯あたりしちゃうわよ^^」

とレティさんとロッテさんに言われてお風呂を後にします
脱衣所に入るとたくさんの服がありました

ロッテ「好きなもの着ていいからね^^ほしかったら好きな持って
ってもいいわよ？」

メアリ「え！こんな高そうな服をもらっても良いのですか！」

リリス「うむ、ほんとによいのか？ロッテ殿・・・」

ケイト「うれしいですけど・・・」

ロッテ「遠慮しないで^^まだあるし・・・それに直ぐパーティード
レス着てもらうから」

リリス「む？マコトは普段着で良いと言っていたが・・・だめなの
か？」

ロッテ「えーと、ね この国のお偉いさんがお目通ししたいんだっ

てさ^^」

ケイト「それでは仕方ないですね・・・」

リリス「うむ」

ロツテ「じゃ、着替えたら行くわよ^^」

ドレスや靴、アクセサリー等が置いてある部屋へ連れて行かれます
部屋には1人の女性の軍人さんが待ってました

リア「私はリアです 軍医助手ですが簡単な外科手術は出来ますよ・
・・・よろしく^^」

早速ドレスアップです

みなさんはこんな高級なドレスや靴は着た事がないそうです

お化粧も初めてです

アクセサリーの精密さに驚いていました

ロツテ「これもまた着ることがあるだろうし 今日の記念に貴方達
にあげるわね^^」

え？このドレスやアクセサリーで平民なら一財産ですよ！？

みんなが躊躇ってます

リア「いいのいいの、その辺に有ったやつだから・・・気軽にもら
ってね^^」

みんな感謝しています・・・やっぱり女の子ですね！

メアリは黄色いドレスでリリスは濃いブルーのドレス、ケイトはエメラルド色のドレスです

準備が出来たのでパーティ会場へ向かいます

会場は車両格納庫側の芝生です

車から降りるとたくましい男性がエスコートをしてくれます

ジョン「私はジョンと言います 皆さんの歓迎パーティを企画しました・・・

あ、自己紹介は後で^^もう直ぐ国王陛下がいらっしゃるのですその後に^^」

メアリ「こ、こ、こ、こ、ここくくく・・・」

ケイト「メアリしっかりして！ここに国王陛下がいらっしゃるんですね？」

リリス「うむ、それでドレスか・・・」

ジョン「まあ、陛下といっても気さくな方なので心配は無用だよ^^」

ジョンさんは心配は無用と言ってくれてますが みんな緊張してしまいます

黒塗りの長い車がきました

ドアが開きます

降りてきたのは・・・なんと！めかしこんだカミヤさんです！

つづいて降りてきたのは・・・レティさんに手を引かれたお姫様なのですが・・・

ピンクのドレスにティアラがキラキラと光っていますけど・・・

は？・・・マコト？・・・？？？

え？え？え？・・・みんな頭の中がパニックになってます

完全に固まってしまいました

レッドカーペットの上を優雅に歩いてこちらに来ます

3人で優雅にしずしずゆっくり歩いて進んで行くと親父様が立ち止まります

そしてジョンさんが大きな声で・・・

「ヨコタ国 国王陛下ヨシハル・カミヤ様、同じくプリンセス マコト・カミヤ様・・・御入場！」

チャキーン！

みなさんが背筋を伸ばし 一斉にサーベルを抜いて顔の正面に構えています！

プリンセスが近寄ってきます

もう一度お顔を拝見しますが・・・やっぱりマコトさんです！

「本日は ご無理を言って我が国に来て頂き真に有難う御座います・・・歓迎の宴ですが

粗末では御座いますが御食事をご用意致しましたので ごゆるりと

ご歓談くださいね^^」

と言って優雅にニコツと微笑んでくれました

でもみんなはパニックです

(メアリ..うわあああ..ど、ど、どーしよー！私ってばおっぱい揉んじゃってるしw！)

(リリス..ど、どうしよう！今朝マコトをたたき起こしてしまってるぞ！？)

(ケイト..高貴な生まれかとは思っていましたが・・・王族のお姫様だったとは！)

((3人娘..これは、不敬罪で打ち首ですか！？))

そんな3人をよそに マコト姫は天使のような微笑をみんなにむけていました^^

おほほ^^

S i d e 真琴

固まってる固まってる^^うん、たのしいね^^
親父さんがえらそーにしゃべります

「苦しゅうないぞ・・・我が姫と友好を築いてもらい　あいすまぬ・
・これからも良しなに^^

そこに居るのはジョン・フレデリック、わが国の宰相をしておる・

・
レティシア・フォンダは知っておるな・・・彼女は国防の將軍を務
めておる・・・

他の者もわが国の重鎮だ・・・主に政治や軍、近衛などを任してお
るぞ

ま、もつとも我ら全員が戦士だがね^^」

それぞれ親父さんから紹介される度にきれいな礼をしてるよ！

みんな魂の抜けた様な顔しちゃって・・・ぷぷ^^

あー・・・だめだ、笑っちゃいそうだよ・・・

あはははははは！・・・あー喉が渴いたー・・・お茶でも飲もうか
な・・・

「ではみなさま　私はあちらで所用がありますので・・・ごゆっく
り（ニコッ^^）」

あたしは席をはずしてお茶を飲んで・・・お？親父さんが近寄って
くるぞ？

お茶でも飲むのかな？

「真琴！うまく演じてたな^^」

「^^^^おもしろかったー」

「これからもうまく演じてくれよ？」

「へ？これからも？・・・なんでさ」

「この設定はずっと続けるんだぞ？ヨコタ国とか真琴や俺が王族とかね^^」

ぶー！・・・お茶吹いちゃったじゃん！

「聞いてないよ！」

「車のなかで俺が言っただろ？」

「・・・言ってたね・・・確かに」

「だろ！だから真琴はお姫様^^」

「・・・」

あたしが・・・姫・・・プリンセス？・・・お姫様なの？・・・これからずっと？・・・

いやー！あたしも騙されてたのw・・・orz

いやいや！まてまて・・・落ち着けあたし！

あたしはレティの所へ小走りで駆け寄って・・・

「レティ・・・どーゆー事なの！？」

「ん？なにが？」

「3人娘をびっくりさせるんじゃないかったの！？」

「うん、びっくりしてたじゃない^^どつきり成功ね！・・・あら、まだ固まってるのね？」

「・・・そーだけどw・・・あたしがお姫様って・・・」

「あら？カミヤから聞いてないの？」

「・・・聞いた・・・」

「で、マコトは拒否したの？」

「・・・してない・・・」

「じゃ問題ないじゃない^^」

あれー？あたしってばはめられた？・・・よし、ジョンさんにも聞いてこよう！

「ねージョンさん・・・」

「なんで御座いましょう、姫様^^」

「もう！・・・この設定ってさ いつまでやるの？」

「デフォですか？・・・なにか？」

「いやいや！マジでなの？」

んでジョンさんが事のあらましを説明してくれたんだけど・・・
今後の他国との交渉や移民の世話をするにあたってヨコタ国には王族が必要なんだって・・・

で、われわれ親子が適任らしいんだけど・・・これは全員が賛成したんだってさw

んー・・・そう言われると断れないなあ・・・
確かに親父さんってば交渉事も口八丁だし？あたしも王族を前にして物怖じしないしw・・・

「んじゃ、正規の場だけで良いんなら堅苦しいこと引き受けるってのは ダメ？」

「んー・・・まあ、それで良いかな・・・マコトも王様カミヤの面倒で大変だろうしな^^」

「OK^^んじゃあたしゃ固まってる3人娘を起こしてくるね^^」

「おう！うまくやれよ^^・・・あそうだ！マコトちよつといいか？」

「なに？」

「あの3人うちの国に取り込んだらどうだろう？・・・ちようど幹部が不足してるしな・・・
レティの報告だと結構やり手みたいだし？・・・それに基地の結界

をすんなり入れたって事は
俺達に害が無いって事だろ？・・・マコトが良いならまかせろぞ
へ」

「んー・・・わかったへへでも無理強いはしないよ？」

「OK、それでいいさ」

まあ、完全に納得はしてないけどなんとかなるでしょ？・・・多分？
さて、お姫様メデューサに石にされて固まった3人を元に戻すかね？へへ

「おーい！生きてるかー？」

「は！マコトさん・・・お姫様だったんですね？」

「うむ・・・今朝は大変失礼をいたしました！（ペコッ！）」

「まさか王族とは・・・失礼をいたしました・・・」

「あはははははははは！・・・もう、みんなったらへへタメ口でい
いんだよー」

「」「へ？」「」

「昨日言ったでしょ？歳も近いし敬語は無しだつてへへ」

「うむ・・・しかしですn「うん、王族命令！へへ」・・・うむ・・・
」」

「うん^^あたしとみんなの仲でしょ？友達じゃん^^」

「うむ、王宮などの正式な場所以外は普通にしよう・・・約束する！みんなも良いかな？」

「いいですけど・・・マコトさん・・・そのドレス姿とっても素敵です！^^／／」

「マコトがそれで良ければ私も良いですよ」

「ありがと^^みんなのドレス姿も似合ってるよ^^」

「リア殿が私達にプレゼントだって言ってたがもらってもいいのか？マコト」

「うん、リアさんが言ってたんなら良いんじゃないかな？」

「こんなすてきなアクセサリーにドレス・・・家宝にします！マコトさん^^／／」

「売れば一財産・・・売らないけど」

それから多少の脚色？をしてあたし達がここに来た理由を話したんだけど・・・

もうね、神様から直接頼まれたとか話したら・・・みんなってばさマコトはなんなの！って・・・ふつうの？人間ですが？なにか？^^

さてさてお腹も減ったしみんなで食べ物たべよう^^

自己紹介をしながらお食事です・・・3人娘にこの国は現在13人だって教えたたら

驚いてたけど・・・この13人でどんな怪物でも倒せるし、たとえば国だって向ってくるなら

全部やつつけられるよって言ったらさ めっちゃ驚いてたんだけどね^^

同年代と食事しながらのおしゃべりは楽しいです！まる^^

さてさて・・・王都へ持っていくメアリの税と私達の王様への献上分、小遣い稼ぎの商品と

あと、リリースのカタナを探しに行かないとねー

軍用トラックにみんなで乗ります・・・相変わらずシートはダメダメですなw

よし、まずはカタナ探して骨董品屋さんかな？

「リリースここにカタナがあるんだけど・・・ちょっと見てくれる？」

「うむ、・・・ほう！いろいろあるな^^」

「好きな選んで表で素振りしてみたら？予備も入れて2〜3本選んでねー」

「うむ！」

リリスはこれで良いとして・・・ケイトとメアリも何か選んだらどうかな？ ^^」

「私もいいのですか？」

「いいよー」

「私は護身用の小さめのものが良いんですが・・・マコトさん、選んでください ^^／／」

「んー短刀か脇差かなー？・・・メアリ！この辺にあるよー」

「マコトさん・・・この赤い鞆のはどうでしょうか？」

「脇差しねー・・・良いんじゃないかな？・・・予備はどうする？」

「こっちのナイフみたいなのにします ^^」

「うん短刀だね ^^・・・ケイトは？良いのあった？」

「これってなんです？マコト・・・この十字みたいなのは？」

「ああ、これはね、手裏剣って言ってね投げて使うの・・・こうやってね！」

あたしは壁に向かって手裏剣を投げます！・・・シュカッ！・・・うん、ナイス！

「ほう・・・面白い武器ですね・・・でも扱いがむづかしそうです・・・」

「だねー……ケイトはこのタイプのカタナが良いんじゃないかな？」

「刃渡り70cmくらいですね……うん、良いですね　これを基準に2〜3本選んでみます」

それぞれカタナも決まったし……てきとーにここにある刀は車に積んどくかな^^

さて次は……貴金属店だね

ありゃー……みんな驚いてるねー

「マ、マ、マ、マコトさん……ここは宝物庫ですか！すごい！宝石がいっぱい！」

「そんなとこかな？メアリの税の足りない分を選んじゃって^^」

「え！……多分その小さい物1個で十分だと……だってこれ金剛石ですよね？」

「金剛石？……ああダイヤモンドね^^そーだよ……でも1個で良いの？」

「十分です！」

「そうだ！みんな欲しいのあったら持ってっていいよ^^」

「「「え！」」」

「その代わりにお願ひがあるんだけど・・・いいかな？」

「なんでしょう？」

「うん、うちの国で働いてみない？」

「「「えー！」」」

あたしは今の現状を教えて将来の移住計画にみんなが必要だと話したんだ^^

メアリは村に兄がいるので村長の許可も多分大丈夫らしいです
冒険者の2人は未開拓地の冒険が出来る事と我々をもっと知りたいこと、

あと、^{カタナ}剣をもっと教えて欲しいそうなのである程度の期間なら良いそうです

勧誘成功！^^^^良い仲間ができました！まる^^

王様へのおみやげも宝石とか時計を持ったし・・・

後は・・・100円ショップで工具とかソーラー電卓と・・・ノートとペンもだね

テンプレでビー玉とビーズをたっぷりいただいて・・・

この世界でのお小遣い稼がなきゃね^^

お！そうだった・・・たしかこの軍装品屋さんで売ってたよね・・・

・あったあった！

そうですエアガンです！拳銃とライフルを20丁づつと・・・弾とガスとかもね^^

これでいいかな？・・・うん、足りなかったらまた来ればいいかね^^

基地にもっどつてと・・・次は宿泊場所を決めないとねー

おう、もうジョンさんたちが車両格納庫から近い所の住宅を接收してましたか！

さすがですねー^^

「んじゃ、3人はこの家を使ってね^^使い方が解んないと思うんで
今晚はあたしも泊まってあげるからね^^」

「マコトさんありがとう！・・・おとまり・・・キャッ！^^／

／

「うむ、・・・マコト 晩飯前にカタナの稽古をしないか？」

「いいよー^^1度 格納庫にもどつてからね・・・マックさんも
久しぶりに鍛えてやるか！」

トラックで格納庫前に戻ります・・・ん？・・・どーしたんだろ？
親父さんがこっちを見て怪訝そうで悩んだ顔をしていますなあ・・・

「兄貴、どったの？」

「・・・真琴・・・俺達はものすごく大事な事を忘れていたんだ！これはやばいぞ！」

え？・・・親父さんがヤバイって言う事は本当にまずいぞ！？

「真琴がトラックで帰ってくるのを見て思い出した・・・マジでまずい事だw・・・」

「な、なに！まずい事って！？」

「こっちの世界に来るときにトラックに轢かれてn「大ばかもの！（パカーン！）」グヘッ！」

「はーはー！何かと思えば・・・テンプレかい！」

「だ、大事なことだぞ？・・・あと、そのハリセンは痛いんだ「ギロツ！」さーせん！」

はーw・・・こいつが王様だぞ？・・・いいのか？

もう、夕ご飯食べてお風呂入ってぐっすり眠りたい・・・
3人娘も『あ、また始まった』みたいな顔して・・・なれたもんだねw

あたしの平穩っていつ来るんでしょう・・・

神様でもなんでもいいから助けて！・・・・・・・・・・・・orz

9話 涙の王族 えゝ！だ、だれがお姫様なのゝw！（後書き）

真琴「おつかれさまです・・・」

レティ「ごめんねー騙すつもりではなかったのよ・・・」

ジョン「そうなんだよ・・・いや、すまんね」

ロッテ「あら、でもとっても似合ってたわよ？ドレス^^」

リア「あたしが選んだんですよ！^^」

ファスト「でも姉さんに黙っとけって言ったのは師匠ッス」

真琴「・・・なんだって？」

カミヤ「ぷぷ・・・真琴のドレス・・・ピンクの・・・ぷぷぷ！」

真琴「やっぱりおまいかー！」

カミヤ「あははは！真琴が・・・ピンク！あはははは！」

カチャカチャ・・・

ジョン「いや！TOWはやばいって！」

ファスト「姉さん！対戦車ミサイルっスか！？」

レティ「さあ、逃げましょ^^」

ロッテ「全力でカミヤから離れましよう！」

真琴「おまいの血は何色だー！！！」

まいどです^^作者のM2ー1015です^^

ここの所 涼しかったので鼻風邪っぽい症状がでました
皆さんは大丈夫でしょうか？

まあ、寝不足もいけないんでしょうけどね^^

さて今回は魔法の訓練といよいよ王都へ出発ですかね？

それでは皆様にもっと笑顔が増えますように^^
では^^ノ

10話 涙の魔力 おおすぎる魔力は危険がいっぱいです!?(前書き)

真琴「どうもーす! ^^」

レティ「ハイ! ^^」

ジョン「オース!」

カミヤ「・・・出番へってないか?」

真琴「静かでいいじゃん ^^」

メアリ「その分私がんばりますマコトさん!」

真琴「いやいや・・・メアリのがんばるって・・・」

リリス「最初の登場では私はさっそうとした剣士だったような・・・」

「

ケイト「それはないな・・・」

レティ「なんか3人娘に出番を奪われただした?」

3人娘「「気のせいです」」」

真琴「それでは10話のはじまりでーす! ^^」

10話 涙の魔力 おおすぎる魔力は危険がいっぱいです!?

親父さんが王様って・・・ほんとにへーきなのかな？

まあ、なんとかなるで・・・なってほしいなーw・・・・・・・・orz

さて、気を取り直してリリースと訓練しましょーかね・・・
そうだ！その前に・・・せっかく持ってきたんだし・・・

「マックさーん、ファストー^^カタナ持って来たから好きなの選
んでー^^」

お?・・・みんな興味あるのかな？全員来ちゃったよ・・・

「マコトこのカタナはどうしたんだい？」

「あ、マックさん^^古物商のお店で見つけたんだよ^^」

「俺達ももらって良いのか？」

「私もほしいわ！」

「いいよー みんなもどうぞー!^^」

おお！マックさんとファストは真っ先に選んでるね・・・やっぱり太刀ですか・・・

およ？ヒューイさんとベルさんのヘリコンビは小太刀ですか・・・渋いの選んでるね・・・

モースさんとフレックさん、ベッカーさんは刀ですね^^
ロッテさんとリアさんは脇差しですか？はい、どーぞ^^

「ジョンさんとレティはどーする？」

「私もほしいわね・・・何がいいのかしら？」

「俺はあまりもんでいいぞー^^1番後には福が有るってカミヤが昔言ってたし^^」

「そっか^^んじゃレティこれ持ってみて・・・どう？バランスは？」

「んー・・・うん、丁度良いわね・・・これにするわね^^」

「んじゃ俺はこいつで・・・おお、こりゃ良いカタナだな」

「あ、ジョンさん　あともう1軒カタナを売ってる所があったと思うんですけど

明日にでもこっちに持って来ませんか？あと宝石屋さんとかだってあるしね^^」

「・・・そうだな・・・雑貨は別としても・・・貴金属や食料等は手分けして運んじまうか？」

「あ、そうだ！みんな魔力があるんだからケイトに魔法も教えてもらおうよ！^^」

「うん！そうだな・・・んー明日は取り合えずマコトたち女性が教わってくれないか？・・・」

俺達は物資を町から回収してくるから」

「おっけー^^・・・あ！お願い！・・・か○ばえびせんも持ってきてね？」

「H A H A H A H A！相変わらず好きだなー^^OK持つてくるさ！」

明日の方針も決まりましたね・・・
なんて事をやってたらもう直ぐ夕ご飯ですね・・・リリースごめん！
教えるのは明日ね？

さて、ごはん^^今日はハッシュドビーフとアンチョビのピザ！
シーザーサラダですね^^

お、みんなお酒も飲んでるね・・・いいな・・・

よし！あたしもーらおっと^^

ベッカーさんに言ったらシュタインベルガーを数本くれました！

これよ！これ^^ドイツの白ワイン！うん、冷えてておいしい！甘口で飲みやすいしね^^

およ？3人娘も飲みたそうだねー

（皆さん！飲酒は20歳をすぎてくださいよ？ここは異世界なのでOKですが^^）

「メアリ達も飲む？おいしいよ？これは葡萄のワインだよ^^」

「え？ワインが透明なのですか？マコトさん・・・普通はくすんだ濃い赤色なんですけど・・・」

「うん、これは白ワインって言ってねー・・・ま、とりあえずどうぞ^^」

「・・・！・・・おいしいです！」

「うむ・・・甘みがあってうまいな！」

「おいしいですね・・・これは・・・さすが王族が飲むお酒ですね」

「いやいやいや！これあたし達の世界ではちょっと高いけど普通のお酒だから！」

と、楽しくみんなで飲み食いしてました^^・・・はずなんですけど・・・

30分後・・・

「ああ！マコトさん！（すりすり）／／／」

「うむ！マコト！酒がうまいな！あははは！」

「ふむ・・・おいしいです・・・もっとマコトも飲むです」

「あは、ははは・・・」

1時間後・・・

「うふん・・・マコトさん・・・（すりすりすりすり）／＼／＼」

「うむ！マコト！飲んどるか！酒がうまいな！がっはっはっは！！」

「ふうむ！・・・おいしいです！・・・マコト！飲むです！」

「あ、は、は、は・・・」

2時間後・・・

「いやん！・・・マコトさん！・・・わたしにもすりすりしてくだ
さい！／＼／＼」

「うむ！・・・うむ？・・・マコト！酒がないぞ？もっと持って来
い！だっはっはっは！！」

「なーんですと！！・・・マコト！わたしの酒が飲めないと？・・・
もっと飲むです！」

「・・・だめだこりゃW・・・orz」

その後、酔っ払って寝てしまった3人娘をみんなで部屋へまで運んでベッドに放り投げました
あたしもベッドに入って・・・

「ZZZZZ・・・いゃん・・・マコトさんったらW・・・エツチW・・・ZZZZZ」

「ぐーぐー・・・うむ!・・・マコト!・・・酒だ!・・・ぐーぐー」

「・・・むにゃむにゃ・・・もったのむです!・・・むにゃむにゃ・・・」

「・・・みんな寝言もうるさいよ!」

真琴はなかなか眠れませんでした・・・
もう二度と3人娘に酒を勧めるのは止めようと真琴は本気で神様に誓いましたとさ^^

「マコト・・・起きてください」

「う！まぶしいw・・・」

「こんばんは、マコト^^」

「あ！貴方は！（イケメンの神様だ！）」

「そうですよ 以前お会いした神です」

「どうも・・・あれ？ふつーに喋れるぞ？寝起きなのにあたしへーきだ!？」

「それは魂だけここに来てもらっているからです^^身体はベッドの上ですよ^^」

「そーなんだ・・・魂だけ・・・で、何の御用ですか？」

「ええ^^移転した町の分の結界を少し広げました・・・ジャングルの境界までです」

「おお！それは有りがたいです！危険が減ります！」

「いえいえ^^この世界を救って頂くんですからお安い御用です・・・」

あ、そうだ まだ名乗っていませんでしたね 私はアイテール・・・アルでいいですよ^^」

「アルさんですね・・・（ギリシャ神話の原初天空神様ですか!?!）
分かりました」

「では、また^^」

「あ! 待ってください!・・・アルさんにお願いがあるんですが・・・」

「はい、何でしょうか?」

「えーと、あたし、猫を飼ってたんです モモって名前なんですけど・・・」

「元気ですかね?・・・できれば会いたいんです・・・」

「はい、分かりました^^然るべき時にこちらへ連れて来ます・・・直ぐは無理ですが・・・」

「そうですね・・・それまでは私がこちらで面倒を見ておきましょう^^」

「はや! でもアルさん! ありがとう! ^^」

「さて、そろそろ戻らないと上司がうるさいんですよ・・・」

「上司ってこの世界を作る時に失敗しちゃった方ですか?」

「そーなんですw・・・ああ、上司はワカンタンかって名前なんですかね・・・」

「ワカンタンカ!?・・・（インディアげふんげふん・・・ネイティブアメリカン!?）の・・・」

それともスー族の大精霊神様!?) ・ ・ ・ また、マイナーな方が上司なんだねー」

「そーなんですよW!・・・もうね、せこいし、大雑把だし、うるさいし、肩は揉ませるし・・・」

「は？　そうなんですか W・・・うちの兄貴とどっこい？」

「いえいえ！こっちの方が酷い・・・」

「いやいや！うちの兄貴の方が・・・」

なーんて朝まで愚痴の言い合いっこをしてましたとき・・・
この件でアルさんが上司に怒られたのは　また別の話ですへへまる！

さて、朝ですねー・・・あたしや寝不足気味なんですけど・・・でも、モモに会えるんだー・・・

[illegible]

ぼーっとそんなことを考えながら周囲をゆっくり見渡します……

リリースはまだ寝てますね・・・あらあらWベッドから落ちかけて・・・寝相が悪い？

ケイトも・・・うん、寝てるね・・・ピーン！と気を付けの姿勢で・・・疲れないのか？

でも、まあ2人の事は良いとして・・・うん、問題はこっちだW・・・

「えーと・・・メアリさん？」

なぜに貴方はあたしに引っ付いてる？・・・しかも全裸で・・・すっぽんぽんだよ！・・・

は！あたしも全裸？・・・なぜに！・・・いつ脱いだ？・・・んん？

「メアリ！ちよつと起きて！・・・起きてっば！」

「・・・はうい・・・マコトさん・・・おはようです^^／／／」

「おはよう・・・って、なぜあたしのベッドにいるの？・・・で、なんであたし達全裸なの？」

「え！はだか・・・キヤーッ！！！！／／／」

「な、なにになに！」

「キヤー！キヤー！（飛び込み！抱き！すりすり）キヤー！・・・やわらかいですW／／／」

「な！胸に顔・・・すりすり・・・あん！・・・しないで・・・んんW・・・」

「キャー！（すりすりすりぺろっ）／＼／」

「あうw・・・メアリ！・・・だめっw！」

「2人共うるさいです！」

「「ごめんなさい・・・」」

「ぐごーぐごー・・・」

ケイトが止めてくれて助かったー・・・リリースは・・・『ぐごー』
ってw女の子のようにw
さて、メアリの言い訳を聞かないとね！

「メアリ！何でこんな事すんの！」

「え、えーとですね　夕べご飯を食べてお酒を飲んだ所までは覚えてるんですが・・・

寝苦しくなって起きてみたらベッドの中に居て・・・服を見たら昼間着ていた服だったんで

着替えようと全部脱いだら・・・隣のベットにマコトさんが寝てて・・・マコトさんも

寝苦しそうだったんで服を脱がしたんですが・・・ですがまったく起きなくて・・・

つい、あまりにもマコトさんがかわいかったので潜り込んで抱きつ

いて・・・」

「それだけ？」

「その後は・・・寝たんですが、あまりにも良い匂いだったのでいろいろと堪能して・・・

ああ、ささやかながらやわらかい双丘！その中心のつぼみがだんだん固く大きくなって・・・

フトモモの付け根もだんだんと湿り気をおびて・・・あまそうな蜜がしとどに流れ・・・

だんだんと花卉のつぼみもほぐれて開いて・・・ああ！私は蜜だらけの花卉に顔を近づけて

そのまま開いた花卉に舌をからm「ストロップ！！」はい？・・・」

「あーもう！ここは『ノクターンノベルズ』じゃなくて『小説を読むもう！』なんだからねw

だからそれ以上はR18倫理に引っかかる！」

「あ、あーるじゅうはち？」

「そこは突っ込まないで！・・・それより！メアリはそんな事したの？あたしに！」

「いえ、全部夢ですよ？・・・マコトさんの布団に入った後はねちやいました（テヘッハ）」

「・・・・・・・・」

メアリw・・・・こ、このこはw・・・・・・・・orz

さて、メアリに正座で説教も（約1時間）したし、みんなも起きたし・・・

シャワーと洗面所（歯磨きとか）の使い方を教えて・・・朝ごはんにしでしょ！

カリカリベーコンとスクランブルエッグ、コンソメスープとコールスロー^^

りんごのジュースも用意してっど・・・あとはクロワッサンとコーヒーか？

あたしが作り始めたらリリースとケイトがマコトって料理できるんだーと驚いてました・・・

あたしは ふふん！と胸をそらせます

メアリは お料理できるマコトさんも素敵！とか言っていましたか・・・無視！^^

「さあ！食べましょ」

みなさんおいしいって完食です！・・・へへんっだ！^^

今いるここは滑走路の北の端です
これからみんなで魔術の練習ですね^^

メアリはリリスに剣術を教わります

ケイト先生曰く、イメージが大事なんだそうです

まず、体内の魔力を感じる事から始めます

魔力の放出ができてから それぞれの属性にあつた魔法を覚えるのだそうです

訓練をはじめて5分で地球組はギブアップ・・・なぜって？

身体のどこに魔力があるのか、何が魔力なのか解らないんです・・・

それではとケイトさんが1人づつ手を取って重ねます

魔力をケイトさんから流し入れて その後魔力を吸い出すそうです
その出たり入ったりしている流れているものが魔力なんだそうです

あたしもケイトさんと手をつなぎ・・・お、お、お！・・・これか？

なんか身体の中にうごめくと言うか 『もじよもじよ』するものが

あると言うか・・・

言いづらいですがなんかあります！

みんなも何かあるのは解ったみたいですね^^

ん？太陽が真上って事はそろそろお昼ですかね・・・お腹がへりま
した・・・

お？ハンビーが来ますね？・・・あ、マックさんだ！・・・おーい
^^

マックさんがお昼ご飯を持ってきてくれました・・・でも！

おっさんおっさん、そのレーションは却下ですよ！・・・

ん？ちゃんと別に持ってきてるじゃないですが！・・・マックさん

てばおちやめさん^^

基地内には元々アメリカチェーン店のハンバーガー屋さんとかコス屋さんがありますが

そこで作ってくれたんですって^^

(ほんとにあります・・・ただしアメリカ味ですがw)

あたしゃアメリカ製のハンバーガーはあまり好きではないのでタコスを食べます

うん、おいしい！ウーロン茶もよく冷えています^^

お腹も膨れて練習開始ですかね

夕方近くになってみんな魔力の放出が出来るようになりました
ケイトが手本で北の砂漠に向かって魔法を使います

「燃やし尽くせ！ファイヤーボール！」

のぼした右手の手のひらから直径20cm位の炎の塊が飛んでいきます！・・・すごいですねー

レティもやります 直径40cm位の炎の塊が飛んでいきます！

ロツテとリアは30cm位の炎でした

ケイト達もみなさんすごい！って言ってます

いよいよあたしの番です！

そー言えば神様があたしの魔力量はすごいって言ってましたね・・・
手を抜きますかね・・・

んじやいきますか・・・えいとな！

ヒュー・・・ドカーン!!

・・・@@・・・えーと?・・・どうしますかね・・・この
空気・・・

直径2m位の炎の塊が飛んでいきまして・・・えーと・・・
1kmほど先の砂漠に100mほどのクレーターが出来ちゃいまし
た!

最弱のつもりだったのにw・・・

みーんな固まっちゃってますね・・・どーしましょ?

あ、レティにロツテさん、リアさんも・・・そんな目で見ないで!
ケイト! やれやれって感じでこめかみを押さえながら頭を左右に振
らないで!

リリスはさすが王族だってうなずいてるし・・・違うから!

メアリは・・・うん、きらきら目してるね・・・

あれ?・・・でも、これって親父さんも出来るって事ですよね?
最弱の魔力であんな事を!?

ああー、そうだ! 神様に今から親父さんの魔力を元に・・・って出
来ないんだった!

うw・・・はやまったのかなw・・・あたしのばかり!

モモちゃん！早く会いに来てもふもふであたしを慰めて！・・・

10話 涙の魔力 おおすぎる魔力は危険がいっぱいです!?(後書き)

真琴「お疲れでーす(＞▽＜)／」

レティ「ほんとにお疲れ様ね・・・マコト」

ジョン「だねー」

カミヤ「俺が居なくても代理がいっぱいだな」

マコト「そんな代理はいらん!」

メアリ「そうですよ!マコトさんに失礼ですよ!?!」

リリス「うむ?そーなのか?」

ケイト「・・・こいつらわかってない・・・」

ジョン「さて、俺はマコト達が持ち出したM1タンクをかたずけるかな」

カミヤ「そうだ!マコトのピンクのドレス姿の写真を等身大に引き伸ばさなくては!」

真琴「え!写真なんて撮ってたの!?!」

メアリ「私にも下さい!」

カミヤ「ははははは!では、サラバじゃ!」

メアリ「待って下さい!私にも等身大の写真を!・・・」

真琴「ジョンさんまった!・・・その戦車かして!」

ジョン「やれやれw・・・」

真琴「高速徹甲弾ってどれ?」

ジョン「それがそうだが・・・劣化ウラン弾だぞ?1発70万円するんだが・・・」

真琴「くたばれ!兄貴ー!」

どうもです^^作者のM2-1015です^^

いやー登場人物が勝手にあばれてしましまして作者を困らせています

とくにメアリ達3人娘なんですが・・・

もっと地球組みに活躍させたいですね^^

でも王都まで行くとさらに変な人が・・・ネタバレはやめますね^^

次回はやつと序章の最後です？たぶんですが・・・

それでは皆様の笑顔がたくさん増えますように^^

では^^ノ

11話 涙の魔法 あたしだって彼氏が欲しいんだもんw（前書き）

真琴「皆さーん！お元気でしたかー？^^」

レティ「どーもー！レティちゃんでーす！^^」

カミヤ「よっちゃんんでーす！」

ジョン「みんなテンション高けーなw・・・」

真琴「うん^^・・・それと兄貴！よっちゃん言うな！」

カミヤ「いいじゃんか まこりん^^」

真琴「だめ！あとまこりんも言うな！」

メアリ「・・・まこりん・・・良いです！／／（うっとり）」

真琴「ほらー・・・こうなっちゃうんだからw・・・」

リリス「うむ、プリンセスまこりん・・・魔女っ娘みたいで良いではないか^^」

ケイト「・・・火に油を注ぐって知ってる？リリス」

レティ「さ、さー今回のお話をはじめましょ^^」

ジョン「だな・・・さ、マコトたのんだぞ？」

真琴「うw・・・じゃあ始めまs・・・←ん？またか？」

3人娘「」「みんなー11話はぢまるよー^^」「」

11話 涙の魔法 あたしだって彼氏が欲しいんだもんw

「あは・あはは・はは・・・」

乾いた笑いでごまかしも（みんなが注目してるね）・・・やっぱ無理でしたw・・・

ケイトが難しい顔してこっちに来るしw・・・やれやれw・・・

「マコト・・・皆さんのファイヤーボールの威力もすごかったです
が、・・・私はあそこまでの

範囲攻撃が出来るファイヤーボールを見たことが無いです・・・
だいたいファイヤーボールは単体攻撃魔法ですよ？

しかも、みなさん全員が詠唱無しでは・・・あなた達はいったい
何者なのですか？」

あたしはロツテさんとリアさん それにレティに対して肯いてアイ
コンタクトをします

メアリとリリスは心配そうにこっちを見えていますね・・・

「ごめんねケイト・・・あたし達も良く解ってないんだ・・・昨日
も簡単に話したけど

この魔力は神様がこの世界を守るためにくれた物だしね」

「でも魔法を使うのは皆さん初めてですよね？」

「うーん、そーなんだけど・・・魔法の概念って言うか、おおまか

には知ってたんだよね・・・
書物やRPGゲームとかでなんだけどね」

「書物は解りますが『あーるピーじーげーむ』ってなんですか？」

「んー・・・簡単に言うとな物語があって その登場人物になりきる遊び？ごっこ遊びかな？」

その遊びの中で魔法使いになって魔法を使う事ができたの まあシミュレーションなんだけどね

でも、あたし達の世界は 実際に魔法は使えない世界だったよ？」

「ごっこ遊び・・・そうなんですか・・・でも皆さんの魔力量もすごいですよ？・・・」

「あ、それは神様が魔力を増やしてくれたんだへへんーとね神様曰く、この世界の

最大魔力保持者くらいにみんなしてもらってるんだよ・・・

ただ、あたしと兄貴だけは身体が耐えられる上限の魔力を貰っちゃって・・・

それでさっきのファイヤーボールの大きさになったみたい・・・てへっへっへ」

「マコトは・・・どの位の魔力で火炎魔法を放ったんですか？」
あれ

「んー・・・気持ち的には持ってる魔力全体の・・・1万分の1くらい？」

「軽く言ってますがW・・・もう、マコトはなんでもありませんね・・・はあW・・・」

ん？・・・なんか、呆れられてますが・・・でも、しょーがないよね？

この世界の基準を知らないし それに神様がくれた魔力だしね？

「それとマコト、カタナを見せてもらっていいですか？」

「良いけど？」

鞆からみっちゃんを抜いてケイトに渡します

「・・・やっぱり・・・強化固定の魔法がかかってますね・・・
（ん？他にも魔法がかかってる？見たことが無い魔法ですね）
・・・これは全部マコトがかけた魔法ですか？」

「んーとね・・・それって無意識にかかったみたいなんだけど？」

「はい？これを無意識ですか・・・」

「あっそうだ！無意識って言えば・・・これもそーだね」

あたしは強化ハリセンをケイトにさし出します

「これは？」

「ハリセンって言うんだよ^^主に兄貴をひっぱたく時に使ってる
んだけど・・・
なんかねー神様が言うにはあたしが無意識に創造の魔法？で具現化
させたんだって^^」

「@@!創造の魔法!具現化!」

「ありゃ?変なこと言った?あたし」

「でマコトは無からこれを作ったんですか!」

「うん」

「ふう〜W・・・そんな事が出来る魔法使いはこの世界にいませんよ・・・」

そのマコトが使った魔法はロストマジック・・・失われた古代魔法なんです・・・はあ〜W」

「あら」

なんかケイト、私はもう知りません!てな感じで呆れてますがな・・・

・
あっちでリリースも口をあーんぐりさせてるし・・・(@!@;)↑
こんな感じ?

メアリは・・・メアリはほっとう・・・(>v<)／きゃー!↑
まあ一応こんな感じ?

「はっはっはっは!・・・話は全て聞かせてもらった!」

あちゃーWこの声は親父さんですね・・・どこに居るんだ?・・・
お!いたいた・・・照明の鉄塔のてっぺんですかW・・・バカと煙
は何とやらですね・・・

ブラック○グーンのロッ○ンじゃあるまいしW・・・

あ、アホの親玉ってのは一緒だね^^

あたしは車からバレットM82A1を担ぎ出して・・・車のボンネットから構えてっと・・・

約200m・・・親父さんの足元をよく狙って・・・

BAWOON!

葉莢がライフルから飛び出して・・・車のボディに当たって・・・ん？ ころころとこちらへ・・・

ひじにくついて・・・熱っちー！・・・ふうふう・・・熱かったW・・・

(撃って直ぐの空葉莢はとっても熱いのよ・・・)

さて、親父さんはどーなった？

お！ よろめいてるよろめいてる！ ^^

「あわあわ・・・うを！ 落ちる！・・・あーれー！（ドスン！）」

よし！ 落っこちた^^

「うむ・・・えー マコト、良いのか？ カミヤは一応 国王陛下ではないのか？」

「良いの^^ あーゆー普通に登場しないやつはこーやって賤けないと癖になるから^^」

「うむ・・・お主ら親子は変わってるのうW・・・」

「いやいやいや！変わってるのは兄貴だけだよ！」

「「「・・・・・・・・」」」

な、なに！みんなして『マコトは解ってないな』みたいな目であたしを見てんの！

あたしってば変な人なの！？

がばっ！

そして！あなたは！200m先で地面とくっ付いてたのでは！あーもう！

「うー！なんで抱きつくの！バカ兄貴！」

「だってーまこりん、ここ何話か抱きついて無いn」「ばーたれ！（ぱからーん！）」グヘッ！」

「だから！抱きつくなくなって言うておろーに！このスカポンたん！あと、まこりん言うな！」

「だっも」「だってじゃない！はたくよ！」さーせんしたw！」

「いいから！そこに正座！あーもう てきばきする！」

もう！このボケ親父が！・・・・・・・・ん？・・・・・・・・あれ？・・・・・・・・なんだ？・・・・・・・・地球組がみんなで異世界3人娘に何か教えてるぞ？・

・・なにになに？

レティ「いい？みんな あれがヨコタ国名物の王族漫才なの！^^」

リリス「ほう！そうだったのか！うむ、良い見世物だな！」

ロッテ「いつでもどんな場所でも いきなり始まるんですよ^^」

ケイト「初めて会った時もやってみましたよね・・・あのハリセンは
ああして使うんですね」

リア「いつ見ても とっても面白いんです！^^」

メアリ「ああ、マコトさんの突っ込み姿が！・・・凛々しい！^^
／／／

真琴「・・・・・・・・」

うw・・・また親父さんのせいでw・・・誤解がw・・・
そこの親父！ニヤニヤするな！・・・胸はるな！ピースサインもせ
んでいい！

もう・・・デフォって事であきらめるか？・・・いーやーだ
！っ！・・・orz

突然の爆発騒ぎでジョンさんたち全員が滑走路の北端に集まっちゃいました・・・

事情をみんなに説明します・・・親父さん！クレーターみてニヤツつとしないで！

試しにレティがみんなの前で威力を込めたフアーヤーボールを放ちます・・・

1・5 mほどの炎球が飛んで行って 70 m位のクレーターが出来ました

レティ曰く、この威力で放てるのは5〜6発らしくて あとは魔力切れだそうです・・・
やっぱりあたしってば規格外？

親父さんが1歩前に出て・・・

「よし！俺もやってみよう！」

すかさずジョンさんが

「ヘイ！カミヤ 威力は抑えろよ！」

「解ってるって^^ふふふふふふ・・・」

いやいや！絶対解ってないよね？こいつはW・・・

「んじゃいくよー!・・・メラゾーム「大ばかやろ!(パカライン!)」へブw!」

「なに炎の大魔法やろうとしてんの!アホかおのれは!」

「だって「言い訳するな!」はい・・・」

「兄貴!もっと小さいのにしなさい!わかったの?」

「はい・・・んじゃ行くよー・・・ペギ○マ!」

は!あちゃw止められなかったw・・・あれ?・・・ん?・・・
なにも起こらない?

「・・・そうか、俺、魔法の使い方教わって無いじゃん・・・そりや出来ないわけだ・・・」

がくっ!・・・ずっこけた・・・みんなもずっこけてる・・・
マックさんなんて滑走路に顔うずめてるぞ?・・・

うん、とりあえずハリセンで殴るところ・・・ピュー・・・
あ、逃げたw・・・

ん?なに?・・・うむ、また王族漫才が見れたぞって・・・違うからねりリス!

その後、みんなで話した結果、今後は防御や治療等の魔法を優先で覚える事になりました

まあ、攻撃に関しては地球産の武器がありますからね・・・
親父さん！シヨボーンとしない！・・・あんたのせいでしょうがw！
てか、いつのまに帰ってきたの？あんたはw・・・

会議の結果 3日後に王都へ向けて出発の予定です

ケイトさんの指示で全員の魔力と属性の検査はギルド登録をした時に測る事になりました

出発までは基本の魔法訓練と剣術訓練、町からの物資の搬入をします

あ、リリース達がつっぱー撃つてみたいらしくてライフルとショットガン、あと拳銃などを

撃ってもらいましたが、反動でグロッキーです・・・現地の人にはキツイみたい・・・
やっぱり威力があがってるのか？

んで変わりにガスのエアーハンドガン（SIG P-220）を撃ってもらったんですが・・・

なんと！実銃なみの破壊力です！・・・なので3人に護身用にプレゼントしました^^

うん、これなら小型だし ドレスなんかを着てても隠せるしね！

その後、王都までの道と偵察をかねて（半分は観光のため？）にヒューイさんとベルさんは
あたしとレティ、3人娘を乗せてヘリで王都の近くまで飛ぶことになりました・・・

地図作りと実際に車が走れるかの先行確認の為です^^

3人娘は空が飛べる！って喜んでますねー

「あれ？ヒューイさん、このヘリってこないだのでっかいやつじゃないんだね・・・」

「ああ、あれって試作のテスト機だからね・・・こいつは空軍のH60Gだよ^^」

「HH60G?・・・UH60Mブラックホークじゃないんだ」

「まあ基本は同じ様なもんだね 空軍はベイブホークって呼んでるが^^」

3人娘の話だとヒーノ村から王都までおおむね馬車で1週間くらいらしいです

馬車のスピードが休息を含めた平均で約6km/h強くらいか？1日8時間で約50km・・・

って事はヒーノ村からここまでが1日かかるとして・・・おおむねこっからだと・・・

王都までだいたい300km前後かな？

ブラックホークの巡航速度は確か・・・270～280km/hだったと思ったから・・・

うん、調査ふくめて3時間もあれば往復できるね^^

「準備はOKか？マコト^^」

「うん、いいよー・・・おやつは持ったし飲み物もOK（^^ヒューイさんにもあげるね）」

「マコトそいつはとても嬉しいんだが・・・武器は？」

「おう！忘れてた・・・持ってくるから待ってて^^」

武器弾薬を持ってきて・・・さあ出発！

3人娘はさっきまでのほしやぎ様からちよつとだけ不安な顔してますなー

はーい、みんな これ耳に付けてねーこれがあれば喋れるからねー
あたしはインカム付きのヘッドホンを渡します

ヒューンヒュンヒュンパリパリパリ！

へりははじかれたように大空へ！・・・んー！気持ち良い^^

みんなも うむ、飛んでる！とか木が小さく見える！とかマコトさん素敵！とか・・・ん？

・・・ま、いーか？

あれ？巡航にしてはスピード速くない？レティも不思議がつてるしね・・・

「ねー、ヒューイさん スピード速くない？」

「ああ、速いね・・・効率の良いコンピューターまかせの自動操縦なんだが・・・」

「どうやら航空機もこの世界に来て性能が上がってるみたいだな・・・」

「あら・・・」

「この分だと こいつは増槽いれて満タンで2000kmは飛べるんだが・・・これなら

3000〜3500kmは飛べそうだな^^ H A H A H A ! 神様に感謝ってどこかい?」

あたし達は順調に王都の側まで行きました

途中の村や町は多少迂回して目立たないように飛んでいます

目に付いたモンスターはそのモンスターが大きな害を周りに与えるかどうかを

リリース達に聞いて 害が有りそうなモンスターは狙撃等で倒します

狼のでっかいのは ワイルドウルフ、イノシシのでっかいのは ビックボアって言うらしいよ?

あとねファンタジーで定番のオークとゴブリンもいましたよ!

往復で20匹くらいは駆逐できたかな?

この街道の安全も上がったことでしょうね^^

王都までの道もほぼ問題なさそうだしね・・・地図も作れるね^^

基地から街道までの道も 昨日ジョンさん達が 戦車つかって何度も往復して

そのあとでブルトナー使って整地したから大丈夫かな?

基地の東門から700〜800mで街道に出られます^^

さて、基地に帰ったら夕ご飯だー^^お腹減ったしねー

ちなみに機内で食べたおやつは 真琴^{あたし}特性のフルーツパイでした^^
おいしかったよー^^

基地に到着ー！さあ、報告してお風呂入ってご飯だねー^^

S i d e ジ ョ ン

「おう！おかえり レテイ^^・・・どーだった？」

「とりあえず王都までは北東に直線距離で約300kmですね・・・
途中に村が2箇所、町が1箇所ですが・・・
順番にすると ヨコタ基地>村>町>村>王都 ですね」

「町が中間地点だな？」

「ええ、ここから約170kmの地点ですね・・・」

「俺達の装備なら王都まで1日で行けるだろうが・・・後学の為に
町で1泊するか？」

「そうね・・・良いアイデアね^^この町で何か売ってお金もつくりましょ^^」

「何を売るかだが・・・小物類なんかと・・・塩と砂糖とコシヨウでいいかな？」

「そうね 確か3人娘達も調味料は高級品って言ってたわね・・・」

「マックには悪いがレーションも多少売ろう・・・地下倉庫に何十万食もあるしな・・・」

「明日の車両は何にするの？全員行くんでしょ？」

「ああ、全員で行くが、トラックにはもう荷物を載せてるからこれは決定で・・・うーん・・・」

「やっぱりハンビィだけじゃ迫力無いよな・・・よし、LAV-25が2台で俺達が乗って」

「ハンビィは2台出そうか・・・ 1台目にカミヤとレティ、ロットとリアの4人・・・」

「で、2台目にマコトと3人娘でどうだ？」

「いいわね^^・・・カミヤと一緒に・・・（ポツ^^／／／）」

「あー、レティ・・・喜んでるところすまんが カミヤとマコトには言ったのか？」

「・・・へ？・・・」

「あー、えー、あれだ、カミヤの事が好きだって言ったのか？（に

やにや^^」

「!ま、ま、ま、ま、まだ・・・言っていないわ／／／」

「ま、がんばれ^^あの親子はかなり恋愛には鈍いからな^^」

「もう!ジョンったら!」

「H A H A H A H A H A H A ! ^^」

まあ、あっちの世界じゃある意味勧められなかったが こっちなら
応援してやるかな?

がんばれよ・・・レティ・・・

S i d e 真琴

真琴「ん~~~~! やっぱりお風呂は良いね~~~~!・・・疲れが抜けるよ
ね~~~~ふや~~~~」

メアリ「マコトさんと一緒だとさらに気持ち良いです^^／／／」

リリス「うむ!これは癖になる気持ち良さだな」

ケイト「お風呂に食事・・・元の生活に戻れなくなりそう」

リア「あら？じゃあこの国のお手伝いではなくて国民になっちゃえば？ ^^」

真琴「おー！それいーねー ^^ なっちゃえ」

なーんてみんなで話していると扉が開いて・・・

ガラガラ

どたぶーんってみうらさんですか あなたは！・・・あたしゃちひやーってか？

（アイ○スファンの方 すいませんです！）

ロツテ「やつと来たわねレティ ^^」

レティ「うん、疲れたわー・・・で、何を話してたの？」

こんな感じでお風呂でのガールズトーク ^^ たのしいねー・・・
だったんですが・・・ガールズトークと言えば恋愛話・・・あたし
や苦手なのよね・・・

学校でもこの手の話題はちんぷとんかんぷとんだったしw・・・

3人娘には取り合えず今は好きな彼氏は居ないそーです・・・過去
には居たみたい ^^

ロツテさんはマックさんが少ーしだけ気になってるみたいで

リアさんはフレックさんとベッガーさんがコナをかけてるらしいです

いいな〜・・・あたしも彼氏ほしいかもw・・・ま、親父さんが居たら無理かね？

ロッテ「レティは愛しの彼に片思い中だもんねー^^確か片思いが8年間もだっけ？^^」

レティ「あ！それ内緒だって言ったじゃない！もう、ロッテたらw・・・」

リア「私もジョンさんに聞きましたよ？その話^^」

3人娘「「その話聞きたい！」」

レティ「・・・かんべんしてw・・・」

うん、やっぱりついて行けないね・・・この手の話題には・・・にしてもレティってば好きな人いたんだー・・・知らなかったね〜w

メアリ「ところでマコトさんは？・・・彼氏の話まだですよね？」

真琴「え？・・・あたし？」

ありゃ？レティ以外の全員が聞いたそうな顔してこっち見てるね・・・

レティは色々知ってるから関心無しなのは解るんだけど・・・みんなを止めてほしいよー

真琴「えー、あー、うー、・・・」

あれ？思いだしてみれば親父さんが障害ってだけじゃなく

あたしってば男に言い寄られたことって無くね？・・・あれ？無い？・・・無いな・・・

お、凹んできたぞ？・・・

レティ「みんな！そのくらいで止めてあげてね？マコトのHPはもうゼロよ！」

真琴「・・・HP・・・ゼロってw・・・」

レティ「察してあげて！マコトの気持ちを！」

真琴「・・・レティ・・・とどめささないでw・・・」

レティ「は！マコト　ご、ごめんなさいね・・・」

どーせあたしや恋愛経験なんてありませんよ！・・・ありませ・・・あります・・・グスッ・・・

えーん！これってあたしのせいなのかなw・・・

親父さんに変に鍛えられてたからだよねー？

そう思わないと立ち直れなくなりそーだぞ・・・・・・クスン

神様！普通の平和も欲しいですけど・・・彼氏もほしー！

でも・・・その前に親父さんをどーにかしないと・・・彼氏作れな
いよねーw・・・

えーん！だれかあたしに愛の手を！・・・無理なのか？・・・
orz

11話 涙の魔法 あたしだって彼氏が欲しいんだもんw（後書き）

3人娘「「「お疲れ様です^^」」」

レティ「おつかれさま^^」

ファスト「あれ？・・・アネさんはどこっスか？」

ロッテ「ちよつとある事で凹んでるわね・・・」

リア「レティがトドメさしてたよね^^」

マック「落ち込んでもレーション食えば元気に・・・」

全員「「「「ないないw」」」」

カミヤ「真琴がいないと後書って平和なんだなー」

ファスト「そーっスね^^」

ジョン「それじゃまた次回でなー！バイイ^^」

どーもです^^作者のM2ー1015です

序章も今回で終了です

第一章の前にこれまで出てきた登場人物の紹介を入れます
序章のお付き合い有難う御座いました

引き続き本編第一章でお会いしましょう^^

それでは皆様にもっと笑顔が増えますように^^
では^^ノ

登場人物及び簡易設定（前書き）

作者のM2ー1015です

今回は 序章での登場人物等を簡単に紹介します

多少のネタバレも含みますがご了承下さい ^^

登場人物及び簡易設定

神谷 真琴…カミヤ マコト

通称…マコト 親父さんは真琴と呼ぶ（稀に まこりん）

年齢…18歳

性別…女（稀に おとこ？）

血液型…A型

身長…161cm

体重…秘密だそーです

スリーサイズ…もっと秘密だそーですw

職業…地球では高校2年生（ダブリ有り） 異世界ではヨコタ国のお

姫様—（笑い^^）

趣味…料理、ドライブ（主に峠の暴走）、バイクツーリング（主に峠の暴走）

好きなもの…かっぱえび○ん、麺類、甘いもの、猫、ある意味親父さん

嫌いなもの…手抜き料理、レーション、虫、ある意味親父さん

本作の主人公 不幸体質と言うか弄られ体質で 本人は普通人と思
い込んでいる

一応高校生で 学校は八王子の南浅川沿いにある普通科都立高校
に通っている

学校では表面上では大人しくしているが裏で学校を仕切っているそ
の手の人達からは

一目置かれている（憧れられてもいる）

また 学校ではその『おっとこまえ！』な性格が災いし女子のファ
ンクラブもある

実は男子達からもそこそこモテてはいるがフアンクラブの女子達に
より

真琴の知らないところで闇に葬られている（かわいそうね〜^^）

親父さんに小さい頃から色々仕込まれているので戦闘技能は折り
紙つき

実家の道場では師範代もこなしている

実戦経験も豊富で 最初の海外旅行にてマフィアアメリカとの銃撃戦を経験
している

その後は親父さんとコンビを組んで世界各地で色々な実戦経験を積
んでいる

なので男運が無く 彼氏居ない暦イコール年齢である

本人は知らないが『鮮血の豎琴』ブラッディハープの二つ名で

その筋からは恐れられている

真琴の母親とは4歳の時に死別している 転移前までは親子2人の

父子家庭

（十猫のモモちゃん）

レティとは真琴が中学1年生からの友達で胸のコンプレックス対象
でもある

本人は中学時代から見ればA↓B一まで育っていると言っている

料理の腕はなかなかのもので特にお菓子作りが上手

刀の腕もすごく親父さんには勝てないが実家の道場では師範代をし
ている

射撃の腕もあるが肌が荒れるのであまり好んではない

神谷 義春…カミヤ ヨシハル

通称…カミヤ 真琴は兄貴と呼ぶ（自称 よっちゃん）

年齢…42歳

性別…男（稀に おんな？）

血液型…O型

身長…178cm

体重…68kg

スリーサイズ…いやん！えっち！だそーですw

職業…地球では日本やアメリカから何かを請け負っている 異世界ではヨコタ国の王様

趣味…料理、自分からトラブルを作る、真琴を弄る^{いじ}

好きなもの…真琴、猫

嫌いなもの…オクラ（本人曰く、あれは食べ物ではない！生物兵器だ！）

本作の主人公の父親 はちゃめちゃで破天荒だが重要な事では真面目になる

主に日本やアメリカからの依頼で裏の仕事をしている

実家の道場も経営していて師範も兼ねている

最初は3人でこの仕事をしていたが 約15年前の仕事で相棒だった他の2人が襲われている

その関係で真琴の母親を殺害されてしまい それ以降、真琴を鍛えている

現在の相方は真琴となる（ただし、真琴は仕事の内容までは知らされていない）

レオとコンビだった頃の二つ名は『^{ブラック}黒髪の殲滅者^{デストロイヤー}』

真琴とのコンビの現在は『^{ブラッディ}鮮血の親父^{ダディ}』

カミヤの話では真琴の胸は中学時代からAのままだしい（抱きついて確認しているらしい）

レティシア・フォンダ

女性 21歳

元アメリカ海兵隊員 階級は少尉 現ヨコタ国侯爵

Eカップだが実際はFカップなみであり 真琴のコンプレックスの基でもある

真琴とはレティが高校1年生からの友達である

超が付くほどのガンマニア

祖父のウインチェスターM1897ショットガンと真琴とお揃いのネーム入りコルトガバメントを

特に大事にしている

お風呂が大好き

ラーメンも好きである

意外とちゃっかりとしている所もある

レティがカミヤと知り合った13歳の時にカミヤに一目惚れをしている

その為 真琴とカミヤのスキンシップがとても羨ましく思っている

ジョン・フレデリック

男性 37歳

元アメリカ海兵隊員 階級は中尉 現ヨコタ国公爵

カミヤの裏家業のアドバイザー兼 協力者で依頼の中継者エージェントでもある

カミヤと真琴の実力を良く知る理解者で 実際に一緒に仕事をした事もある

真琴と一緒にした仕事で真琴の不評をかった事が何度もあり たまに真琴からジョンへの

扱いが軽くなることも

武器は艦船と航空機を除いて概ね操作はできる

メアリ・エンジェス

女性 17歳

ヒーノ村出身で村長の娘 兄がいる

納税の為に王都へ向かう途中で盗賊に襲われるが 真琴達に助けられる

真琴に一目惚れで周りが見えなくなることもしばしばある

基本はしっかりしているが予想外の事が起こるとあわあわする事もある

王都編あたりから真琴との関係について まわりは生暖かく見守っている

リリス・ヒューイット

女性 19歳

剣士

元はケイトとある王国の騎士団に入団していたが

上司とそりが合わず退団し冒険者となる

二つ名は『爆発^{ボム}の剣士^{セイバー}』

気風が良くて思い込んだら直情一直線で豪快なイノシシの様な女性でもある

今でも騎士団等に顔が利く

ケイト・ウオーレンス

女性 19歳

魔法剣士

元はリリスとある王国の騎士団に入団していたが
上司とそりが合わず退団し冒険者となる

二つ名は『氷風の魔女』
ブリザード ウィッチ

冷静で緻密な計算ができる女性でもある

リリース同様に 騎士団等に顔が利く(怒らせると怖いらしい)

ロツテ・リーブテーキ

女性 26歳

元アメリカ海兵隊員 階級は少尉 現ヨコタ国伯爵

免疫学を習った軍医

怪我人や病人をほってお事ができず 自分を犠牲にして助けることもしばしばある

日本の温泉が好きで休暇のたびに温泉宿めぐりをしている

好物は会席料理や寿司等の和食

やや おっとりな所もある

マックに多少恋愛感情がある

リア・バーグス

女性 24歳

元アメリカ海兵隊員 階級は軍曹 現ヨコタ国子爵

外科手術が得意でロツテのアシスタント兼、メディックでもある
酢昆布が好き

やや天然でフレックとベツカーに言い寄られている

ファッション通でセンスも良い

やや黒い部分がある？

マック・シェイキング

男性 32歳

元アメリカ海兵隊員 階級は軍曹 現ヨコタ国子爵

格闘技が得意で剣術もそこそこ出来る

真琴がマツクの剣道の先生でもある

レーションはあまり好きではないが　なぜかみんなに食べさせようとする

梅干が好き

ファスト・ベークエッグ

男性　19歳

元アメリカ海兵隊員　階級は上等兵　現ヨコタ国男爵

車の運転がうまい

鍵開け（ピッキング）の名手

カミヤをカタナの師匠と仰いでいるが　余計な知識も植えつけられ始めている

みんなからの弄られ役としても活躍している？

モース・テリヤ

男性　20歳

元アメリカ海兵隊員　階級は上等兵　現ヨコタ国男爵

狙撃の腕はなかなかである

フレック・ネス

男性　22歳

元アメリカ海兵隊員　階級は上等兵　現ヨコタ国男爵

ブービートラップの名人

アメリカ南部出身なので　とにかくなんにでもケチャップをかけて食べる

（筆者親子がアメリカ旅行中に目撃したので事実と思われる・・・

ラーメンや寿司、そば、
うどん等にケチャップをかけている人に聞くと100%南部出身だ
った・・・)

リアにアプローチ中

ベツカー・サランド

男性 21歳

元アメリカ海兵隊員 階級は上等兵 現ヨコタ国男爵

車両等、機械のメンテナンスが得意

車やバイクの改造などが好きなので真琴と良く話している
結構な酒好き

リアにアプローチ中

ヒューイ・イリコイ

男性 27歳

元アメリカ海兵隊員 階級は少尉 現ヨコタ国伯爵

ヘリパイロット 新型ヘリのテスト中 ベルと一緒にこの移転に巻
き込まれた

甘いものが好きでマコトが作るお菓子を楽しみにしている

ベル・スコレスキー

男性 26歳

元アメリカ海兵隊員 階級は軍曹 現ヨコタ国子爵

ヘリパイロットでヒューイの副官 整備士でもある

あまり喋らないが気のいい人

アイテール

男性？ 年齢不詳

真琴達を異世界に召喚したイケメンの神様

ギリシャ神話の原初天空神様でもある

真琴とはうまが合うらしいがカミヤに対しては苦手っぽい

影で真琴達を支援してくれる有り難い存在

真琴の飼い猫のモモちゃんを預かってくれてもいる

ワカンタンカ

性別不詳 年齢不詳

アメリカインディげふんげふん・・・ネイティブアメリカンのスー族の大精霊神

この異世界を作った張本人

部下のアイテールをこき使っているらしい

のちに真琴のクラスメイトにとんでもない魔法を教えてしまう

レオナルド・フォンダ

男性 47歳

レティのお父さん アメリカ海兵隊大佐で現在は沖縄で海兵隊基地司令官

親父さんと最初にコンビを組んだ人 2年でコンビ解消している

現在は腐れ縁の友達で仲は良いがよく喧嘩もする

特に娘の事となると我を忘れがちになる

カミヤとのコンビ時代の二つ名は『ゴールド デストロイヤー金髪の殺戮者』

バクラ・ベアドーン

男性 30歳

6話で出てきた盗賊のお頭　本編では名前すら出てこず　真琴にあってさりと

やられてしまったある意味かわいそうな人

この界限では最も大きな盗賊団　高額な賞金首でもある

盗賊団名は『消滅の大熊』

ヨコタ国

地球から神様により横田基地ごと転移してきた場所を国と定めた
現在は人口13人

ヒーノ村

メアリの出身地で農業（主に穀物）が主産業
村の人口は約700人

ヨコタ国からは南東に馬車で1日の場所にある

シャマール国…首都名もシャマール

首都の人口は約8万人

ヨコタ国からは北東に馬車で6日の場所にある

国王は温和な統治をしていて国民からの支持もある

これからみんなで向かう国（どんな人が出てくるやらw・・・orz）

主役級の名前は実際の本人や友人から少しだけ変えてってます
海兵隊の一般隊員はファーストフード店、航空隊の2人はヘリコプ

ターから名前を付けました

現地人は3人娘を除いて車や銃器等から付けるつもりです^^

※ 登場人物や設定などは不定期にて追加更新します

（大幅に追加したときなどは筆者の活動報告にてご連絡します^^
^ノ）

登場人物及び簡易設定（後書き）

新たな設定等が出るようでしたら また追加で書き込みます
基本がギャグ小説なので出鱈目な部分も多々ありますが
ご感想等がありましたら宜しくお願いいたしますね^^

次回は 第一部王都編になります

それでは皆様の笑顔がさらに増えます様に^^
では^^ノ

12話 涙の出発 お姫様からコメディアンにジョブチェンジしました!?(前)

真琴「・・・ぶつぶつ・・・」

レティ「みなさーん!よろしくー・・・って マコト?」

ジョン「前回レティがトドメさしてからそのまんまなんだよW」

リア「あれはきつかったですねー・・・」

ロッテ「うんうん」

レティ「・・・何の事かしら? おほほほ^^ (は!これって主演のチャンス?)」

ジョン「レティ?」

レティ「い、いや、なんでもないわよ?・・・おほほほほ」

メアリ「四つん這いのマコトさんも素敵!／＼／＼^^」

リリス「うむ、ああやって腕や足を鍛えてるのだな!」

ケイト「いやいや・・・2人とも変だからその考え」

ジョン「んじゃたまには俺が・・・」

レティ「第12話はじまりまーす^^ (やった!^^)」

ジョン「・・・グスンW・・・」

12話 涙の出発 お姫様からコメディアンにジョブチェンジしました!?

「小僧! オヌシの様な小童がリリス殿の剣の師匠とは片腹痛いわ!」

「小僧? 小童? …… (ニコツ^^#)」

「うむ、マコト! 落ち着け! 本気を出すな! 冷静にやるんだぞ」

やべー 怒りでみっちゃんをマジで抜くとこだった……こいつなら素手で十分かな?

でも真剣試合やるとこは けってーなのねw……

「……オツケー ありがと^^リリス」

殺る気まんまんて槍を構えた身の丈2m近いおっさんと向き合ってるんですが……

でも なんていつも トラブル(こーなる)のかね? ……あたしのせーじゃ無いよね?

あたしは ぼそつと疑問を口にします

「なんでこーなった?」

夕べのお風呂から一夜明けて朝なんですが．．．．．o r z

うう．．．どーせ あたしゃ．．．負け組みなのね．．．え
くんw

元の世界に帰るんだって 何年かかるか分かんないしw．．．
は！10年この世界に居たら あたしってば三十路に近いじゃん．．．

．
て事は．．．帰れるとしたって おばさんになってるよね．．．

いやいやいや．．．この世界でイケメン捕まえて．．．．．ほん
とに捕まるか？

だって、親父さんもいるんだぞ？

あたしは 昔からの悪い癖、『思考のループ』になっているのに気が
つきません

ジョン「レティ．．．マコトの凹み具合．．．今回は長いな．．．
夕べからずっとだぞ？」

レティ「そうね．．．これはちょっと長いわね．．．」

ジョン「どーする？」

レティ「そうね・・・月並みだけどみんなで慰めるしか無いわね・・・」

ジョン「それしかないか・・・おい！みんなちょっと来てくれ」

あつちでジョンさんが何か言ってるけど・・・

Side 真琴以外

ジョン（みんな悪いな集まってくれて・・・でだ マコトの事なんだが・・・話は小声で頼む）

レティ（カミヤは別として マコトは意外と繊細なのよ・・・ただし単純でもあるけど・・・）

リア（その繊細なマコトに タベはトドメをさしてましたよね？レティ）

レティ（うw・・・それは置いといて）

ロッテ（どうすればマコトは復活するんです？）

ヒューイ（嬢ちゃんは料理や菓子作りがうまいから それを誉めるか？）

リリス（うむ、剣の腕を誉めるか？）

ケイト（あの強大な魔法を誉めますか？）

ファスト（それ、逆にクレーターの件で落ち込まないっすか？）

ベル（まあ、マコトはさ そのままでもかわいいよな？）

モース（ああ、かわいいと思うぞ？）

フレック（リアよりはちよつと下だけど・・・マコトも かわいいぞ？）

ベッカー（あ、こいつ抜け駆け・・・リア好きだ！（*^ω^*）
／デレッ・・・）

フレック（ベッカー・・・しまらない顔しやがってw・・・）

メアリ（マコトさんは誰よりもかわいくて素敵です！キャー q
≧≡≡≡*）（*≡≡≡≡） p キャー）

マック（だから、レーション食べれば元気になるって）

全員（（ないない！）（））

カミヤ（俺のほうがいいけどな）

全員（（絶対でない！）（））

ジョン（オーケー・・・んじゃ、かわいいってのでマコトを誉めるぞ？いいな？）

S i d e 真琴

うー・・・でも こっちで彼氏作ったら元の世界に帰る時ってどうなるの？・・・ううー

ん？・・・みんなしてこっち来るけど？・・・なんだ？・・・

レティ「マコト・・・夕べはごめんね・・・大丈夫よ マコトはかわいいから^^」

ジョン「そーだぞ？マコトは かわいいんだから 気にすることないって^^」

レティ・・・ジョンさん・・・慰めてくれるんだ・・・

リリス「うむ、マコトは剣の腕もすばらしいし それにかわいいぞ？」

ケイト「マコトはかわいい」

メアリ「マコトさん！かわいいです！／／／（。ゝ）＝3 ハ
アハア・・・」

「かわいいぞ！」 「また菓子作ってくれよな！」 「素敵よマコトは
^^」

み、みんな！ありがとー！^^

あたしの事 気にしてくれてるんだね^^

真琴「みんな・・・ありがとー^^・・・うん、がんばるY」 「がば
っ！」 おおう！」

カミヤ「真琴・・・ごめんな・・・ある意味で さみしい思いさせ
て・・・」

お父さん・・・心配してくれてたんだね・・・ちょっと嬉しいかも
^^／／／

真琴「あ、こら・・・兄貴ったら・・・抱きつかないでよ・・・も
う／／／（＊ー＊）テレッ」

親父さん・・・温かいな・・・ぬくもりが・・・／／／

カミヤ「ほんと すまん！おまえは貧乳さみしいつての気にしてたんだな・・・」

あ？・・・読みは『さみしい』だけど？

カミヤ「でも貧乳さみしくても良いじゃん！微乳たいらだっていいじゃん！・・・
だって真琴は無乳かわいんだから！^^」

真琴「兄貴？・・・漢字とルビがちがくない？・・・あ？凸（
＼＃）」

カミヤ「へ？真琴のかわいってのは 貧にY「死ねやこらー！（
ガキンツ！）」あぶ！」

神速の居合いでみっちゃんを抜きましたが・・・親父さんも太刀を
抜いてますな・・・
避けられちまったW・・・

真琴「ちっ！・・・受け止めんなよ・・・」

カミヤ「いやいやいや！今のはマジやばかったW・・・それに『ち

っ!』って言ったよね!？」

はあはあ・・・まあ、あれだ・・・真剣はまずいか?・・・
あれ?・・・ん?

リリス「うむ!流石だ!剣を放ったマコトもすごいが 受け止めた
カミヤもすごい!」

ケイト「私じゃ受け止められない」

メアリ「すごいです!マコトさん!・・・かっこいいです!／／／
^^」

3人娘「」「ビバ!王族漫才!^^」

ま、まあ・・・元氣はでたかな・・・あは、あはは・・・
r z z O

さてさて、シャマールの王都へ出発の朝がきました!

この間に男性達も魔力制御を覚えましたよー
回復魔法や防御の魔法 後は強化とかだね・・・
攻撃魔法は教えませんでしたけどねー^^

あたしはこの2日間 銃火器や刀剣類 装備品や車両等に強化魔法
をかけまくってました

特にテッポなんか汚れないわ破壊力上がるわ・・・たぶん錆も出な
くなったんじゃないかな？

リリースは自分の太刀にも魔法がかかった！って 大喜び^^

服なんかもねー鎧みたいになっちゃって・・・車なんかも性能UP
しちゃったよw・・・

そうそう エアガンも威力上がったねー

魔力？あんまし減らなかったね このくらいじゃ・・・あたしって
ばどんなチートだ？

まあ、ケイトは『私の立場が』ってふてくされてたけどね^^

今は朝の9時！では そろそろ出発といきますか！

先頭は あたしと3人娘のハンビーで 次がジョンさんとロツテさ
んでモースさんのLAV-25

3台目がヒューイさんとベルさんのトラック 4台目がフレックと
ベッカーとリアさんの

LAV-25 最後がレティとマックさんとファストそして親父さ
んのハンビーです^^

基地の東口を出て街道まで来た所で一旦ストップハハ

あたしの魔力を媒体にしてケイトが基地への入り口を幻影魔術でカモフラージュします

よし、基地への入り口はこれで解らなくなったぞ 完璧だねハハ
そのまま左に曲がって北東へ進みます

前に砂漠沿いに偵察したときは5〜10 km/h位の低速で確認しながらだったけど

今回は普通に30〜40 km/hで走ってます

2時間ほど走って最初の休息場所 ノーダ村に到着！

取り合えず村の入り口手前で止まります

途中で追い越したり すれ違った馬車や旅人達も あたし達にめっちゃ驚いてましたが

ノーダ村でも人ばかりですね〜・・・村の門の所に人がいっぱいです

うん、これじゃ中はいれないよね？

ありゃ？なんかゴツイかつこのおっさんが槍を構えて何人かきますね・・・さて、どうする？

「うむ、私にまかせてくれ」

「へ？リリース・・・大丈夫なの？」

「ああ、あやつは・・・真ん中の背の高いやつだが、私とケイトの知り合いだ」

「あら・・・んじゃまかせた^^・・・あ、リリース ちょっと待ってて」

そー言えば 身分を明かしてもいいのかね？・・・ジョンさんに無線で聞いてみるか・・・

「ジョンさん 聞こえる？」

「おう、なんだ？」

「村の入り口から来るゴツイおっさん達んだけど リリスとケイトの知り合いなんだって
んで話をつけるらしいけど あたし達の身分とか王族とかばらしちやって良いのかな？」

「んー・・・取り合えずメアリの護衛の冒険者って事にしておくか？」

「オッケー」

無線の内容をリリースとケイトに話して・・・

あたし達がこの村で簡単な商いと休憩をしたいと伝えてもらいます

リリースとケイトが背の高いおっさんと話をしますが・・・ん？
ありゃ？おっさんってばリリースとケイトにぺこぺこしてるぞ？
おっさんと一緒に来た騎士っぽい人達もぺこしてるね・・・

お？村人たちも『この方が』とか『ボムの！』『ブリザードの！』とか言って驚いてるし？

あの2人って有名なのか？・・・ふむ 後で聞いてみるかな？

お、リリスがおいでーって手をふってるよ・・・話は済んだみたいだね^^

あたし達は車両を村の入り口から中に入れます

村に入るとすぐに広場？って言うか多分馬車用の駐車場になってますね・・・

空いている隅っこに車両を停車させて車から降りてっ・・・

「リリスー！交渉ありがとねー^^」

「うむ、問題ない・・・こいつも居たしな」

「だれだれ？・・・しょーかいして^^」

あたしは背の高いおっさんと向き合います

おー、でかいなー2m近いんじゃない？筋肉もすご！

腕なんてあたしのモモより太いよ！

「うむ、元私達の部下で シャマール王国第一騎士団下士官の『ブール・カンタック』だ・・・

でこちらが 現雇用主で友人でも有り 私の剣術師範の『マコト・カミヤ』だ^^」

リリス？元私達の部下で シャマール王国第一騎士団？・・・って事はリリス達って

元騎士団にいたの？・・・聞いてないよ・・・ありゃ？この人あたしを睨んでる？・・・

いや、それよりもまず挨拶だね^^

「こんにちは ブールさん^^」

「・・・なんだと！・・・このお子様が師範だと！本当かりリス殿！」

あたしの挨拶は無視ですかい・・・

「うむ、私は今現在マコトに剣を習っているが？」

「・・・（ぷるぷる）・・・」

ありゃ？雲行きが怪しくなっていないか？・・・おっさんってばなんかぷるぷるしてるし？

お、ジョン達 みんなして遠巻きでニヤニヤと・・・って見物体制ですかい！

「うむ、ブール！落ち着け・・・」

「そう、落ち着くといい」

「リス殿！ケイト殿！あなた方がこんな子供に雇われるとは・・・私はくやしい！」

「うむ、だがマコトはめっちゃ強いぞ？」

「そうそう・・・めっちゃえらいし」

「!・・・ならば 私が試すまで!・・・いいですな!」

「うむ、かまわんが・・・」

「怪我しても私はしらない」

あらー・・・止めないの2人とも・・・まあ、いいけどねw・・・
軽くやっちゃうか?

「小僧! オヌシの様な小童がリリス殿の剣の師匠とは片腹痛いわ!」

「小僧? 小童?・・・(ニコッ ^^ #) 凸」

あたしは一瞬で大量の殺気を撒き散らしたみたいで・・・

「うむ、マコト! 落ち着け! 本気を出すな! 冷静にやるんだぞ」

やべー 怒りでみっちゃんをマジで抜くところだった・・・でもこいつなら素手で十分じゃね?

まわりも見えてないしw・・・それに相手の実力も見れない様じゃねw・・・

でもこのおっさんと真剣^{やゐしと}試合は けってーなのねw・・・

「・・・オツケー　ありがと^^リリース」

殺る気まんまんで槍を構えた身の丈2 m近いおっさんと向き合ってるんですが・・・

でも　なんでいつも　トラブル（こーなる）のかね?・・・あたしのせーじゃ無いよね?

あたしは　ぼそつと疑問を口にします

「なんでこーなった?」

と言う感じで冒頭につながるわけなんですけど・・・
あたしの短気は直さないとねー・・・

ん? あらあら村人達まで遠巻きに見物ですか・・・どっちが勝つか
賭けまでしてるしw・・・
ほとんどみんなブルに賭けてるみたいですが・・・
メアリ達3人娘は有り金全部あたしですか!

「がんばるのよ　マコト^^」

レティってば・・・お気軽に言ってw・・・

「うむ、私が審判を引き受けよう^^」

リリス・・・楽しんでやがるな？

「マコトが勝てばお小遣い10倍・・・ぜったい勝て」

お小遣いってw・・・ケイト、後でおごれよ？

「キヤー q ($\geq \nabla \leq *$) ($* \leq \nabla \leq$) p キヤー」

メアリは・・・うん、あれは ほっところ・・・

あたしは武装を全部はずして・・・ハリセンは持つところかね？

ん？なにげにジョンさんとマックさんは ベレッタ拳銃ホルスターの止め具外してるね・・・

大丈夫だよん^^・・・あたしは2人に軽くウインク^^

さて・・・

「小僧！武器は持たんのか？」

「これ（ハリセン）でじゅーぶん^^」

「うぬぬ・・・なめておるのか！」

「おっさんなんか舐めたら腹壊す！」

「うぬぬ！ゆるさん！」

おっさんは槍を低く構えて突進してきますが・・・

あたしは槍の先をふんずけて 先端を地面にめり込む様に突き刺し
おっさんの突進を止めて

体勢が崩れたところで 槍の根元に蹴りを1発入れます

バキッン！

（あら？手から離すつもりが・・・へへ ごめんね？・・・折れち
った・・・てへっ^^）

ブルーさん驚いて@@；↑こんな目をして固まっちゃってます
相手を舐めるからそーなるんだよーだ！

あたしは そのままおっさんの顔面にむかってハリセンを・・・

パシーン！

おっさんは後ろに倒れて・・・ありゃ？・・・白目むいてる？
1発で？・・・そんなに強いのか？このハリセンって？

「うむ！マコト殿の勝利！」

リリースさんが勝利の宣言してます

ケイトさんは・・・しゃがんでおっさんを指で『つんつん』と突い
てますが・・・

ところでメアリさん？腰にしがみついて『すりすり』しないでね？

3人娘は掛け金もらってうれしそうですなー・・・少しよこせ^^
それにしても周りの歓声がうるさいですね・・・あたしゃ疲れた
よw・・・
腹減ったな・・・そろそろ昼か？

がばっ！

「あー！もう！暑っ苦しいからはなせ！バカ兄貴！」

「ね？ね？今ので分かったでしょ？あのおっさんも一撃だったその
ハリセンって痛いんだよ？」

「それは 兄貴がいたずらするのが悪いんでしょ！」

「・・・ううw・・・(TωT)ウルウル・・・」

「かわいい娘ぶつてもだめ！」

あたしがハリセンを振りかぶると・・・ズサーっと離れて土下座し
まくり！

まったく！この親父は・・・ん？・・・は！ケイト！なにや
ってんの！リリースも！

「ヨコタ名物 カミヤ親子のド突き漫才だよ・・・みなさん見て」

「うむ、みんな楽しめたならこの帽子におひねりをいれるんだぞ？」

「あら？マコトさん もう終わりですか？素敵なのに・・・／／／
^^」

・・・あ、・・・3人娘は・・・レティが基地で言った事・・・本
気にしてるのか？

レティ・・・王族漫才って言った事 うらむぞー

あれ？でも・・・これって一般大衆にも広まった？・・・

あーん！あたしはコメディアンじゃないんだよー？・・・（たぶん
w・・・）

イケメンの神様！なんとかしてー・・・・・・・・orz

12話 涙の出発 お姫様からコメディアンにジョブチェンジしました!?

(後

真琴「おつかれさまー」

レティ「おつかれさまでした」

ジョン「おつかれさん!」

レティ「マコト・・・ごめんねー」

真琴「いいよ^^もう気にしてないから^^」

ジョン「その切り替えの早さはうらやましいな」

真琴「へへへ^^・・・ん?」

カミヤ「でだ、レティ>ロッテ>リア||メアリ||ケイト>リリース>
>>>越えられない壁>>>真琴って順番になるわけだ^^わかった?」

ファスト「わかったっス師匠!」

真琴「ねえ ファスト何の順番なの?^^」

ファスト「ああこれっスね^^胸の順番っス^^・・・って!ヤバ!」

真琴「・・・ふーん・・・」

ファスト「師匠!逃げるっス!・・・ってもう居ないっス!」

ヒューンヒュンヒュンパリパリ・・・

ジョン「あちゃーW真琴ってばAH-1W スーパーコブラ乗って
っちゃったよ・・・」

真琴「くらえ!ハイドラ70ロケット弾!」

どーもです^^作者のM2-1015です

やっと第一章に入りました

かなりの部分を省略と縮小して書いてもこんなに長くなるんですね
(作者の腕がわるいのかな?・・・orz)

さて、今回は『真琴はじめてのお使い』『村の中では?』『おら1
番!』の3本です^^ (ウソ)

できれば結構ですのでお気に入りの登録や評価、感想なども
宜しく願いいたします m (_ _) m ペコリ

それでは次回をお楽しみに^^

皆さんの笑顔がもっと増えますように^^
では^^ノ

13話 涙の旅路 あたしは男の娘じゃなくて女の娘ですってばW！（前書き）

真琴「どーもー^^」

レティ「どもです^^」

ジョン「オース！」

カミヤ「・・・出番がへった・・・」

真琴「まー兄貴はほっというて・・・なんかねー作者がキーボード壊したらしいよ？」

レティ「よそ様の小説がおもしろかったらしくて食べてたラーメンを・・・」

ジョン「うむ、ぶはーって 吹いちゃったらしいな・・・」

カミヤ「あいつは・・・まったくアホだな・・・」

M2「・・・出番もつとへらしてやるW・・・」

真、レ、ジ「「私達は言っていないですよ？」」

カミヤ「なにがおもしろかったん？」

M2「いや、その小説の落ちがめっちゃおもしろかったんだけど」

真琴「で？」

M2「読者からの感想で結局修正されちゃって・・・最初のやつの方が絶対に」

おもしろかったんだけどね・・・」

ジョン「ふむ・・・読んでみたかったな・・・」

レティ「まー作者がそうしたんなら良いんじゃない？」

M2「そーなんだけどね」

真琴「それでは第13話はじめまーす！^^」

13話 涙の旅路 あたしは男の娘じゃなくて女の娘ですってばW!

S i d e レ テ イ

おー！ハリセンの一撃で倒しちゃったよ！

マコト！ナイスファイト！^^

でも、せっかくこんな人が集まったんだから少し商品のアピール
しましょうかしら？

凹んでるマコトにはわるいんだけどチャンスよね^^

レティ「ジョン！昼食後に販売はするとして　せっかく人がこんな
に集まっているんだから

売り物の説明でもしない？^^」

ジョン「おおー、そりゃ良いねー・・・おーい！みんな商品説明や
るぞー！

車からサンプル出して来てくれー・・・モースとファスト
は簡易テーブルを頼む」

さて、凹んでるマコトにも手伝わせて気分転換させないとね・・・

レティ「マコトー！メアリもこっち来て手伝ってー！」

真琴「うあゝい・・・今いく・・・」

メアリ「さ、マコトさん元気出して！レティさんを手伝いますよ）
＊。▽。▽。||3ハアハア」

マコトとメアリは面白いことになってるわね・・・うん、楽しいからほっとしましょ^^

さて、商品のセッティングもできたしねっと・・・さあやるか！

レティ「みなさん！今日は珍しい品物を持参しています！私達の昼食後に販売を始めますが

とりあえず商品説明をご覧ください！本日限りの限定販売です！・・・よろしく！」

私達が今回 商品として並べたのは・・・

食品関係では『レーション』『ツナの缶詰』『焼き鳥の缶詰』『スパム缶』『コンビーフ』

『チールチョコ』『チュッ○チャプス』『塩』『砂糖』などで

雑貨関係は100円ショップ物の『カッターナイフ』『包丁』『はさみ』『ツメ切り』

『草刈カマ』『園芸シャベル』『マグカップ』など（陶器は複数出品でガラス製品は無し）

さて、まずはデモンストレーションね

うわー すごい人だかり！・・・マコトの決闘と・・・さらに親子

漫才が効いたのかしら？

これから販売のときは親子漫才やらせようかな^^

マックだったら真っ先に『レーション』の試食会をはじめちゃったわ・
・・彼も好きだわねw

地球組みはこちらの物価が良く分からないので商品の説明をメインとして・・・

3人娘にはこのデモの間にアンケートをとって貰おう・・・幾ら位なら買いたいかをね・・・

うん、その結果で午後からの販売価格を決めれば良いよね^^

「ねえちゃん このカマは幾らなんだー？」

「この陶器のコップは幾らかしら？」

「おーい！幾らだ？この袋の携帯食料は？」

「こちらは商品説明ですので あちらの3人の娘に幾らなら買いたいかを知らせて下さい

それを多少考慮して昼食後の午後から販売しますので^^」

(※ ちなみにこの世界の通貨は 最小単位が『劣貨』劣貨が10枚で『銅貨』銅貨が10枚

『小銀貨』小銀貨が10枚で『銀貨』銀貨が10枚で『小金貨』小金貨が10枚で『金貨』で

貨幣の呼称は 『エル』と呼ぶ(1エル≡1劣貨)

ただし、一般的には100エルや 100000エルなどとは呼ばず小銀貨1枚とか金貨1枚などと呼ばれている

物価としては りんご1個が銅貨1〜2枚ほど、食堂での昼食が銅貨5枚位で 冒険者などが
普通に泊まる宿屋は（場所やサービスにもよるが）小銀貨3〜5枚ほどである）

S i d eマコト

さーて、お昼だお昼だハハ・・・
ふー・・・でも忙しかったW・・・試合したり説明したりで のど
カラツカラ・・・
お腹もへったし・・・さー どのお店がおいしいのかな？

メアリ「マコトさーん！こっちですよー（ノハ▽ハ）ノ♪」

リリス「うむ、この食堂で食べるぞ」

ケイト「ここ、そこそこ美味しい」

真琴「うん、今行くよーハハ」

ノード村はねー 南北に約3k m東西には約1.5k mの楕円形をしていて

ど真ん中に街道がそのまま真っ直ぐ通ってるんだよ
街道沿いにはお店や露店がでています・・・おー、ありゃ魔物の肉
か？

リリスの案内でこの村で一番大きい宿屋を兼ねた食堂へみんなで行
きます

おー結構広いね・・・

あ！そうだ！この世界のお金持っていないよね？

真琴「ねえ、あたし達 まだこの世界のお金持っていないよ？どーす
んの？」

ケイト「私達3人でだしますよ・・・さっきマコトのおかげで儲か
ったし」

リリス「うむ、みなも遠慮はいらんぞ？」

メアリ「マコトさん・・・私も・・・食べて・・・（キヤー！言っ
ちゃった！／＼／＼）」

真琴「あ、ありがと・・・」

まーここは『どんなごち』になろー^^
昼食のが出てくるのかなー？・・・楽しみー・・・わくわく^^

リリス「うむ、・・・店主！昼飯をおまかせで16人分頼む！」

店主「あいよー！おまかせで16人分ねー！」

で、お昼の内容なんですが・・・

『焼いて塩をふっただけの何かの肉』 『茹でて塩ふっただけのジャガイモっぽいモノ』

『野菜とハーブを煮込んで塩ふっただけのスープ』 『かっちかちのパンっぽいモノ』

『水で薄めた渋いだけのワイン（しかも生ぬるい）』 エトセトラ・・・

わくわくが・・・あたしのわくわく・・・

真琴「・・・・・・・・orz」

ロツテ「あ・・・あら、マコトが・・・」

レティ「解るわ・・・マコトの気持ち・・・」

ジョン「おい！だれか車から調味料を何種類かとってこい！」

ケイト「・・・この食事 前はおいしいと思ってた・・・」

リリス「うむ、ヨコタ国の味になれすぎてしまったな・・・」

ファスト「俺、取って来るっス！」

モース「あ、バターもたのむわ」

フレック「ケチャップもね！」

リア「飲み物もほしいから私も一緒に行くわ^^」

フレック、ベツカー「俺も手伝う！」

ファスト「フレック結局来るんじゃないっすか・・・まったくリアさん絡むとこれっすかw」

ジョン「じゃ全員分の飲み物も持ってきてくれ」

「「「りょーかい^^」」」

・・・うん、取り合えず美味しいものが少ないことは分かったよ・・・orz

とりあえずほんの少しの調味料で お料理は見違えるほど（大袈裟か？）になりました^^まる！

どすっどすっどすっ！

お？誰か入ってきた？・・・ありや？さっきのブルーっておっさんだー・・・

あたしん所にズンズンと一直線ですなー・・・
おー、なんだなんだって感じで 野次馬も集まってきてるねー

側まで来てこっちを見つめてるけど・・・殺気は無いね・・・
ただどあたしを坊主小童扱いしたんだよねこのおっさんは・・・
ふんっ！あんたなんかツーンだ！

真琴「・・・・・・・・」

ブル「・・・・・・・・」

リリス「うむ、ブル まず言うべき事があるであろう」

ケイト「そうそう、自分の面子優先は貴方のいけない所」

ブル「解っております・・・マコト殿と申したか？先ほどの礼を
欠いた態度申し訳ない・・・

自らはまだ名乗っていなかったな・・・ブル・カンタツ
クと申す・・・

騎士団での二つ名は『筋肉の城壁』マッスル ウォールと呼ばれておる・・・
以後 良しなに」

真琴「喧嘩を吹っかけられた事については怒ってないよ・・・」

ブル「では何に対してまだ腹を立てているのだ？」

真琴「あたしを坊主小童扱いした事に怒ってるの！」

ブル「へ？」

真琴「あたしは女だ！」

ブル「・・・は?・・・」

周りの野次馬「「「・・・は?・・・」」」

リリス「うむ、マコトは女だぞ?」

ケイト「マコトは女で間違いない」

ブル「えええええー!!」

周りの野次馬「「「(!?! Д₁) Д₂ @ Д @) えええー!!」」」
なんですとー!!!!」

・・・なんで! いつもいつもいつも! ・・・

メアリ「だって・・・マコトさんはかっこいいから・・・(//ノω)
σーモジモジ」

リリス「うむ、私も最初は間違えたな」

ケイト「デフォだからあきらめたほーが良い」

ブル「・・・そ、それは、大変失礼した・・・この通りだ(ペコッ)」

あら、話せばこのおっさん 良い人そーじゃん・・・潔いしね

まあ、リリスの部下だったから直情一直線な所があるのかもね？

真琴「解ってくれればいいよ^^・・・それより槍を折っちゃてごめんなさい・・・」

ブル「いやいや・・・折られたのは私の未熟な所でもあるので・・・」

真琴「でも・・・」

ジョン「マコト、トラックに積んできたなぎなた薙刀でも渡したらいいんじゃない？」

真琴「おー！ナイスアイデア！^^・・・ブルさん一緒に来て^^」

あたしはブルさんの手をつかんでトラックまで引っ張っていきます
おーおっさん照れてるのか？きよどってるぞ^^

トラックから薙刀を出してっ・・・

「コレなんだけど使えそう？」

「おお！これは！・・・なんと！突くだけでなく斬る事もできるのか！」

「うん^^・・・ちょっと待っててね」

ブルさんに待ってもらって あたしは薙刀に強化等の魔法をかけます・・・
ほいっ！とな・・・ありやりや・・・ブルさん驚いちゃってるね
ー・・・

「はい！これあげるー^^それ、ナギナタって言うんだよ」

「・・・よ、よいのか？・・・魔法までかけて・・・かなり高価なモノではないのか？」

「いいよー^^お詫びと仲直りだよー・・・持ってたね」

「あいすまぬ・・・ナギナタか・・・うむ！これは本当に良い業物だ！^^」

「うん、気に入ってくれて良かったー^^」

「マコト殿 薙刀^{これ}で修行を積んだら・・・また私と試合をしてほしい・・・」

「うん^^でも あたしは負けないよ」

「うむ、俺が勝てないのは解っておる・・・友情の証じゃ！あはははははは！^^」

うん、ブルさんとも和解できたね^^

リリースさんの話だと『筋肉の城壁』マッスル ウォールことブルさんはなんでもリリースさんと

ケイトさんの剣技なんかには惚れ込んで、どこの馬の骨ともわからん子供から教わっているのに、絶えられなかったらしいんだけど、あたしと試合をしてみても納得したみたい

リリースもケイトも言っていたけど、ひと蹴りで槍をへし折ってハリセン1発でノックアウトとは思わなかったらしいよ・・・ブルさんは打たれ強さでは騎士団で1番だったんだってさ
まーあたしもハリセン1発でお終いとは思わなかったけどね・・・

で、昼食後の商品販売なんですけど・・・なんと！結論から言うと20分で完売でした・・・
今回は、お一人様各1個のみ販売で、商品は各100個づつ位用意したんだけど
レーションは小銀貨2枚、各種缶詰は小銀貨1枚とか、ちょっと高めの値段だったけどね・・・
1番早く完売したのは意外にもツメ切りでした、ハハちなみに値段は小銀貨1枚です

でもねー・・・その後で冒険者さん達からコレが欲しいって大騒ぎがあつてさー・・・
それって売り物じゃ無かったんだけどねー
モノは何かって？元の世界ではゴミだった『ペットボトル』なんで

すよ・・・

水筒に使うとかポーションを入れるのに都合が良いらしいんだって
フタがしっかりしてるのも冒険者^{みんな}にうけたみたい

んで、取り合えず『ミネラルウォーター』を50本出したらなんと
驚く無かれ

1本で小銀貨3枚もの値段が付いちゃって・・・これなんか2分で
完売ですよ^^

そーいえばケイトとリリスも基地でペットボトルを漁ってたっけな
あ・・・

後で聞いたら水筒は金属と皮製があって 金属製の水筒は錆びるし
ぶつけると穴があくらしくて

皮製のは匂いが臭くってさらにカビが生えるらしいよ

確かに 誰だって臭かったり錆が浮いてる水は飲みたくないモンね
！・・・

さーてと 王都に着くのが夜になっちゃうんでそろそろ出発です！
走り出した車の中でケイトが話します

ケイト「マコト 王都に着いたら厄介事があるかも」

真琴「へ？厄介事ってなにさ？」

ケイト「王都に居るはずのブルがノード村に居た」

リリス「うむ、マコトは先日倒した盗賊を覚えているか？」

真琴「メアリ達が襲われてた時の？」

ケイト「そう・・・あれはかなりの賞金首」

真琴「ありゃ？そーなの？あんなので？」

リリス「あんなのって・・・マコトは・・・」

ケイト「で、ブルが言っていた　王都でだれが倒したのか噂にな
ってるって・・・

その真意を確かめるために騎士団としてノーダ村に来たら
しい」

真琴「ありゃー・・・」

リリス「うむ、実際に私とケイトは王都でもかなり勇名なんだが・
・それでも2人で

あの盗賊の討伐は無理だ　それに特にあの頭は強い」
かしら

ケイト「そう、その無理な討伐を　お父上と2人で盗賊の2／3は
倒してた」

リリス「うむ、さらにマコトは　その強い盗賊の頭も一撃で倒した
しな・・・」

ケイト「それから　ジャングルで調べたドラゴンモドキもそう」

リリス「うむ、恐竜あれもマコトが一撃で倒したんだろ？」

真琴「うん・・・まーね」

ケイト「だから 多少の厄介事はあると思ったほうがいい」

真琴「うw・・・りょうーかーいw」

あーまたフラグが立っちゃったのか？・・・

とりあえずこの事を無線でみんなに連絡しときました

さて運転 運転っと・・・

♪まだかなーまだかなーが○けんのおばちゃんまだかなー♪

なーんて歌つてると（真琴はほんとに18歳か？）見えてきました！
立派な城壁に囲まれた町が！北側は切り立った山でその手前にお城
が見えます

そこから南に向かって扇状に町が広がってますねー

ケイトの話だと南側に正門があるみたいです・・・取り合えず正門
に行きますねー

おー、門番や通行人が @@！↑こんななってます^^

リリス「私が通行許可を取ってこよう」

リリスが車を降りて入国の手続きに門へ向かいますが・・・
おおー！門番さん敬礼してるよ・・・奥からも何人か出て来てペコ

ペコ・・・

やっぱりリリースってば偉い人だったのか？

戻ってきたリリースの案内で停車場付きの宿屋さんへ^^

王都内の道をゆっくり走りますが みーんな立ち止まってこっちに注目してます

お？無線が入ったね・・・

『真琴！あそこの屋台でお約束の串焼き肉が売ってたぞ！』

「・・・兄貴は少し黙ってなさい」

あー、親父さんのニヤけたドヤ顔が頭にうかんでくるw~~~~
ほんとーにテンプレ親父だね~~~~無線まで使ってるしw~~~~
でも串焼き肉っておいしいのかな？ちよつと期待しますねー

で、宿の横の停車場に車を止めて・・・ここでも注目されますねー
まあ、馬無しの車はめずらしいもんね・・・

でっかい宿だなー・・・1階は酒場兼食堂かな？ここも大きそうね
^^

うん、賑わってますな

「マコトー！メアリ達と先に行って部屋を取っというてー^^私達は荷物を降ろして
車にカギと結界をかけてから行くから^^」

「うん、レティ解ったー・・・手続き終わったら何か飲みながら1階で待ってるから^^」

あたしと3人娘で宿屋に入ります

ドア（西部劇みたいな）を開けて中へ・・・うん、注目浴びてるねー

おー、冒険者か？悪そうなのも居るねー・・・こっち見て品定めっ
てか？

じろじろ見たりにやけてたり・・・

「うむ、部屋は私とケイトで取ってこよう マコトはカウンターで
待っててくれ」

「いいの？ありがとー^^」

私はメアリとカウンターへ行きます

カウンターにはバーテンの女の人がいきました・・・が・・・
しっかしでけー乳だなく谷間がすごい！・・・てか、破裂してしま
え！ふんっ・・・

「おねーさん、なんか軽い飲み物ってある？できればアルコールの
入ってないやつ^^」

「あら、かわいい子ね^^お酒じゃないのならジュースかミルクね
^^」

「んじゃミルクで！・・・メアリは？」

「わたしもミルクでおねがいします^^」

その時・・・

「がははは！おい！聞いたか？ミルクだってよ！がははははは！」

「ここはガキの来るとこじゃねーぞー！はははは！」

はいはいw・・・何年前の西部劇だ？テンプレにもほどっちゅーもんがあるぞ？

リリースとケイトはこっち見てニヤツつとしてるしw・・・

「マ、マコトさん・・・（びくびく）」

「大丈夫だよ^^あんなバカは気にしないで無視すれば^^」

「なんだと！このガキが！」

「うっさい！だまっれおっさん！」

ガタガタッと4〜5人の冒険者が席を立てあたしを睨みつけます

「こ、小僧！つけ上がりやがって！」

「礼儀を教えてやるぜ！坊主！」

「いいよ^^取り合えずお店にめーわくだから 表に出るよ」

バーテンのおねーさんも心配そうな顔をしています・・・へーきだ

よん^^

てか、むだにその乳がゆれてますが・・・もげろ！

それにしてもまた人が集まって来ましたねー・・・野次馬さんですかい・・・

みんな他に娯楽はないのか？

「売られたケンカだから買ってやるけど・・・コレだけは先に言っとく！」

「ああ？ なんだ坊主」

「あたしは女だ！」

「・・・@!・・・」

まー解ってましたけどね・・・グスン・・・

周りで飲んだ人達も なんで驚いてるの！ 野次馬さん達もかよ！
って、バーテンのおねいさんまで @@; ↑こんな目しちゃってw
・

ケイトは肩震わせて笑いをこらえてる？ リリスは腹抱えてわらつと
るしw・・・

メアリは・・・キャッツ (≡▽≡*) ッ (≡▽≡*) ッキャッツ
・ うん、ほつところ・・・

デフォなのか・・・デフォなんですわ・・・

胸だって中学からみたら育ってると・・・育ってる・・・育って・・・
たぶん育っ・・・
育ってたら良かったのにー！

ρ（—ε—。）イイモンイイモン・・・（。———）シュン・・・

あれか？あたしは何か悪いことでもしたのか？・・・おせーて！神様w・・・

あたしは・・・これでも・・・

女の子なんだー！！

。。。 （ノム） あゝん …… orz

13話 涙の旅路 あたしは男の娘じゃなくて女の娘ですってばW！（後書き）

真琴「おつですw・・・」

レティ「マ、マコトはかわいいわよ？」

ジョン「おう！かわいいぞ！」

真琴「でも、今回は2回も男の子扱いあったしw・・・」

ジョン「ありゃー作者がわざとやってる事だから心配すんな^^」

レティ「そうよ^^」

真琴「ほんと？」

レ、ジ「「うんうん^^」」

ファスト「師匠・・・頼まれた詰襟の学生服もってきたっス^^」

カミヤ「おー！これぞテンプレ！」

ファスト「学生服^{それ}だれが着るっスか？」

カミヤ「ふふふ^^とーぜん王様に謁見する時に真琴に着させるのさ^^」

真琴「・・・（ブチッ）・・・」

ファスト「あ、俺、急用が出来たっス・・・じゃまた！」

ジョン「マコト・・・今日は何を持ってく？」

真琴「これ！」

ジョン「AV-8B ハリアー IIね・・・はいはい・・・」

真琴「燃え尽きてしまえー！食らえMk77ナパーム弾！」

まいどー^^まだまだ初心者のM2-1015です
秋も深まってまいりましたね・・・学生さんたちはテストの時期です
か？

風邪などひかないように温かくして寝てくださいね^^

さて次回ですが 多分？冒険者ギルドに行くことになりますが
がんばれ真琴！って感じですか？

それから 本当にできれば結構ですのでお気に入りの登録や評価、
感想なども

なにとぞ宜しくお願い致します m (_ _) m ペコリ

それでは皆様にさらなる笑顔があります様に^^
では^^ノ

14話 涙の宿屋 あたし以外のorz たまには良いよね^^ノ(前書き)

真琴「どーもでーす! ^^」

レティ「よろしく^^」

ジョン「オース! ^^」

カミヤ「ねえ、そろそろ俺のあばれるシーンがあってもいけない?」

全員「「それは無しの方向で!」」

ファスト「つて言うか 師匠がめっちゃ暴れてる所って見たこと無いっすけど?」

ロッテ「私も見たこと無いわね・・・」

レティ「・・・あれはトラウマものよ?」

ジョン「うむ・・・できれば二度と見たくない (((; 。

。))) ガクガクブルブル」

真琴「うん、あたしも死にたくは無いしw・・・」

ファスト「どんだけっすか!」

ポーラ「なに! 馬の要らない馬車じゃと!・・・よし、わらわは見に行くぞ!」

カリフ「お待ち下さい姫様!」

ギブリ「まーた姫のわがままがはぢまっちったいw・・・」

真琴「ん?・・・あれ? 今 知らない人がでてなかった?」

ジョン「うん? 気のせいだろ?」

レティ「そろそろはじめましょ^^」

真琴「第14話始めまーす^^←いつもこーゆータイトルだと気分良いよね^^」

14話 涙の宿屋 あたし以外のorz たまには良いよね^^ノ

Side ケイト

「ぷぷぷ・・・リリース・・・笑ったらマコトに悪い・・・ぷぷ」

「う、うむ、あははは・・・そう言うケイトだって・・・あははは」

「あー、マコトさんが男の子だったらどんなに良いか・・・（＊、エ、＊）ウツトリ」

まあ、メアリは面白いのでこのままで良いとして・・・
さて、そろそろマコトを引っ掻き回す・・・もとい、ちゃちゃを入れますかね・・・
どーなるか今後が楽しみですね

「そのの いかにも悪役 私達が誰だかわかりますか」

「あ！なんだっ・・・」

あら、私とリリースを見て固まっちゃいましたよ
周りからも『ボムとブリザードだ！』って聞こえますね・・・

「うむ、そこで凹んでいる女性なんだが、私の剣の師匠だぞ？」

「そう、私も魔術では敵わない」

「「・・・（シーン）・・・」」

「うむ、その抜き身の剣を鞘に収めるがよいぞ？」

「あなた達なら一瞬でみじめに倒される」

「この・・・小僧が？・・・」

悪役のおじさん 顔が真っ青になって冷や汗でてますよ？

でも小僧って言っちゃいましたね・・・私はしりませんよ？どうなってもね・・・

あら、マコトがゆっくりと起きましたね・・・うわーものすごい殺気ですよ

「今、なんて言った？・・・小僧ってまた言った？」

「うw・・・お前みたいなガキが『ボム』の師匠のはずがねー！・・・食らえ！」

あーあ・・・やっちゃたですw・・・

大きく振りかぶったロングソードがマコトの頭を直撃・・・するわけないですね・・・

マコトはすばやく横にずれて回し蹴りを1発・・・悪役は吹っ飛んでますよ

剣も折られちゃって・・・だから忠告したのに・・・は！手下が！

バン！バン！バン！バン！

ほう、蹴りから着地する態勢で拳銃を抜いてましたか・・・速くて見えなかったですね・・・

悪役の後ろに控えていた手下の足元にむかって牽制ですか
あらあら・・・びびっちゃって・・・漏らしてなければ良いですけど

「だから忠告したのに」

「うむ、私ら2人でかかっても多分マコトは倒せないぞ？」

「素敵です！マコトさん！・・・♪（ノハOハ）ノキヤーキヤー♪」

やはり脳筋はダメですね・・・相手の実力くらい察知しなさい 仮にもCクラスならね・・・

マコトに対してのメアリは かなり面白くなって来てますね
どうせリリスは気づいてないでしょうから リリスにも話しても
っと煽る様にしますかね？

うん、どうせなら魔法も使って楽しみたいですわね・・・Ψ（ΦWΦ）
Ψ ニヤッ！

Sideマコト

ふー、何とかなったね・・・まー汗1つ掻いてないんだけどね^^
後ろで控えてたやつら ナイフを投げようとしてたんで デルちゃん撃っちゃったんだけど
足元に40〜50cmの穴ぼこ作っちゃたよ・・・
9パラでこれじゃ45ACPだったらどんくらい大きくなっちゃうのかな？

穴は こいつらに埋めさせればいいーよね？ 道の真ん中に穴ぼこあったら危ないモンね^^
さて、こいつらの処遇なんだけど・・・

「ねー、ケイトー こいつらってここの法律じゃどーなるの？」

「王都騎士団の巡回警邏に引き渡せば向こうで処罰してくれる」

「うむ、我らが証人となろう 冒険者なら1年は資格剥奪だな」

「あら、資格剥奪なんだ・・・」

「1年後に再度申請しても最低のGランクからのスタート Gだと稼ぎはすずめの涙」

「ふうん・・・ちょっとかわいそうかな？」

「うむ、しかし街中で か弱い婦女子にいきなりの暴力行為だぞ？
しかも多勢に無勢で」

「マコトが か弱い婦女子なのは無理があると思う」

「ケイト、一言余計だよ？・・・でも、うーん・・・そうだ！ねえ、
そこの手下？さん・・・
あそこで延びてるやつのがルドランクは？」

「はあ・・・Cランクですw・・・」

「Cランクになるのって普通どんくらい掛かるの？」

「大体10～15年は掛かりますw・・・」

「じゃあさ、警邏に引き渡されたくないよね？」

「そりゃーもちろんですw・・・」

「んじゃ今後はあたし達に手を出さないでくれるかな？で、あたし
達にはアンタタッチャブルって
うわさも広めてくれるなら 無かったことにするけど・・・どう？」

「それでお願いしやす！」

「オツケー・・・リリース 手間取らせて悪いんだけどこいつら
の名前とか控えてくれる？」

ああそうだ、道路の穴ぼこも埋めさせちゃってね^^」

「うむ、承知！・・・おい、おまえらギルドカードを出せ」

おーギルドカードってやつば有るんだー・・・って地球組み みんなそろって見物してたんかい！

何人かはMPー5（サブマシンガン）を構えてバックアップしてくれてたんだねー

レティは心配そうな顔しちゃって・・・大丈夫だよん^^

ケイトは悪役さんの側にしゃがみ込んでつんつんと指で突付いてるし・・・趣味か？

親父さんはキラキラ目だねw・・・たぶんギルドカードに食いついたんだよねw・・・

レティ「さっきは いきなり銃声が聞こえたからびっくりしたわよ」

マック「で、ベルと2人で すっ飛んで来てみたらこれだろ？」

真琴「ごめんねー・・・なんか絡まれちゃって（テヘッ ^^）」

ベル「まあ、宿屋から出てくるあたりから見てたんで 俺とマックでバックアップは

してたんだが・・・俺達に出番はなかったな」

ジョン「まあ、なんにしても うまく片付いて良かったな」

レティ「あら？カミヤ なにを考え込んでるの？」

カミヤ「俺ってば 最近あばれてないよね?・・・ストレス溜まってきてるんだが・・・」

全員「「やばい!?!」」

真琴「チェックインしたら町で遊んできたら?ただし!ケンカと女遊びは無しでね!」

カミヤ「うーん・・・女無しかw・・・そりゃつまらんw」

真琴「このエロおやじー!ふんっだ!（#、ㄣ）||3」

レティ「カ、カミヤ（モジモジ）・・・じ、じゃあ 私と の、飲みに行かない?／／／」

ジョン「おい、レティ そいつは後でな^^とりあえず宿が先だぞ?・・・みんな入るぞー」

およ?レティが親父さんを飲みに誘うのって珍しいよね?・・・ん? まあー 夕飯の時 だれかに聞いてみようーと

3階の部屋へ荷物を置いて1階へ戻ります・・・あ、部屋は3人娘と一緒にした^^

夕食まで1時間以上あるので取り合えず会議を兼ねた飲み会?をする事になりました

エール酒（ビールっぽい飲み物）と簡単なおつまみ（チーズとナッツ）です・・・

おつまみがちつと物足りない?・・・うん、そうだよあれ取ってこよーっと!

「ねえ、あたし えびせん取ってくるけど他に何かおつまみ持ってくる?」

「ポップコーン!」

「ポテトチップス!」

「ポ○キー!」

「さきイカ!」

「甘納豆!」

「カリカリ梅!」

「すこんぶ!」

「オツケー^^んじゃ持ってくる」

「あ、ケチャップも頼むね」

「あいよー^^でもフレックは装備としてケチャップ持ってたほうがいいんでない?」

全員 「」「あははははは! 違う!」「」

あたしは宿を出て車両置き場へてくてくと歩きます

♪やめられないとまらない〜かつ〇えびせん♪

自然と歌が口から出てますなあ〜・・・ん？

車に近づくと・・・誰かいる？2〜3人の気配がするんですけど・・・

「そこでなにやってるの？車^{それ}あたしらのなんだけど？」

あたしは軽く殺気をはなって様子をうかがいます

良く見ると女の子が1人に護衛っぽいのが2人いますねー・・・お？やるのか？

護衛っぽいのがあたしの殺気に釣られて剣を抜きます

あたしはみっちゃんの柄に手をかけて・・・

「カリフ！ギブリ！やめるのじゃ！」

「し、しかし姫様・・・」

「よい、カリフ 人様の馬車？に無礼をしていたのは事実じゃ・・・
こちらが悪い」

へ？・・・姫？・・・今、姫様って言ったよね？

「あいすまぬ、世にも珍しい馬の要らない馬車が来たと言うので城を抜け出してきたのじゃ」

「へ？んじゃあ あなたはこの国のお姫様って事でいいの？」

「きさま！その口調は姫様に対して無礼であろう！」

「ギブリも！控えろと言っておろうに」

えーと？あたしってば またフラグった？・・・えー取り合えず・・・どーしよーかな？

「お忍びで城から出てきたので 大きい声では申せぬが・・・私は このシャマルル国の第一王姫で『ポーラ・トライデント・シヤマルル』じゃ・・・」

ほんとにお姫様なんだー・・・あたしも設定上の自己紹介しとこーかね・・・

お転婆そうだけど楽しそうな感じだね・・・お友達になれるかな？

「こちらこそ失礼を致しました・・・私はヨコタ国第一王姫の『マコト・カミヤ』です^^

私達も訳あっておしのびでこの国に来ました・・・」

「そ、そなたも一国の王族なのか？・・・しかし、ヨコタ国とは・・・

・初めて聞く国名じゃな」

あらあら、お付きの2人『他国の王姫に剣向けちゃったよー！どうすんべ！』

ってな顔しちゃって・・・あはは^^

うん、彼女達をさそって話をしよう^^

「ポーラ殿下^^よろしかったら私達と飲み物でも如何ですか？お付きのお2人も一緒に^^」

「マコト殿下・・・よいのか？わらわはこの様な店には入った事がないので興味はあるのじゃが」

「かまいませんよ^^私の父上も居ますし 他は楽しい友人ばかりですので^^」

「は？そなたの父上・・・って、この様な店に国王陛下もいらっしゃるのか！？」

「はい^^ヨコタ国はある意味で平等ですので 平民も貴族も王族も一緒に楽しめます」

「うゝむ・・・興味深い話じゃ・・・カリフ、ギブリ、わらわは歓談していくぞ 付いて参れ」

「「ははっ」」

で、車からおつまみ出して・・・ポーラ達用においしいワインもね
^^

あ、これもポーラと友達になった記念にあげちゃおうと・・・
あら？ポーラさん達？・・・不思議そうにこっちを見てますけど？
・・・なんだろう？

「王族であるマコト殿下自らその様な雑用をされるのか・・・ふむ・
・・・」

「あはは^^父上からの教えでね『みんな平等！自分でやれる事は
何でもやれ！』って^^」

「ほう、そうなのか・・・良い考え方じゃのう・・・」

「ねえ、1つお願いがあるんだけど良いかな」

「願いととはなんじゃ？」

「うん、お互いに王姫同士なんだから 公式の場以外では敬語はや
めない？」

「！あいわかっ・・・いや解ったわ^^ポーラって呼んでくださる
？」

「うん^^あたしもマコトって呼び捨てで良いよ^^」

なーんて話しながら宿の酒場へもどっていきます

マック「遅かったじゃないか マコト」

ロツテ「心配したわよ」

真琴「遅くなってごめんねー・・・お友達が出来たんで連れて来ちゃった^^」

あたしの連れをケイトとリリスがちらっと見て・・・

リリス、ケイト「（＊´。ω。）∴；＊・ゝ∴；ぶーっ！」

真琴「リリス！ケイト！ってば汚い！飲み物吹くな！」

リリス「いやいやいやいやいやいや！」

ケイト「な、なんでマコトとポーラ殿下が・・・」

真琴「ん？停車場で知り合って友達になったんだけど？」

メアリ「へ？・・・ポ、ポポポポ、ポーラ殿下！？（。D。ポカーン」

リリス、ケイト「・・・・・・・・orz」

ポーラ「リリス、ケイト うふふ、お久しぶりね^^」

やったね^^今回のラストはあたしじゃなくてリリースとケイトが
orzだね！

メアリも固まってるしね^^

たまにはこんなのも良いよね！^^ (＊^ー^。Vイエイ♪

14話 涙の宿屋 あたし以外のorz たまには良いよね^^ノ（後書き）

真琴「よっしゃー！」

レティ「お疲れ様でーす^^」

ジョン「マコト うれしそーだな^^」

真琴「あたりまえだのくらかー！」

レティ「マコトってほんとーの年齢はいくつなの？」

カミヤ「喜んでるとこすまんが 今回は特別らしいぞ？」

真琴「へ？」

カミヤ「ある事情（活動報告参照）で あらすじから書き直したんだってさ」

レティ「あらあら・・・」

カミヤ「今回含めて1〜2話で元の路線に戻すみたいだぞ？」

ジョン「って事は・・・またマコト弄りで終わるスタイルなのか？」

カミヤ「そーなるね」

真琴「・・・・・・・・orz」

ポーラ「今ですわ！チャンスですわ！主役はいただきですわ！」

カリフ「ひ、姫様w・・・」

ギブリ「相変わらずせこい姫様で・・・」

どーもです！作者のM2ー1015です^^

いやー、物語の途中変更ってきついっすね

今回はTSってギルドへって話だったんですが・・・

ある事情（活動報告参照）であらすじから変更しましたw

で、急遽ポーラ姫に出ていただきました（実際は3〜4話後くらいだったんですが）

次回は「王都で1泊」「ギルドは危険」「王姫と2人」の3本です

(うそぴょん)

それでは皆様にもっと笑顔が増えますように^^
では^^ノ

15話 涙の姫様 なんか主役を取られそうなんですけどW（前書き）

真琴「皆さーん 元気ですかー^^」

レティ「どーもです^^」

ジョン「オース^^」

ポーラ「ごきげんようですわ^^」

カミヤ「真琴・・・主役を食われたな・・・」

真琴「ポーラとは友達だから そんなことないもん！」

レティ「・・・・・・・・」

ジョン「・・・・・・・・」

ポーラ「・・・・・・・・」

真琴「あるえ？・・・ポーラさん？」

ポーラ「は！そ、そそそんなことはありませんですわよ？」

ジョン「取り合えずはじめるか？」

真琴「では！第15話はじまります^^」

15話 涙の姫様 なんか主役を取られそうなんですけどw

S i d e ポーラ

あーあ・・・何か面白いことでもないかしら・・・
いつもいつも城の中・・・つまらないですわ・・・
またカリフにいたずらでもしようかしらね？」

もうそろそろ夕方になるわね・・・あら？

城内が少しざわついていきますわね？・・・何かしら？

お付きの侍女に声を掛けてみる

「メラ 城内が騒々しいですわね・・・何かあったのかしら？」

「ポーラ様 なにやら城下に『馬が無くても走る馬車』がやって来た
と 噂になっております」

「！馬車単体で走るですって！？」

そんなことはありえない！軽いものなら魔術で少しの時間は動かす
ことは出来るとしても

馬車なんて絶対無理ですわ・・・興味を惹かれますわね　その噂はどこからなのでしょう？

「正門の騎士からの申し伝えみたいです・・・なんでもリリス殿とケイト殿も一緒だったとか」

「なるほど・・・あの2人も一緒ですか・・・（わくわくの予感ですわ!）」

正門からの報告ですか・・・リリスとケイトが一緒？あの2人は向上心と正義感の塊の様な方達でしょうかおちゃめですわよね・・・これは絶対に見に行くべきですわ！

「・・・姫様？なにをお考えですか？」

「メラ！カリフとギブリを大至急呼んで頂戴　急いでね！」

「は、はい　承知いたしました」

ふふふ^^馬が要らない馬車　しかもリリスとケイトが一緒・・・
楽しい予感がしますわ！

ポーラ「ふふふふふふふふふふ！」

カリフ「ひ、姫様？」

ギブリ「ついに壊れたか？」

ポーラ「！違いますわ！城下に行きますわよ！2人とも護衛としてお供しなさい」

カリフ「じよ、城下ですか？何故に……」

ポーラ「なんでも『馬の要らない馬車』が城下に来ているそうよ？それを見に行きますわ！」

カリフ「馬車見学ですか……」

ポーラ「聞く所によるとリリースとケイトもその馬車と一緒にですわ」

ギブリ「げ！『ボム』と『ブリザード』が居るんですかいw」

ポーラ「この事は みなには内緒ですわ……さあ、急いで行きま
すわよ！」

カリフ「姫様！お待ちを！城下の何処どこにその馬車はあるのですか？」

ポーラ「……さあ？……どこでしょう？……」

ギブリ「はあ……王都って広いんだぞ？脳みそあんのか？この
姫様はw……」

ポーラ「うw……メラ！あなたはどこに居るのか知っていますの

「？」

メラ「はあ、南大通りの『幌馬車亭』と言う宿屋だそうですが……」

ポーラ「さあ！行きますわよ！」

カリフ「姫様！おしのびですのでお着替えを！」

ギブリ「やれやれ……」

ギブリ「ったら子供のころからですわ……口の悪さは直らないものなのですかね？」

カリフの心配性も昔からでしたわね……

私達は おしのびで城から出て『幌馬車亭』へ向かったのですわ

城下など歩き回った事が無いので色々と物珍しいですわね……

あれはなんでしょう？食べ物？なのですかしらね？……

これは？飲み物？ですかしら？……

あっちからはとても良い匂いがしますわ！

向こうの露店は人がたくさん集まっていますわ！

あ、あら？動けないですわ……

ん？……グエッ！く、首がしまるw……首根っこをギブリに押さえられていますわ！

ギブリ「ったく、ちょこまかと……」

カリフ「『うろろう』や『きよろきよろ』をしないで頂くと助かるのですが……」

ポーラ「ふ、ふんっ！……そのくらい解っていますわ！」

ギブリ「どーだか……」

ポーラ「ギブリ！あなたは いつもいつも！少しは黙ったらどうですの！？」

ギブリ「はいはい……」

ポーラ「返事は1回でよいですよ！」

ギブリ「はくくい^^」

ポーラ「……もう、よいですわ……」

カリフ「見えてきました！あそこが『幌馬車亭』です」

私達は宿の前を通り過ぎて横の停車場へ向かったのですわ
そこには見たことも無い様な 鉄で出来た大きな馬車？が何台もありましたの

ポーラ「……これほどとは……」

カリフ「すごいですな……」

ギブリ「こんなの持ってるやつって・・・どんな金持ちだ？」

ポーラ「！これは！窓に透明な板がはまってますわ！」

カリフ「この車輪はなんだ？木でもなければ鉄でもないぞ？」

ギブリ「小さいのは乗車用で 中くらいのが荷物用ってのは解るんだが・・・しかし

このでっかいのはなんだ？天蓋のやぐらから延びている鉄の棒は武器なのか？」

みんなで馬車？を見てみると変な歌が聞こえてきましたの・・・

♪やめられないとまらない〜かつ〇えびせん♪

変な歌に気を取られていましたらいきなり声をかけられましたわ・・・

「そこでなにやってるの？車^{それ}あたしらのなんだけど？」

どうやらこの馬車？の持ち主の様ですわ

こちらが何者なのか様子を伺っていますわね

！・・・こ、これって殺気ですの？すごいですわ・・・ちびりそうですわ・・・

この殺気でカリフとギブリが条件反射的に抜剣してしまいましたわ
二人とも相手に剣をむけてしまっ……

この馬車はあの方の物なんですよ？

かつてに見学しているのは私達なのですわよ？

それを解っているのですか？

「カリフ！ギブリ！やめるのじゃ！」

「し、しかし姫様……」

「よい、カリフ 人様の馬車？に無礼をしていたのは事実じゃ……
こちらが悪い」

ギブリとカリフが冷や汗を掻いている？……この変な歌を唄って
いた者は強いのですか？

ですが まずは誤解を解いて謝らねば……

「あいすまぬ、世にも珍しい馬の要らない馬車が来たと言うので
城を抜け出してきたのじゃ」

「へ？んじゃあ あなたはこの国のお姫様って事でいいの？」

「きさま！その口調は姫様に対して無礼であろう！」

「ギブリも！控えろと言っておろうに」

ギブリ！偉そうに！あなたも私に対しての物言いは 少し直してほしいものがあるのですわ！
でも 物取りの類ではないことを説明しないと・・・身分を明かさないとですわ・・・

「お忍びで城から出てきたので 大きい声では申せぬが・・・
わらわは このシャマル国の第一王姫で『ポーラ・トライデント・シャマル』じゃ・・・」

「こちらこそ失礼を致しました・・・私はヨコタ国第一王姫の『マコト・カミヤ』です^^
私達も訳あっておしのびでこの国に来ました・・・」

なんと？他国の姫君なのですか！？
なぜこのような平民が泊まる宿などに？・・・しかも1人でうろついて・・・

「そ、そなたも一国の王族なのか？・・・しかし、ヨコタ国とは・・・
初めて聞く国名じゃな」

カリフとギブリも焦ってますわね『他国の王姫に剣向けちゃったよー！どうすんべ！』
って顔をしていますわ・・・ふんっ！ギブリには良い薬ですわ！

「ポーラ殿下^^よろしかったら私達と飲み物でも如何ですか？お付きのお2人も一緒に^^」

へ？・・・私をさそってくださってる？・・・うれしいですけどこんな場末の酒場など入ったことはありませんの・・・興味はあるので入ってみたいんですけど・・・

「マコト殿下・・・よいのか？わらわはこの様な店には入った事がないので興味はあるのじゃが」

「かまいませんよ^^私の父上も居ますし 他は楽しい友人ばかりですので^^」

はあ？父上って国王陛下ですわよね？この様な所にいらっしゃるとは・・・

「は？そなたの父上・・・って、この様な店に国王陛下もいらっしゃるのか！？」

「はい^^ヨコタ国はある意味で平等ですので 平民も貴族も王族も一緒に楽しめます」

それは 民と一緒に居てこそ民を知ると言う事なのですかね？・・・私も学びたいですわ

「うゝむ・・・興味深い話じゃ・・・カリフ、ギブリ、わらわは歓談していくぞ 付いて参れ」

「「ははっ」」

それにしてもマコト殿下は馬車こしで何をしていますの？・・・
へ？・・・マコト殿下自ら荷を取りに来ているのですか！・・・
王妃が1人で？・・・お付きの護衛も無しですの？・・・信じられ
ませんわ！

「王族であるマコト殿下自らその様な雑用ざようをされるのですか？・・・
ふむ・・・」

「あはは^^父上からの教えでね『みんな平等！自分でやれる事は
何でもやれ！』って^^」

「ほう、そうなのか・・・良い考え方じゃのう・・・」

私も1人で色々とやってみたいものですわね・・・
マコト殿下とも もっと気楽に会話がしてみたいですわね・・・

「ねえ、1つお願いがあるんだけど良いかな」

「願いととはなんじゃ？」

「うん、お互いに王姫同士なんだから 公式の場以外では敬語はやめない?」

「!あいわかも・・・いや解ったわ^^ポーラって呼んでくださる?」

「うん^^あたしもマコトって呼び捨てで良いよ^^」

私にも対等な友人ができましたわ!これはとてもうれしいですの^^
マコトと宿へ入っていきましたら マコトの仲間の方達がいらっしやいまして・・・

マック「遅かったじゃないか マコト」

ロツテ「心配したわよ」

真琴「遅くなってごめんねー・・・お友達が出来たんで連れて来ちゃった^^」

ほう!これが平民の酒場ですか・・・なんとも賑やかですわね・・・
なか酒場を見渡しましたら・・・私と目が合いましたね リリスにケイト^^

リリス、ケイト「「(＊´。ω。):;＊´..;ぶーっ!」

真琴「リリス！ケイト！ってば汚い！飲み物吹くな！」

リリス「いやいやいやいやいやいや！」

ケイト「な、なんでマコトとポーラ殿下が・・・」

真琴「ん？停車場で知り合って友達になったんだけど？」

メアリ「ポ、ポポポポ、ポーラ殿下！？（。D。ポカーン」

リリス、ケイト「・・・・・・・・orz」

ポーラ「リリス、ケイト うふふ、お久しぶりね^^」

ふふふ^^喜んでくれてうれしいですわ ね？ケイトにリリス^^

S i d e 真琴

真琴「とりあえずあっちの席に座ろうよ^^」

あたしはポーラ達とメアリ達を呼んで奥のテーブルを指差します
あーそうだ おつまみもみんなに配らないと・・・頼まれてたんだ
よね

カウンターのよねいさんからお皿でも借りてくるかね？

真琴 「ちょっと待っててね みんなにおつまみ配ってきちゃうから・
・

あ、リリース このワイン開けて先にみんなで飲んでて^^」

ワインボトルを2本とグラスと一緒にテーブルにおいてカウンター
へ行きます

てか、よねいさんw・・・やっぱその乳は反則ですよw・・・

真琴 「よねーさん、おつまみ持ってきたんだけど お皿貸してくれ
る？」

よねーさん 「いいわよ^^・・・あら、珍しい食べ物ね・・・どこ
の食べ物なの？」

真琴 「うん、あたしの国の食べ物なんだよ よかったらよねーさん
にも少しあげるね^^」

あたしは 何枚かのお皿におつまみを分けてみんなの所に持って行
きます

だがしかし えびせんはあたしんだぞ！

レティ「あ、おつまみありがとねー^^」

ジョン「んで、さっきの連れは誰なんだい？」

真琴「んーとね、この国のお姫様とお付きの人だって^^」

みんな「」「ぶーっ！」「」

カミヤ「ふむ、マジで姫様なのか？挨拶したほうが良いか？」

真琴「うん、後で呼ぶね^^ジョンとレティもだからね」

さて、おつまみ持ってポーラ達の所へ戻りますか・・・

あるえー？なんか緊迫感があるんですけど？

メアリが緊張でカチカチなのは解るとして　ポーラのお付きの人達
って何で緊張してるんだ？

リリスとケイトも苦笑いっばい？

ワインも飲んでない様だし・・・

真琴「おまたせー・・・はい、これおつまみね^^」

ポーラ「まってましたわ^^マコト　紹介しますわ　この2人はカリフとギブリですわ」

カリフさんとギブリさんが会釈をそれぞれしてくれます

ポーラ「では乾杯しますわ^^」

全員「「かんぱーい!」」

さあどうだ!こいつは美味いんだぞ　なんつったて秘蔵のワインだぞ?

全員「「!美味しい!」」

真琴「でしょ^^」

リリス「うむ、このあいだ飲んだのより遥かに美味いな!」

ケイト「色も透明じゃなく少し琥珀色?」

ポーラ「私もこのような甘みと香りのあるワインは飲んだことがありませんわ!」

カリフ「はい・・・これは感動しました」

ギブリ「確かに旨い・・・」

メアリ「・・・おいしーですw・・・」

真琴「このあいだケイト達が飲んだのはシュタインベルガーのカビネット種で 今回のは

アウシュレーゼ種のビンテージなんだよ^^」

ポーラ「マコトの国のワインなのですね・・・」

真琴「そう^^これはポーラの家に献上品で持ってきたやつなんだ^^」

全員「「ブツ（；。；ヰ；。；）ゝゝ；；。；；ヰ；。；
・・ゝゝ；；、（；。；ヰ；。；）ブツ」」

真琴、ポーラ「きたない（ですわ）！」

メアリ「け、け、け、けけけんん・・・」

ケイト「メアリ、落ち着く！」

カリフ「け、献上品・・・」

ギブリ「おい、飲んじまったぞ？」

リリス「うむ、王家への献上品を・・・」

真琴「ん？なんか拙かったのかな？」

ポーラ「普通なら 不敬罪で極刑ですわね」

真琴「あら？・・・まー良いじゃん 気にしない気にしない^^」

ポーラ「ですわね^^」

真琴「まー、場も和んだことだしね^^」

全員「「まったく和んでない!」「」」

あ!そうだった ポーラ達にプレゼント持ってきてたんだっけ・・・
ポーラにはダイヤとルビーが入っている大きめのデザインネックレス
スで

お付きの2人にはソーラー腕時計^^

真琴「ねえ、ポーラ これ友達になった記念にプレゼントするね^^
お二人にはこの時計ね」

ポーラ「こ、これは!」

カリフ「!!!う、腕に付けられる時計ですか!」

ギブリ「・・・よいのですか?しかしこれは頂くには高価過ぎる様
な・・・」

真琴「いいよ^^・・・あ、お城への献上品は別にちゃんとある
から気にしないでね^^」

ポーラ「ありがとう・・・マコト!とってもうれしい!」

ポーラってば ほんとに嬉しそうだね^^

うん、これでほんとに和やかになった・・・ん?・・・あれ?

メアリ?なんでポーラにガン付けてるのかな?・・・まあ、メアリ
は良いとしても

リリスとケイトってばまだ何かあるのかな?・・・そわそわしてる
と言うか・・・

微妙にいつもと違うよね？

カリフさんとギブリさんもなんか居心地が悪そうだよね？

ん？なんでだ？・・・

って事で 次回につづきます・・・（＊＾ー＾）Vイエイ♪

15話 涙の姫様 なんか主役を取られそうなんですけどW（後書き）

真琴「お疲れ様です^^」

レティ「お疲れー^^」

ジョン「今回は中途半端な終わり方だったな・・・」

カミヤ「まあ、作者が作者だし？しかたなかろう」

真琴「なんかねーほんとに親子で話を作ってるらしーよ？」

レティ「それで文体がやや変わるときがあるのね？」

真琴「うん^^」

どーもです^^作者のM2ー1015です

なかなか話が進んでいませんが物語りの必要なもので・・・

大幅な書き直しで四苦八苦してますW

ぐだぐだ感丸出しですがご勘弁くださいませ^^

それでは皆様にもっと笑顔が増えますように^^

では^^ノ

16話 涙の部下 上司や仲間に使われていないんですw(前書き)

真琴「どーもでーす^^」

ポーラ「頭が高いですわ!」

カリフ「・・・姫様・・・」

ギブリ「まったく・・・」

真琴「ポーラって・・・こんなキャラなの?」

リリス「うむ」

ケイト「そう」

ポーラ「・・・」

メアリ「あたしの出番が少ないです! (o≡□≡)o」

真琴「カリカリ(えびせん食ってる)」

カミヤ「なあ、俺って最近イタズラしてないよな?」

真琴「カリカリポリポリ(えびせん食ってる)」

レティ「あー、真琴はえびせん食べだしたら周りは見なくなるわよ?」

真琴「ポリポリカリカリポリポリ(えびせん食ってる)」

ジョン「んじゃ、はじめっか?」

レティ「それでh・・・」

真琴「第16話はじまります! ^^ (やったね!)」

16話 涙の部下 上司や仲間にも恵まれていないんですw

うーん・・・やっぱりなんか雰囲気を変だよな？

ポーラだけは『ニター（＊、＼、）』って顔してるんだけど・・・

・

あ そーだ！リリスとケイトの二つ名の由来を聞いちゃおうかな・・・

・

聞いてもへーきだよな？

真琴「ねえねえ、リリスとケイトに疑問って言うかちょっと聞きたいことがあるんだけど良いかな？」

リリス「うむ？良いぞ 私とマコトの間で隠し事はないからな」

ケイト「良いですよ」

真琴「2人の二つ名の事なんだけど・・・」

カリフ、ギブリ「びくっ！」

ポーラ「（；≧▽≦） 3 ぷっ！」

ん？なんでこっちの2人がビビッてんのかな？
で、ポーラはなぜに吹いてる？

カリフ「ひ、姫様！その話は止めたほうが・・・」

ギブリ「この姫様はw・・・また余計なことを・・・」

ポーラ「あら、良いじゃありませんの^^あなた達は　あの事に直接は関係ないとしても

リリースとケイトの名付け親ですわよね？」

カリフ「確かに二つ名を付けたのは私達ですがw・・・」

リリース「うむ、私は王宮の訓練所にちょっとクレーターを作っただけで・・・（#、D、）けっ！」

ケイト「そう、私も挑んで来た騎士団員を少し凍らせただけ・・・凸（。D。#）いつかブツ殺す」

カリフ「いやいやいや！あれは姫さm」なにかしら？（ニコッ^^）
「いえ、何でも無いです」

――――姫様説明中――――
――――

真琴「ってことは　騎士団長と魔術騎士団長の嫉妬でリリースとケイトが騎士団巻き込んで

大ケンカをおっぱじめちゃったと言う事なの？・・・リリースは剣撃でお城をクレーター

だらけにして　さらにケイトは魔法でまわりを氷付けにしち

やったってかW？」

リリス「うむ、あの団長共は隊長だった我々の才能に嫉妬していたからな」

ケイト「そう、職場の上司に恵まれなかった・・・」

真琴「まさに オー人事 オー人事って感じだね・・・」

ポーラ「おーじんじ？って何ですか？」

真琴「え？あ、えーと・・・上司に恵まれない時にする お呪いかな？^^;」

カリフ、ギブリ「（おーじんじおーじんじ！）」

ポーラ「ん？カリフ、ギブリ・・・あなた達 今 何かおっしやいました？」

カリフ、ギブリ「（ギクッ！）いえ！何も！」

ポーラ「・・・まあ良いですわ・・・」

真琴「で、ケンカした後はどーなったの？」

リリス「うむ、それでケイトと2人で騎士団を辞めて冒険者になったんだが・・・」

ケイト「そう うわさで聞いた 私とリリスを面白そうだからって 騎士団長達にけしかけた人物が

いるらしいと・・・もう気にしてないですけど（ジト目でジーっとポーラを見る）」

ポーラ「（びくっ!）」

カリフ「姫様・・・藪を突付いて蛇を出す・・・だから 止めたのに・・・」

ギブリ「ノーミソ無いなw・・・この姫様おてんばは」

おう、やっぱりポーラが裏で糸引いてたのね・・・いたずらが好きなんだねゝ

カリフさん達も苦勞してるんだねゝ・・・でも、なんか更に気まづくなっちゃった感じがする・・・話を変えるかね？

真琴「まあまあ・・・その話はそのくらいにして・・・食べて飲んでね^^」

ポーラ「あ、これ おいしいですわ」

真琴「それは『さきいか』だね^^」

ポーラ「さきいか？とは・・・なんででしょう？」

真琴「えーと、海に居る軟体動物を味付けして干したもの？かな・・・」

ポーラ「あら、海の物なんですね・・・」

カミヤ「で、そろそろ良いかな？ 挨拶しても^^」

真琴「おう！びっくりしたーw・・・って兄貴？」

ポーラ「兄貴？マコトのお兄様ですか？」

真琴「いやいや・・・兄貴って呼んでるけど これはあたしの親父さん」

ポーラ「えーと、お父様？ってことは・・・国王陛下！？」

カミヤ「私がマコトの父で ヨコタ国 国王のヨシハル・カミヤです^^」

カリフ、ギブリ「（ビシッ！）」

あら、固まっちゃったね・・・うん、固まりついでに・・・

真琴「ジョーン！レティー！紹介するからこっちに来てー！」

ジョン、レティ「オツケー^^」

真琴「ポーラ 紹介するね こっちのおっさんが『宰相のジョン・フレデリック公爵』」

ジョン「おっさんは無いだろ？お初にお目にかかります ジョンと

申します 姫様^^」

真琴「で、こっちの美人さんが『国防相 將軍のレティシア・フオンダ公爵』ね^^」

レティ「はじめまして レティシア・・・レティと呼んで下さいね^^」

ポーラ「私は この国の第一王姫のポーラ・トライデント・シャマルです^^」

カリフ「近衛騎士団ポーラ姫付きのカリフ・ビトゥルボです」

ギブリ「同じく近衛騎士団ひめのおもりやくのギブリ・エッセエスです」

ポーラ「ギブリ！だれがお守り役ですの！」

ギブリ「ふーw・・・たまには尻拭い役の身にもなってほしいもんですな・・・」

真琴「お！あたしギブリさんとはめっちゃ気が合うかもしれない！」

がばっ！

真琴「うわっ！めっちゃ油断した！・・・兄貴ってば！はなれろ！」

カミヤ「ほかの男と付き合うなんておとーさんはゆるs「ばかたれ！（バキッ！）」ふえぶっ！」

カミヤ「だから ハリセンは痛いって・・・」

真琴「痛くしてんの！で、誰が付き合うだ！あたしは気が合うって
言っただけ！」

がばっ！

真琴「うをっ！あーもう、しつこい・・・ってメアリ？」

メアリ「マコトさんが男の人と付き合うなんて絶対許しません！」

真琴「えーと・・・メアリさん？あたしは誰とも付き合いませんよ
？」

メアリ「は！ご、ご、ごめんなさいw・・・私ったら 慌ててしま
って・・・」

メアリさん・・・言い訳になってない様な気がするんですけど・・・
ん？・・・

みんなそっちで何を話しているのかな？

レティ「ポーラさんあれがヨコタ国名物の王族漫才です^^」

ポーラ「ほう！とてもおもしろいですわ！」

カリフ「王姫が国王陛下をひっぱたくんですか！」

ギブリ「俺もどっかの王姫おこきみをめっちゃ叩きたい・・・（ぼそっ）」

リリス「うむ、メアリも漫才あれに　すんなりと混じる様になったかハ
ハ」

ケイト「でもメアリはもう少しマコトに張り付いていた方が良かった」

メアリ「解りました！もっと張り付きます！もっとすりすりします！
ぺろぺろもやります！」

真琴「・・・・・・・・」

・・・いいですけどね・・・いいですk・・・いいd・・・泣きた
い！・・・orz

♪チャ～チャララチャ～チャ～♪

仲間に恵まれなかったら・・・スタ○フサービスへハハ

022ー022（オー人事オー人事）

ピポパピポパ・・・がちや・・・

オー人事「はい、スタッフサ○ビスです^^」

真琴「えーと、仲間に恵まれないんですが・・・」

オー人事「はい、あの仲間では無理です^^」

真琴「・・・・・・・・（；_；）なんですと？」

ぐすんっ・・・・・・・・もっかいいいかなw・・・・・・・・orz

と、まあ 飲み会はずづのですw・・・

16話 涙の部下 上司や仲間に使われていないんですw（後書き）

真琴「宿屋の飲み会つづいてるねー」

レティ「ですよねー」

ジョン「まー、ほぼ終わってるから次回は話変わるんじゃない？」

ポーラ「おーほほほほほほ！まだわたくしのターンですわ！」

カリフ「いやいやw」

ギブリ「もう おわっとるがなw」

リリス「うむ、そろそろ私のターンか？」

ケイト「リリスは寝相が悪いから無いんじゃない？」

リリス「ケイトの寝相だって変だぞ？」

ケイト「じゃあ次回の主役はだれがするの？」

メアリ「わ、わ、わわわ私がやりたいです！（マコトさん相手に

へ）」

カミヤ「うん、女の子なら良いかな？」

マコト「やだ！（σ、□、）σ」

どーもです^^作者のM2ー1015です！

更新が少し遅くなりまして・・・さらに中身も少なめで
すいませんです

急な出張でして・・・いや、言い訳はしません
申し訳ありませんです

さて 次回は宿屋での1泊と次の日にギルド訪問の予定です

それでは皆様にたくさん笑顔が訪れますように^^
では^^ノ

17話 涙の再開 要らないおまけって ほんとに要らないですよねW! それ

真琴「ういゝ・・・」

レティ「あら？元氣ないわね？」

ジョン「ん？マコトどした？」

真琴「ん・・・飲みすぎたw・・・」

ロッテ「お薬あげましょうか？」

真琴「・・・知らない・・・それよりも・・・」

ジョン「それよりも？」

真琴「今回はあだし、出演しないほうが良い予感がする・・・」

ポーラ「おーほっほっほっほっほ！代わりにあたくしが出てさしあげますわ！」

カリフ「ひ、姫様・・・少しはひかえてくださいよw」

ギブリ「まわりの空気読め！この姫様は！^{あほ}」

ずるずる・・・↑（2人に引きずられて退場するポーラ）

レティ「んじゃ、とっても嫌なんだけど私が主役やってあげるね

嫌なんだけどね」

ジョン「・・・・・・・・・・」

カミヤ「・・・・・・・・・・」

ユキ「それでは皆さん！17話のはじまりです^^」

キヤーq(≧▽≦*)(*≧▽≦) pキヤー

全員「「→だれ?」「」

17話 涙の再開 要らないおまけって ほんとに要らないですよねW! それ

Sideファスト

おはようさんっス!

昨日はかなり遅くまで みんなで飲んだので まだ眠いっス!

と言うか・・・二日酔いで頭が割れそうっス・・・熱いシャワーが
欲しいっス!

なのに朝も早はよから師匠に連れてこられてしまったっス!

何処へって?

女の子が4人で寝ている部屋の前っス・・・マズイって言うか・・・
命が危ないって言うか

・・・デンジャ―とっても危険だと思っちゃ思うっス!

カミヤ「(皆さん おはようございます・・・只今 朝の5時です・
・・・(〓^ω^〓)」

レティ「(おはようございます^^私達は 今、マコトと3人娘が
寝ている部屋の前にいます)」

ファスト「(師匠・・・ほんとにやるんスカ?・・・ってか『皆さ

ん』ってだれっスか!?)」

カミヤ「(やるよ^^・・・ほれ、ファスト ピッキング 強制開錠しろ^^)」

レティ「(大丈夫よ　夕べあれだけ飲んでたし・・・簡単には起きないわよ^^)」

ファスト「(うw・・・ピッキング 強制開錠っスかw・・・)」

師匠「・・・なんでそんなに楽しそうなんっスかw・・・
レティさんもなんでそんなにキラキラ目してるんスか?
解ったっスよ・・・開けるっス・・・やるっス!・・・ここをこー
して・・・

かちやかちや・・・がちや!

ファスト「(開いたっスよ・・・)」

あゝあw・・・これで俺も共犯っスねw・・・(; ω ;)(ショ
ボン

カミヤ「(1、2、3、で開けるぞ?)」

ファスト「(いち!)」

レティ「(にい!)」

カミヤ「(さん!)」

かちやり・・・・・・・・カプツ!

レティ、ファスト「カプツ?」

S i d e 真琴

えーと、今の状況は飲み会と言う名の夕飯後に部屋にもどって寝る
所なんだけどw・・・
こいつらときたらw・・・

リリス「うむ!城の將軍共^{やつら}いつか全員撲殺!」

ケイト「ふふふ・・・いつかぶっ殺す・・・ふふふ」

メアリ「あー、マコトさん 今晚こそ抱いてください！^^／／」

真琴「・・・だれだw・・・こいつらにここまで飲ましたの・・・
orz」

あーw！この酔っ払いどもが！

ポーラ達と仲良く？おしゃべりした後で夕飯になったんだけどね・・・

夕飯の後でまた飲み会になっちゃったんだよねw

ケイトとリリスはなんかグチってるし・・・メアリはくつついてくるし・・・

（まー学校でもくつついてきてた娘が居たっけ・・・ユキちゃん元気かなあ・・・）

だがしかし！部屋まではこぶのだって大変だったんだからね！

あーもう！きみたちはもう早く寝なさい！

あ、そうそう ポーラ達はお忍びで来てたから夕飯はお城で食べないと怒られるらしいので

あたし達がここに来た理由は 後日お城で伺いますって事で帰りました^^

リリス「ぐがぐ・・・ぐがぐ・・・」

ケイト「・・・（ピーン！）・・・」

メアリ「すうすう・・・」

真琴「ふうW・・・やつと寝たかW・・・さて、あたしも寝るかな・・・」

リリス「ってば『ぐが』って・・・相変わらずですねW・・・それにしてもケイトってあんな寝方で肩凝らないのかな？」

そだ「取り合えずメアリの手足は縛って置こうね^^」

また「こないだみたいにくっついてB地区を舐められたらたまらないモンね・・・」

んじゃおやすみなさい！^^

「マコト・・・」

「んにゅ？」

「マコト・・・起きて下さい」

「ありや・・・アルさん？」

「こんばんわ^^」

「どーも^^（あー、やっぱアルさんはイケメンだねえ）癒されるう〜）」

「・・・照れます・・・（//ノω）σ― モジモジ」

「心の中読まれた！（てか、照れてるイケメンもそそるなあ／／／
／」

「いちおー神なので・・・」

おう、今までも読まれてたのネン・・・恥ずかしい／／／／／

「それですね ももちゃんなんですが・・・あのですね・・・」

「え！会えるんですか！」

「・・・えーと、それはOKなんですが・・・なんと言うか・・・」

「アルさん？歯切れが悪いですよ？・・・なんかありました？」

「ごめんなさい！m（　　）m」

へ？アルさんが土下座で謝ってる？・・・ふむふむ・・・ほーう・・・なるほど・・・

えーとね アルさんが言うには ももちゃんが神界でたくさん神様に可愛がられたらしくて

いろんな能力を貰^{ちーと}っちゃったみたいなんだよね・・・ただの猫ではなくなつて

神獣？以上になっちゃったらしいんだけど・・・言わば『超神獣』

って感じ？

「アルさん ももちゃんは元気なんですよ？ だったら別に気にしないよ？ ^^」

「ありがとうございます！・・・ついでもうひとつあるんですが？」

「へ？まだあんの？」

「はい・・・ももちゃんをここへ連れてくる時にももちゃんと一緒に居た方を間違って

連れて来てしまったんですが・・・送り返そうとした所 いやがってしまっ・・・

どうもマコトさんのお知りあいらしくて・・・逢わせろー！って暴れてしまっ・・・
かなりの被害が・・・」

「ん？だれなんだろう？」

「霧矢ユキさんって方なんですけど・・・ご存知ですか？」

「えー！クラスメイトで拳法部のユキちゃん！？」

「やっぱり知り合いだったんですね・・・」

ももちゃんは嬉しいけど・・・ユキちゃんか・・・ややこしいのが来ちゃったなあ・・・

まあ基本的にやさしい娘なんだけどね・・・あたし絡みで怒ると

笑顔で相手を

ぶん投げるからなあゝ・・・親父さんの弟子であたしの家や道場にも良く来てたし・・・

さらに学校じゃ『真琴親衛隊』の隊長で裏番だったしw・・・んゝ、メアリ達とけん制しあってくれればいいけど・・・共闘されたら絶対やばいよね・・・

何がって？主にあたしの貞操がですw・・・

だって、ユキちゃんってば百合っけがあるんだもんw・・・

「えーと、アルさん・・・ユキちゃんには何か能力ちいとを与えちゃったのかな？」

「私はレティさんと同じ位の能力だけはあげましたけど・・・」

「そか・・・」

うん、あたしや親父さんと同等だと絶対にまずいもんね・・・あの娘の性格だと

魔力があたし並にあったらどっかの国を1人で滅ぼしそうだもんね・・・

まあ、ユキちゃんの事は後で考えるとして・・・

「で、アルさん ももちゃんとは今すぐ会えるの？」

「会えますよ^^呼んでみてください」

「ももゝゝ！あたしだよゝゝ！おいでゝゝ！」

「もも！ももちゃん！タンマ！ちよつと待って！なめんの痛いから！」

「すみません・・・神々のせいで　この様に・・・あと、人型にも変身できます・・・」

「へ？人間に変身できるの？」

「はい・・・人型なら会話もできますよ」

うわゝ、なんかめっちゃテンプレなんですけど・・・親父さんの喜ぶ姿が目には浮かぶぞ・・・

（|| ^ ω ^ ||）どやゝ　↑こんな感じでw・・・

「人外の生き物と話す『念話』の魔法をマコトさんに施しておきま
すね・・・それなら
この状態のももちゃんとも会話できますし、その方がこれからも色
々と便利でしょう」

「あ、それは便利かも^^」

「では、えい！・・・できましたよ^^」

はや！・・・相変わらず早いですねー・・・どっかの牛丼屋みたい・
・

「では、ももちちゃんとユキちゃんをマコトさんの部屋へ送りますね・
・えいっ！」

「はや！」

ん？・・あれ？何か大事な事を忘れているような・・ん？・・

「えーと アルさん、あたしは今回も魂だけがここに来てるんですよ？」

「はい^^」

「で、身体は部屋のベットの上ですよ？」

「はい^^」

「あたしの魂が戻らないとまったく動けないんですよ？」

「はい^^」

「って事は身体を好き放題さわられても何も出来ないんですよ？」

「はい^^」

「で、アルさんは ユキちゃんをあたしの部屋へ送っちゃたど？」

「はい^^」

って事は あたしの身体はあっちにあって動けなくって・・・そこにユキちゃんが居る!?

やば! メアリよりもやばい! ペろペろだけじゃ済まないかも!

「ア、ア、アルさん! あたしを直ぐに帰してください!」

「はい? もう帰るんですか? ゆっくり上司のグチでも聞いてほしかったのに・・・」

「いやいやいや! あたしの身体が危ないんです! デンジャーなんです!」

「でも もう少し話したいことが・・・」

「いやいや! それはまた後で! 早く帰らせて!」

「?・・・なんだか解りませんが・・・分かりました・・・ではまた^^ノ」

「またね!・・・あ、もちゃんの件、ありがとでした^^ノ」

急がないと!・・・ああw・・・でもあたしって低血圧なんだよねw・・・

起きれるかな?

S i d e レ テ イ

ファストの強制開錠^{ビッキング}の腕はさすがね・・・部隊で1番だけの事はあ
るわね

さあ、みんなの寝起きはどんなかしらね・・・わくわく^^

カミヤ「(1、2、3、で開けるぞ?)」

ファスト「(いち!)」

レティ「(にい!)」

カミヤ「(さん!)」

かちやり・・・・・・・・・・カプツ!

レティ、ファスト「「カプツ?」」

・・・@!・・・カミヤの背後に・・・何か押し掛
かって・・・

って！なに！何ナノ！あの生き物は・・・カミヤが頭からかじられ
てる！

拳銃を・・・あ、私たち丸腰だったんだわ・・・

カミヤ「あー、レティにファスト・・・甘噛みだから心配は要らな
いと思う・・・たぶん」

レティ「え？だって・・・頭から血がしたたってるんだけど・・・」

カミヤ「あー その なんだ、こいつは・・・多分もちゃんだと
思う・・・」

レティ「ももちゃんってペットの？・・・こんなに大きかったっけ
？」

カミヤ「真琴から聞いてたんだが神様が預かってくれていたらしい」

レティ「orz・・・規格外は飼い主に似たのね・・・はあ・・・」

ファスト「師匠のかっこ見てると銀○の銀さんがさだはるに噛み付
かれている様にしか

見えないっす！むしろそのままっす！」

カミヤ「俺が坂田○時なら ファストは志○新八だぞ？・・・いや、
マダオか山崎か？」

ファスト「あたしや弄られ役っスか！」

カミヤ、レティ、もも「「うん、そうだね^^（がうつ!）」」

ファスト「・・・もういいっス・・・」

ごそごそもぞもみもみ

マコトの布団が動いてる?・・・あの低血圧が動いてるなんて・・・

レティ「マコト?・・・起きたの?」

Sideユキ

あーん!お姉さまお姉さまお姉さまお姉さまお姉さまお姉さまったらおねい
さま~~~~!

ユキ感激です!やっと会えました~~~~!

キヤーq(≧▽≦*)(*≧▽≦)pキヤー!!!!

あ、ユキはレ○ぢゃないですよ？ただお姉さまに憧れてるだけですよ？勘違いしないでね？

ユキは○ズぢゃないんですよ？・・・大事なことだから2回言いましたよ？

それにしたってお姉さまに直ぐ合わせないなんて　あの神様達ってけちんぼなんですよん！

でもアルって神様は色々と説明してくれて　魔力までくれたけど・・・

・
他の神様達やつらったら知らん振りして！

まあ、半殺ぶっころしてあげたら　なんか色々と能力くれたから・・・ま、良いのかな？

いやいや！それよりもおねいさまです！

うん、熟睡してますね〜〜ハハ・・・ごくり・・・くんくん・・・

良い匂いですハハ

では、服を脱がせて・・・あ〜ん！下着は薄いピンクで上下お揃いですか！

キヤーq ($\cong \nabla \leq *$) ($* \cong \nabla \leq$) pキヤー

「ハアハア・・・じゅるっ・・・では、いただきます！」

両手を合わせて拝みますハハ

で、ブラをずらしてっど・・・くんくん・・・ハアハア・・・ペロペロ・・・ハアハア・・・

いやん！B地区が硬くなってきましたよ！・・・感じてるんですね

！・・・ハアハア・・・

もみもみ・・・あゝ小さいながらもやわこい・・・ハアハア・・・

かちゃ・・・かぷっ！

あら？だれか来ました？ちっ！良い所でじゃまですか！・・・でも『かぷっ』てなんです？

ん？話し声も聞こえますね・・・

レティ「マコト？・・・起きたの？」

やば！こっちに誰か来る！

もぞ・・・もぞもぞ・・・「ん、んん・・・」

げ！真琴お姉さまが起きそうです！

ユキってばもしかしてピンチ？

神様！ユキのお願いです！このピンチを救ってください・・・

って、あのボケた神様達^{やつら}じゃ無理なんじゃね？

あーW！もっとボコつとけばよかった！

そうだ！ワンタンメン？いや・・・ワンタンスープ？・・・ワンタン餡かけ？・・・

えーと、なんだっけ？・・・あ！そうそう　ワカンタンかって神様からもらった性転換魔法を
真琴お姉さまに・・・えいっ！・・・あーん！男のお姉さまも素敵です！

キヤーq ($\cong \nabla \leq *$) ($* \leq \nabla \cong$) pキヤー

で、ユキにはこの変身魔法で・・・えいっ！

これで完璧なのです！・・・たぶん？

キヤーq ($\cong \nabla \leq *$) ($* \leq \nabla \cong$) pキヤー・・・

って、つづきは次回ですって？

17話 涙の再開 要らないおまけってほんとに要らないですよねW！

それ

真琴「・・・やっぱり嫌な予感が当たったw・・・」

レティ「次回はどうかちやうのかしら？・・・心配だわ」

メアリ「ユキさん！ゆるしません！」

ユキ「んー、でも男の真琴お姉さまも素敵で良いですよ？」

メアリ「・・・ユキさんとはうまくやっていけそうな気がします・・・」

・」

レティ「あーあ・・・やっぱりそうだったかw」

ジョン「結託したな・・・」

カミヤ「でも真琴は男になってもあんまし変わりそうにないんじゃない？
ね？」

真琴「・・・（ピシッ！^^#）・・・」

ジョン「あーマコト、一応聞くが・・・今回は何持ってた？」

真琴「これ」

ジョン「M109A6 パラディン・・・155mm自走榴弾砲ね・

・・・」

レティ「みんなー！危ないから離れるわよー！」

真琴「食らえ親父！30発は覚悟しろよー！」

どーもです^^作者のM2ー1015です

まずご報告です

プライベートがちっとばかり忙しくなってきました

更新が少し遅くなりそうです まあ出来るだけ早く更新はするつもりですが^^

で、今回も新キャラでした！

ちよっとユキちゃんのキャラを濃くしすぎましたかね？

今回は『男の娘は真琴』『ももちゃんとヤキモチ娘』『義春が女？』の3本です

(うそぴょん^^)

是非『お気に入り』に登録して評価をお願いします

皆様の感想などもお待ちしております^^

それでは皆様にたくさん笑顔が訪れます様に^^
では^^ノ

18話 涙のもっこり あぶのーまるな同級生と王都でコメディアン！えーw

真琴「。。。 (ノド) えゝん !・・・股間に変なものがゝw・・・」

メアリ「そ、それも運命です・・・マコトさん・・・」
ユキ「ハアハア・・・」

リリス「ぐがゝ・・・ぐがゝ・・・」

ケイト「・・・はあゝw・・・」

真琴「。。。 (ノド) ひゝえゝん !」

レティ「とんだ災難ね・・・マコト・・・」

ジョン「どーなるんだ？ いたい・・・」

カミヤ「まあ、ユキちゃんは前からいたずらっ娘だったしなw・・・」

ファスト「とばっちりはいやっス！」

真琴「。。。 (ノド) ひゝぎゃゝん !」

レティ「どーする？ マコト泣きやまないわよ？」

マック「レーション食ったら直るって^^」

全員「「直らんわ!」」

ポーラ「それでは第18話はじめますわ！」

(おゝほほほほ！ あたくしがタイトルコールを言って差し上げましたわ！)

18話 涙のもっこり あぶのーまるな同級生と王都でコメディアン! えーw

S i d e 真琴

ん・・・んんゝ・・・なんか身体が重い様なw・・・ん?でも部屋にもどれたのかな?

「ん・・・んんゝ・・・」

もぞもぞこそこそ

ん・・・あう?・・・だれか身体に引っ付いてるのかな?
あー・・・寝起きはだめだw・・・頭が働かないw・・・

あれ?違和感?・・・

ん?・・・あり?・・・んん?・・・なんだ?・・・身体が・・・
なんか変だぞ?

ん・・・なんか大事なことがあったような・・・
でも 眠いから・・・ま、いーか?・・・
いやいや!・・・この股間にある感触って・・・これってまさか!

ばさっ！

毛布を一気に剥いで 上体を起こし・・・ん？・・・あれ？・・・
えーと・・・

隣で横になってる人って・・・

真琴「へ？あたし@@！？・・・あたしがいる？なんで？」

偽真琴「あん・・・夕べは す・て・き だったわん・・・（＊／
▽／＊）ポッ」

真琴「へ？」

夕べ？素敵だった？・・・それって情事の後のセリフだね？
あたしとあたしでやっちゃった！？

真琴「うん、夢だね・・・んじゃおやすみく^^」

偽真琴「いゃん・・・また寝るの？」

真琴「うん 寝ます・・・」

やだ、声まで一緒だよくくw・・・でも 聞こえない聞こえない、
なぐんにも聞こえませんか！

よし、奥儀『現実逃避』だ！だって これは全部夢なのですから・・・

・たぶん・・・

レティ「マコトが2人？・・・あれ？でも何か変な違和感が・・・」

「カミヤ「・・・この真琴達は 片方は男で、もう片方は女だな・・・」

ファスト「@@!マジっスか!？」

あゝんw・・・レティw・・・やっぱりあたしってば2人居るのね
w・・・

へ？親父さん？・・・片方が男？・・・なんつった？・・・今、男
って言ったか？

は！この違和感もっさりの正体はもしかして・・・

はずかしいけど・・・イヤだけど・・・さわってみまーす！・・・
ドキドキ・・・握りっ！

あ、あ、ある！なんか棒状のモノが・・・ある！・・・イ、イヤー
ーーーーーッ！

。。。・（（p（≡□≡）q））。。。ウワン！！

ええ、ええ、あたしやめっちゃ固まりましたさ！

だって ふれちゃったんですよ？触さわっちゃたんですよ？に、握っ
ちやたんですよ！？

はぢめて触った男のモノが自分のなんて・・・泣くぞ？・・・

orz

カミヤ「よし！おまえら2人とも動くなよ？動いたらめるからな！
・・ファスト！レティ！

武装して来い！で俺の武器も持ってきてくれ！

レティ「解ったわ！」

ファスト「了解っス！師匠のも持って来るっス！」

親父さんってばマジの殺気ですよ・・・マジで怒ってるの久しぶり
ですねw・・・

でもどうしよう・・・あたしが男の子になるなんて・・・
それにこのもう一人のあたしって・・・どーゆー事なの？
うw・・・まだ寝起きだから頭がうまく働かないよ・・・

真琴「兄貴・・・w・・・あたし、男の子になっちゃったw・・・グ
スン・・・」

偽真琴「あら、真琴は私ですよ？」

ケイト「うるさいです！・・・ゆっくり寝てられないjy・・・は
あ？・・・マコトが2人？」

メアリ「www！www！www！」

ケイト「！メアリ！誰に縛られたの！・・・今、助けるからね！」

カミヤ「ケイト・・・そこにあるマコトの武器を先にこっちへ！」

ケイト「解った・・・メアリは少し待ってて」

あゝw・・・メアリ縛ったのってあたしだw・・・
そりゃそーだよなw・・・メアリは縛られてるし・・・あたしは2
人いるしw・・・
だれがどー見たって不審な状況だよ・・・

ケイトがあたしの武器を退かして　メアリの拘束を解いて・・・
って親父さん！背後からもちゃんにかじられてますよ・・・がじ
がじってw・・・
頭から血がしたたってますよ？
そこはだれも突っ込まないんかい！？・・・いや、突っ込んだら負
けなんだろうーなw・・・

ケイト「カミヤさん・・・これはいい・・・」

カミヤ「俺にも解らん・・・どっちかが本物の真琴だと思うんだが・
・・・」

メアリ「え？・・・マコトさんが2人！？・・・1個もらってもい
いですか？」

リリス「ぐごく・・・ぐごく・・・」

全員「「・・・リリスw・・・」」

リリスはこのうるさい中でよく寝てられるなw・・・

う？メアリ？・・・なんであたしをじっと見つめるかな・・・

メアリ「あ、あ、あ、あそのマコトさんって男のマコトさんですか！本物の男ですか！？」

$\varepsilon \parallel \varepsilon \parallel (\neg \equiv \nabla \leq)$ ノ キャー！（抱きしめ！）私、これが良いです！ください！」

そう言ってビシッとあたしに指をさすメアリ・・・

メアリW・・・おまいはW・・・って言うか 偽者のあたし？も抱きついてるしW・・・

でもさあ・・・女の子って良い匂いなんだなあ・・・やわらかいし・・・

メアリってば可愛いのうW・・・あたし偽真琴もこうして見ると可愛いんだね・・・

まつげ長いし^^・・・キュートな唇だし^^・・・まあ胸は小さいけど・・・

は！いかんいかん！あたしってば考え方も男の子になってる！？

ムク・・・ムクムク・・・

ん？・・・なんか棒状のモノがだんだん大きくなってきているんですが・・・イヤ~~~~~~~~ッ！！

ねえねえ！こ、こんなに大きくなるモノなんですか！・・・あたし大ピンチです！

びーん！

。。。・（（（p（≡□≡）（g））。。。ウワン！！

カミヤ「メアリは取り合えずこっちに来なさい・・・真琴達もみだれた服を直しなさい」

偽真琴「わかったわ」

真琴「へ？」

ちらっと身体を見ると・・・服着てないじゃん！

イヤ~~~~ッ@@！あたしってば下着姿だったのね！

上はちぎれて壊れちゃってるしw・・・アンダーが大きくなったからかな？

ショーツ下は何かがビックにもっこりしてるしw・・・orz

取り合えずベットサイドに落っこちてるカーゴパンツを履いて・・・
ブラは棄てるかw・・・おきにだったのにw・・・で、ジャケットを羽織って・・・
うん、取り合えずこれでいいかな？

がちや・・・

ファスト「師匠！カタナとM16A2（ライフル）っス！」

カミヤ「おう、ありがとう」

レティ「で？マコト・・・どーゆー事なの？これは・・・」

レティW・・・どーゆー事なのかはあたしがとつても知りたいです
W・・・

あれ？・・・そー言えば・・・ユキちゃんはどこ行っただ？
アルさんの話だとここに居るはずだね？・・・ももちゃんはちや
んと居るんだしね・・・

は！これってもしかして・・・ユキちゃんのしわざ？

S i d e ユキ

やばいです！大袈裟な事態になってます！赤いヘルメット被ってど
っきりの看板だしても

『ノロさん』に変身しても これは納まらないとめっちゃ思います！
『獅子ドジョウさん』ならもしかして・・・って何十年前のTVで
すか！

無理無理！どーしよう・・・制裁確実ですW・・・
だって外人さん達から銃と剣を向けられてるんですよ？
それに 真琴お姉さまのお父さん、物凄く怒ってる？・・・

どーしよー・・・潔く謝っちゃうかな？

Side 真琴

偽真琴 「あの・・・すいませんでした！m（　　）m」

全員 「「へ？マコト？」」

偽真琴 「いえ・・・私は真琴お姉さまに変身してるだけなんです・・・ごめんなさい」

ケイト 「！変身魔法！・・・使える人がこの世にいたなんて・・・」

カミヤ 「真琴お姉さま？・・・って事は・・・ユキちゃんなのか？」

ユキ 「はい・・・今、変身を解きます・・・えいっ！」

真琴 「やっぱりユキだったんだね・・・」

ユキ 「へ？お姉さま！私だって分かってくれていたんですか！・・・これは愛です！」

キヤー q ($\equiv \nabla \equiv *$) ($* \nabla \equiv$) p キヤー

真琴「いやいやw・・・アルさん・・・神様から聞いたんだよw・・・」

ユキ「(・ω・)しょぼーん・・・」

カミヤ「ユキちゃんだったのか・・・びっくりしたぞ・・・」

レティ「その娘ってマコト達の知り合いなのね？」

ファスト「知り合い・・・撃つとこだったっス・・・」

みんなも取り合えず敵意の無い事が解ったので矛を収めたね・・・アルさんから聞いたユキちゃんがこっちに来た訳をみんなに話してつと・・・

ユキちゃんからも話させて・・・ふくん・・・へ？・・・あらあら・・・おう！

ってか、ユキちゃんってばあたしに会いたいだけで来ちゃったのかい！

神様に魔法も教わったってか！・・・ケイトがジト目で羨ましそうに見てるぞ？

真琴「で、ユキ！あたしも早く女の子に戻してよ！」

カミヤ「へ？もう、戻ってるんじゃないのか？だっていつもと変わる「ボケーッ！（バシッ！）」

フェブw！・・・」

真琴「兄貴！おまいは！はったおすぞ！」

カミヤ「www・・・男の娘だと力も強いn」「ああ！なんだって！凸（∩_∩＃）」ごめんなさい」

このクソ兄貴はWまったく！・・・
でも男の身体の方が確かに体力があるな・・・動きも速いし・・・
いやいや！あたしは女の子に戻るんだい！

真琴「さあ！ユキ！さっさと元に戻しなさい！」

メアリ 「ええええ
W
・
・
・
」

真琴「メアリってばW・・・ユキちゃん、やって・・・」

ユキ「はい・・・分かりました・・・ではいきますよ・・・えいっ！」

がば！

真琴「ば、ばか兄貴！・・・今抱きついたら・・・あーあW・・・遅かったW」

カミヤ「あら？・・・おお　真琴！俺の胸　真琴よりでっかいZ」「
ばかもの！（ぽからーん！）」

うぐはっ！・・・」

真琴「兄貴はどうして話をややこしくしようとするかな！」

カミヤ「だって「だってじゃない！」すいません・・・でも、どたぶんって・・・」

真琴「あ！なんだって？そして全国の三浦さんファンに謝れ！」

カミヤ「さーせん！」

真琴「ももちゃんがくつついたままなんだからね！あーあ、ももちゃんが♂になってるw・・・」

なんだかんだでユキちゃんに魔法で戻して貰ったんだけど・・・

メアリ「ううw！男の娘のマコトさんカンバーク！。。。（。ω。）。。。ビエーン！」

ユキ「・・・あのもっこりが忘れられません・・・（//ノω）σ—モジモジ」

真琴「・・・」

ケイト「変態まhもとい、変身魔法・・・覚えたいです・・・（イタズラに使えるそうです）」

リリス「ぐがぐ・・・ぐがぐ・・・ぐがぐ・・・」

全員 「「「リリース！まだ寝てたんかい！！」」」

リリース「・・・うみゆ？・・・」

さてさて・・・取り合えず朝食の席でユキちゃんともちちゃんを皆に紹介しましたけど・・・

俺もマコトの男の娘を見たかった・・・ってジョンさんw

ベルさん！なにもう一度魔法をかけろってユキちゃんにお願いしてるんですか！

ロツテにリアもわくわく顔でお願いしないで！

ふーw・・・参ったね・・・めっちゃ疲れるよ・・・

あれ？そー言えば・・・確かもちちゃんって人間になれるんだっただよね？

ももちゃん1歳だからお約束のネコ耳幼女かな？^^見てみたいですね・・・

真琴 「ももちゃん、人間に変身できるよね？」

もも 『できるよ・・・やってみる？』

真琴 「うん^^」

でっかいももちやんが光りだして・・・うっ！眩しいw・・・
光が収まるとそこには・・・

・・・・・・@!・・・・・・は！固まっちゃいましたよ？

だって、でかいんです！・・・何がって？そりゃーあれですよ
胸です！バストです！乳です！おぼ〜いです！・・・

変身したももちゃん は グレーでアメシヨ柄のボディコンっぽいワ
ンピースを着てて・・・

レティも真っ青なクールビューティな女の人で・・・そしてでかい・
・・

GかHはあるんじゃない？

レティがメロンならももちゃんはスイカだねw・・・・・・あ、軽
く凹んできたぞ？

真琴「えーと、ももちゃん？なんで大人サイズなの？特に胸とかw・
・・」

もも「わかんない・・・なんで大人にゃんだ？・・・神様のせい
にゃのかにゃ？」

真琴「・・・あたしも神様に会ってるんですがw・・・・・・or
z」

がば！がば！がば！

真琴 「またかい！ バカ兄貴……って、メアリとユキもかい！」

メアリ「マコトさん！ユキさんには負けません！・・・（＊△。）」

ユキ「あゝん！真琴お姉さま〜！愛してます〜！！・・・（＊△。△）
 || 3 ハアハア」

「ふえぶっ！」

カミヤ「やっぱり貧乳さみしいを気にS「大ばかもの！（ばちこーん！）」

はあはあ・・・こいつらは・・・ブラしてないんだぞ！すれると痛いんだぞ？

ファスト！親父さんを抑えんかい！・・・いや、ファスト君？ふるふると頭を左右に

振らんでも・・・ファストじゃ無理ってか？

ケイトもメア리를・・・ケイトのやつ、楽しんでないかい？

現状でもキツイのに　ユキちゃんが増えたのは　けっこーこたえるぞ・・・

「あれ？ マコちゃん・・・もしかしておっぱいが小さい事を気にしてるのかにや？」

「真琴」

レティ「あらら・・・直球ね・・・」

ファスト「コメントできないっス・・・」

ももちゃんにまで・・・だめだ・・・立ち直れないぞ？

いやいや！がんばるんだ！

ふあいお・・・真琴^{あたし}！がんばれ真琴^{あたし}！・・・空しい・・・

Orz

結局ユキちゃんは　あたしの近衛騎士隊長としてヨコタ国子爵になりましたw・・・

まあ、ももちゃんがユキちゃんを見張るって言うからあたしは承諾したんですが

ももちゃん頼りにしてまっせ^^

で、その後なんですけど親父さんが朝飯を食べ終わってからというもの

ずーっとめっちゃそわそわしてるんです・・・なぜかって？

ギルドですよ　冒険者ギルド！

みんなで行くことになってましたからね・・・騒いでますよwテンプレだーってねw・・・

だから！満面の笑みでおどるな！・・・爆乳姉^{やどのおねい}さんも苦笑ってます

w・・・

ほんとに親父さんってばw・・・

あーw・・・なんか疲れたし憂鬱です・・・お風呂でも入って気分転換したいなあ・・・

でも無いんだよね・・・お風呂w

いつそ作っちゃうか？魔法で作れるんじゃないかな？

後でケイトに相談してみよう^^

カミヤ「ね、ね、もういいよね？早く行こうよね！」

リリス「うむ、ではギルドに行くでしょう」

ケイト「近いから歩きでへーき」

子どもですか親父さんは・・・

ギルドは宿から王宮方面に200mほど行った所にあるそうです

おー、今は朝9時くらいなんですけど結構人がいますね・・・

ん？・・・冒険者っぽい人がこっちを見てるんですが・・・こここそ見てる人や

堂々と見てる人、戦いたいそうな人もいるな・・・

あれか？昨日のCクラス冒険者を1発でのしちゃった件か？

おっさん達にはアンタツチャブルって言ったのに・・・

なーんて言ったら着きましたよ^^ほぅ・・・ここがギルドかゝ・・

宿の幌馬車亭ほどは大きくありませんが それでも結構大きいです
本造ですが 西部劇映画で見た昔の銀行みたい・・・

1階は軽食屋さんを兼ねたサロンが半分でもう半分は依頼の受付
みたいですね・・・

2階には何があるんだろ？

ケイト「みんなは少し待ってて ギルドマスターに盗賊の件とドラゴンモドキの件を

まずは簡単に報告してくる」

リリス「うむ？ ケイト1人で大丈夫か？」

ケイト「最初は私1人でいい・・・1時間位かかるからお茶でも飲んで」

真琴「写真もあるから要るようだったら呼んでね」

ケイト「解った」

ケイトは1人で2階に上がってっちゃいました
ふー・・・いっぷくしますか・・・なに飲むかね？・・・コーヒーはあるのかな？

って親父さん！何はしゃいでうろついてるの！・・・めっちゃドヤ顔してますな・・・

もうw・・・ほっとくか？

あれ？そー言えばユキちゃんって武器もってたっけ？ももちゃんもだね・・・

どこに居るんだ2人は？・・・あれ？女性陣リリスとメアリを除いてみんな居ないぞ？

真琴「ねえ、あたし達以外の女性陣はどこ行っちゃったの？」

メアリ「報告の時間がかかるんで露店を冷やかしに行ったみたいですよ？」

真琴「そかー・・・あたしも行きたかったな・・・あれ？ユキも行ったんだね」

リリス「うむ、そのユキ殿だが 彼女は皆と同じに強いのか？」

真琴「んー・・・ある意味では強いかな」

リリス「うむ？ある意味とは？」

真琴「ユキは相手の命をうばった事が無いんだよ・・・本格的な武装した相手とも

戦った事は無いしね・・・でもねー、殺しあいはやったことが無いんだけど

守るものがあるときのユキはめっちゃ強いよ」

リリス「殺し合いの実戦経験がないのか・・・」

真琴「うん、でもケンカで神様をのしちゃったらしいよ？」

メアリ「か、か、かかかか神様をですか@@!」

真琴「うん^^ユキとの素手でのケンカだったら勝てはするけど苦労はするもん」

リリス「ほう！それは期待できそうだな」

ざわざわがやがや

真琴「そ^^がんばってね」

ってユキちゃんってばどっかの撲殺天使ですかw・・・
まあ、酔っ払い相手ならユキ1人でもへーきだしね^^ももちゃんも居るし・・・

取り合えずユキちゃんの服に強化の魔法をかけて鎧なみにしとくかね・・・

で、あたしはゆっくり見物するとしますかね^^

でもね、酔っ払い共がね 余計な言をのたまっちゃったんですよ・・・

暴漢A「小僧！ガキがしゃしゃりでてくんじゃねー！」

暴漢B「坊主は引っ込んでろ！」

暴漢C、D、E「「そうだそうだ！」」「

なぐんてあたしに言っちゃたんだ・・・よし、痛い目に遭ってもらおー^^

真琴「よし！ぼk・・・」

リリス「うむ、おまえら！夕べの噂は聞いてるか？」

あり？リリスw・・・止めるのか？

ありゃ・・・周りも『ボム』だ!とか あたしの事を『夕べの!』
とか言ってるしw・・・

リリスがニヤリと笑いながらあたしの方を見ながら言います
リリス、怖いぞ?その笑いは・・・

リリス「噂は本当だぞ? Cクラスの冒険者を3秒で5人ほど無力化
したぞ 彼女はな」

真琴「それでもやる? ^^」

暴漢達「」「」・・・「」

リリス「実力差が分かったら慰謝料^{めいわく}おいてさっさと帰るがいい!」

ユキ「女の子に暴力振るったら次はないですよ!」

あーゆーのは何処にでも居るもんだねーw

そうだ 宿屋のおねーさんは怪我とか無かったのかな?

真琴「ロツテさんそのおねーさんは怪我とかなかったの?」

ロツテ「ええ、大丈夫よ・・・突き飛ばされた瞬間にユキがかばっ
てくれたから^^」

真琴「そかー・・・ユキえらいぞ! ^^」

ユキ「真琴お姉さま! ε||ε|| (ノ≧▽≦) ノ キャー! (抱きし
め! すりすりすりすり)」

真琴「おう！こらっユキってば！胸に顔を擦り付けるな・・・ノー
ブラなんだからw」

ユキ「はい！だからやってます！^^」

メアリ「あ！ユキさんずるいです！」

そー言えば おきにのブラ壊した原因ってユキじゃね？
うん、後でお仕置き決定だね^^

がば！

うをっ！油断した！

真琴「兄貴！抱きつくな！はなれろ！今はやばいんだって・・・」

カミヤ「だって男の子扱いされた真琴が不憫d「どあほー！（ぽか
らーん！）」ふぎゅ！」

真琴「だれが男だ！大バカもんがー！！・・・あん！」

ユキ「すりすりすり・・・」

真琴「って、ユキ！まだすりすりしてたんかい！・・・うw・・・
あん！」

ユキ「あーん、真琴お姉さま・・・キヤーq(≧≦≧≦*) (*≧≦≦)

メアリ「あーん！私もすりすりしたいですー」

真琴「・・・・・・・・orz」

ああw・・・ユキがこつちの世界に来て絶対ややこしくなったぞw・

なんとかせねばw・・・あたしがまいっちゃうよねw・・・
どーしよー・・・。(ノ皿) あゝん

Side ケイト

さて、後はマコト達を呼んで細かい部分を話してもらおう
盗賊の件はまだ良いとしてもドラゴンモドキはギルドだけでは手に
負えないかも・・・

王宮で話すのは気が進まないなあ・・・
外に出ると何か人垣が出来ますね

ケイト「マコト、あらかた説明はしたんで詳しくh・・・なにしてるの？リリス教えて」

リリス「うむ、宿屋の女性を助けた後にいつもの漫才が始まったんだ」

ケイト「そう・・・野次馬がいっぱい・・・稼ごうか？」

リリス「うむ^^・・・えーみなさん！これが名物ド突き漫才だ！」

ケイト「おもしろかったら御捻りをよろしく」

メアリだけでなくユキさんも混じって・・・なかなかやりますね^^
これはけっこう稼げます！・・・マコトさまさまです・・・ふふふ
^^

417

Side 真琴

『親父さん』プラス『ユキちゃん』イコール『ハルマゲドン？』・・・
いやじゃー！

。。。 (ノム) あゝん！

あたしってば、なんて不幸なのw・・・

リリス「うむ、・・・えーみなさん！これが名物ド突き漫才だ！」

ケイト「おもしろかったら御捻りをよろしく」

へ？リリス！ケイト！・・・首都シャマルでもあたしってばコメディアン認定なの！？

・・・もう大道芸人でも漫才師でもコメディアンでも何でもいいです・・・

あーん！だれかあたしに愛の手を！・・・・・・・・orz

Sideポーラ（その日のお昼近く）

メラ「姫様、なんでも城下で大道芸人による『名物ド突き漫才』なるものがあるそうです」

ポーラ「ほう！それはおもしろそうですわね！」

メラ「なんでもいきなり路上で寸劇を始めるとか」

ポーラ「是非とも拝見したいですわ！騎士団に言ってその者達を探させるのですわ！」

メラ「姫様、騎士団に探させて如何なさるんです？」

ポーラ「とーぜん城にて催させるのですわ！きっと見ものですわね！」

メラ「御意」

Side 真琴

あれ？何か急に寒気がしてきたぞ？……………いやゝな予感がするw…………

ももちゃん、あたしのために今晚ベットで絶対にモフらせてね…………orz

ねえ、もっかい泣いていい？……………。(ノДゝ) あゝん！

18話 涙のもっこり あぶのーまるな同級生と王都でコメディアン！えーw

真琴「おーつーかーれーさーまーでーすー・・・」

ジョン「うんうん、マコトはがんばってたな！」

レティ「えらかったわよマコト！」

カミヤ「俺のほーがえらいけどな」

全員「「「「「「「」」」」」」」

ポーラ「おーほほほ！あたくしのほーがえらいですわ！」

カリフ「・・・姫様w・・・」

ギブリ「場の空気読めよ・・・この姫様はw・・・」

ポーラ「あ、あら？・・・なにをする・・・はなせ！はなすのですわ！」

（ずるずるとひきずられて退場するポーラ）

カミヤ「まあ、今回で真琴の秘密は確認はできたしな」

ファスト「秘密って何がっスか？」

カミヤ「ん？真琴が『よせてあげて体型補正下着』を着けてなかったからさ、

中学時代から育ってなかったってのが確認できたのさ^^」

真琴「・・・（ぴくっ！・・・ギロッ！）・・・」

ファスト「あ、・・・し、師匠 俺、用事があるんで失礼するっス！」

ジョン「で？今回は何にする？」

真琴「これ！」

ジョン「F/A18スーパーホーネットね・・・」

真琴「食らえ！クソ兄貴！マーベリック対戦車ミサイル！」

どーもー^^作者のM2ー1015です！

寒くなってきましたね・・・関東では明日から更に冷え込むそうです
皆さんも風邪などひかない様に温かくして過ごして下さいね^^

次回はギルドマスターとのやり取りがメインです^^

入れられる様ならアホの子のポーラ姫との再会ですかね？

設定上の話なんですけどポーラお付きのメラさんって

この作品上では1番の美女なんです^^

でも例にもれずめっちゃ変な所が・・・ネタばれですね・・・

作者からですが是非『お気に入り』に登録して評価をお願いします
皆様の感想などもお待ちしております

このキャラを取り上げて！と言う要望などありましたら
番外編等で書いてみたいと思います^^

それでは皆様に笑顔がさらに訪れます様に^^
では^^ノ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7490w/>

なんで娘（あたし）が後始末w・・・orz 【異世界編】

2011年11月12日21時34分発行